

※ポリシーとの関連性 上級情報処理士資格取得のための必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名 アカデミック・セミナー	期別 後期	曜日・時限 土1	単位 2
	担当者 山口真也（6回）伊佐常利（6回）、島村麗（4回）	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ	
			授業前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 情報専門職として活躍する講師（伊佐先生）の指導の下でより高度なマルチメディア処理を学ぶとともに、高校英語講師の経験を持つ講師（島村先生）の指導の下で英語字幕を加えたデジタル紙芝居を制作し、インターネットを通じて世界に発信するとともに、手製の絵本づくり・県内図書館・学校等への配布を通して、地域文化の蓄積と発信の意義、研究の手法についての理解をさらに深める。	メッセージ 毎回の授業での学び、授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指しますので、他の資格科目と同様の学習態度で授業にのぞみましょう。 前提科目「児童文化論」で制作した、沖縄の昔話を題材とするソフトウェア（アニメーション）の素材を活用します。
	到達目標 以下のアカデミックスキルの修得を目指す。 ①フォトショップ・イラストレーターを用いた高度な画像（イラスト）処理能力 ②DTP（デジタル書籍編集）の基礎知識、本の仕組みに関する知識、製本技術 ③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力・コミュニケーション能力	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・イラスト作成方法① Photoshopを利用したイラスト作成	イラスト作成練習
	2	イラスト作成方法② Photoshopを利用したイラスト作成	イラスト作成練習
	3	イラスト作成方法③ Illustratorを利用したイラスト作成	イラスト作成練習
	4	イラスト作成方法④ Illustratorを利用したイラスト作成	イラスト作成練習
	5	グループワーク① 素材イラストの準備	イラストの素材収集
	6	グループワーク② 素材イラストの準備、簡単な英訳方法の説明	英語翻訳
	7	グループワーク③ 英語字幕の作成① 翻訳のポイント解説・昔話でよく使う表現	英語翻訳
	8	グループワーク④ 英語字幕の作成② 下訳作業	英語翻訳・仮提出
	9	グループワーク⑤ 英語字幕の作成③ よくある間違い・ややこしい表現	英語翻訳・本提出
	10	グループワーク⑥ 英語字幕の作成④ 最終チェック	イラスト最終提出
	11	DTP実習① パソコンを使った書籍編集方法 ページ入れ替え、テキスト流し込み	英語版絵本データの作成
	12	DTP実習② 自習時間①	英語版絵本データの作成
	13	DTP実習② 自習時間② 英語版絵本デモ版の印刷→簡易製本、コンテスト用に展示	展示作業
	14	グループワーク⑦ 製本実習 コンテスト結果発表、データ手直し、絵本の印刷、表紙シール作成	絵本の印刷
	15	グループワーク⑧ 製本実習 糸かがり綴じ、表紙布の作成、製本・仕上げ	製本作業
16	課題提出・発表 デジタル紙芝居のネット公開、図書館・学校への寄贈	YouTubeへ公開・図書館へ寄贈	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布、もしくはデータで提供する。 ・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は前期の「児童文化論」を受講し、単位を得た学生が受講できます。「児童文化論」との同時受講はできません。 ・「児童文化論」と同じグループで、英語翻訳、製本作業を行いますので、特別な事情がない限り、同一の年度内で受講してください。 ※1～6回目を伊佐先生、7～10回目を島村先生、残りを山口が担当します。
--------	---

評価	グループワークでの取り組み（英語翻訳作業、展示作業、製本作業、図書館・学校等への寄贈も含む）と、ソフトウェア・絵本の完成度を総合的に評価する。 平常点 40点（グループワークの参加状況、学習態度、積極性を評価） レポート点① 40点（イラスト課題の完成度を評価） レポート点② 20点（英語字幕入りアニメーション課題の完成度を評価）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 西岡 敏・芳山 紀子	前期	月 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、nishioka@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は修得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 本授業を通して、 ①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。 ②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。 ③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。 ④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎を身に付けることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る
	2	Excel活用術 3-D集計／統合機能
	3	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション
	4	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用
	5	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト
	6	●アカデミックワードと日常語の違い
	7	●句読点の付け方・見やすい表記
	8	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
	9	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消
	10	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
	11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
	12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
	13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
	14	●データの解釈・仮説の検証
	15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
16	予備日	
		時間外学習の内容
		関数演習問題
		演習問題1／演習問題2
		演習問題3／演習問題4
		ピボットテーブル演習問題
		マクロ演習問題
		演習問題（アカデミックワード）
		演習問題（見やすい表記）
		演習問題（分かりやすい語順）
		演習問題（ねじれの種類）
		演習問題（結論を先に書く）
		演習問題（文献情報の記載）
		グループ課題（調査項目を考える）
		グループ課題（アンケート作成）
		グループ課題（データ結合）
		レポート課題
		レポート作成

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福嶋健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』,三省堂,2013.1,本体1,900円+税
----	--

学びの手立て	①4月2日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
--------	--

評価	レポート80%、平常点20% ①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可) ②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある) ③欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。【カリキュラムポリシーとの関連】 4. 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・ライティング	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場(11回)、芳山紀子(5回)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、 ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は修得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
到達目標	本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	●アカデミックワードと日常語の違い	演習問題（アカデミックワード）
	2	●句読点の付け方・見やすい表記	演習問題（見やすい表記）
	3	●曖昧な文の会費・分かりやすい語順	演習問題（分かりやすい語順）
	4	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消	演習問題（ねじれの種類）
	5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈	演習問題（結論を先に書く）
	6	Excel 表計算活用術 高度な関数を自在に操る	関数問題演習
	7	Excel活用術 3-D集計/統合機能	演習問題1 / 演習問題2
	8	Excel活用術 自動集計機能/フィルタオプション	演習問題3 / 演習問題4
	9	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用	ピボットテーブル演習問題
	10	Excel活用術 マクロ機能 【成績評価テスト】	マクロ演習問題
	11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理	演習問題（文献情報の記載）
	12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成（グループワーク①）	グループ課題（調査項目を考える）
	13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング（グループワーク②）	グループ課題（アンケート作成）
	14	●データの解釈・仮説の検証	グループ課題（データの結合）
15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題	レポート課題	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福島健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』, 三省堂, 2013. 1, 本体1,900円+税
----------------	---

学びの手立て	①在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。 ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
--------	--

評価	レポート80%、平常点20% ①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可) ②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある) ③欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。【カリキュラムポリシーとの関連】 4. 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・ライティング	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原(11回)、芳山紀子(5回)	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを習得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は習得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。

到達目標	本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の習得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	●アカデミックワードと日常語の違い	演習問題（アカデミックワード）
	2	●句読点の付け方・見やすい表記	演習問題（見やすい表記）
	3	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順	演習問題（分かりやすい語順）
	4	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消	演習問題（ねじれの種類）
	5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈	演習問題（結論を先に書く）
	6	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理	演習問題（文献情報の記載）
	7	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)	グループ課題（調査項目を考える）
	8	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)	グループ課題（アンケート作成）
	9	●データの解釈・仮説の検証	グループ課題（データ結合）
	10	●結論と序論の書き方・夏休みの課題	レポート課題
	11	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る	関数演習問題
	12	Excel活用術 3-D集計／統合機能	演習問題1／演習問題2
	13	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション	演習問題3／演習問題4
	14	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用	ピボットテーブル演習問題
15	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト	マクロ演習問題	
16	予備	夏休み課題・復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福岡健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』、三省堂、2013.1、本体1,900円+税
----	---

学びの手立て	①在学生オリエンテーションで、本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。 ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
--------	---

評価	レポート80%、平常点20% ①欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。 （ライティングパートでは4回以上、エクセルパートでは2回以上欠席すると不可） ②課題レポートの内容を評価する。 （ライティングパートでは書評、エクセルパートではレポート・ミニテストが別にある）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本文化及び日本語に関する知識を持ち、多文化共生を目指して次世代に継承できる理解力を培う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア太平洋文化論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	2年	メアド: kanemoto@okiu.ac.jp 或いはアポにより研究室5-501	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「ことば」をキーワードとして日本を取り巻くアジア諸国の文化を概観する。特に文字・語彙・文法・音声の特徴を把握する。また文化の接触（言語接触）の痕跡を理解する。	大学入学以前に学習した地理や歴史を復習しておくこと。シラバスを事前に確認し、講義の目的を意識して受講すると理解度が増すでしょう。

到達目標	アジアの諸言語・文化を概観し、対照・比較することで日本の文化・日本語の特徴を認識できるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要および評価の仕方、注意事項の確認	シラバスを読み講義内容の確認
	2	アジアの地形（気候や地形を主に）	既習した関連事項の確認
	3	日本の多文化との接触（変遷）	既習した関連事項の確認
	4	日本語の特徴1	既習した関連事項の確認
	5	日本語の特徴2	既習した関連事項の確認
	6	中国語の特徴1	VO/OV言語 声調言語とは？
	7	中国語の影響2	VO/OV言語 声調言語とは？
	8	韓国語の特徴	地理と歴史を復習しておくこと
	9	中間試験	これまでの講義内容の確認
	10	環太平洋の諸言語1	地図（海流・気候）を確認
	11	環太平洋の諸言語2	地図（海流・気候）を確認
	12	環太平洋の諸言語3	地図（海流・気候）を確認
	13	言語接触について	日本史を復習しておくこと
	14	復習（質疑）	初日からの講義内容を確認
15	復習（質疑）	初日からの講義内容を確認	
16	学期末試験	これまでの講義内容の確認	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内容に関する資料・書籍は講義内で紹介しますが、大学入学前の既習項目や1年次で履修した関連科目を復習しておくこと。必要に応じてポータルで通知します。各自で図書館にある関連書籍を確認しておくこと。
-------	--

学びの手立て	講義の前に既習事項の確認を怠らないようにすると理解しやすいです。毎回の講義で次の講義に関する資料や理解を助けるための書籍などを紹介します。
--------	---

評価	学則に準じます。 中間試験 40% 学期末試験 50% 小テストおよび提出課題 10%
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 コミュニケーションや多文化理解に関連する科目を継続して履修するとよい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「5. 各専門分野で学んだ知識・技能を総合的・実践的に活用する力を養うための「プロジェクト科目」を設置します。」

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性

「5. 各専門分野で学んだ知識・技能を総合的・実践的に活用する力を養うための「プロジェクト科目」を設置します。」

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップⅡ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可
	2	各学科担当教員による面接および学内選考
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の3週間） ※実習時間数により単位数が異なる
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	
	時間外学習の内容	
	面接資料作成（申込手続き後）	
	面接担当者へ面接日の事前確認	
	実習先に関する情報収集	
	ガイダンスの振り返り	
	ガイダンスの振り返り	
	実習先へ電話によるご挨拶	
	実習先業界の情報収集（新聞）	
	ガイダンスの振り返り	
	実習と報告会に向けて準備	
	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り	
	ガイダンス内容を元に報告書作成	
	学科実習生全員で報告会運営準備	
	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エリアスタディ演習	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 常利	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくにはICTは最適にツールである。本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付ける為の専門科目と位置づけ、Flashを用いた琉球語や沖縄の伝統文化を題材とするクイズ形式の学習ソフトウェアを作成する。</p>	<p>毎回の授業や授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指します。アニメーション作成だけでなくイラスト作成や音声処理なども行い、情報処理および情報発信技術がより深く学べます。</p>
到達目標	<p>① Flashを用いてアニメーションを作成することができる ② アニメーション作成に必要な音声情報、画像情報を適切に処理できる ③ ActionScriptを用いて条件分岐型の簡易ゲームを作成することができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アニメーションの制作①：Flashの基本操作（図形描画、レイヤー）	図形描画の復習
	2	アニメーションの制作②：Flashの基本操作（モーショントゥイーン）	モーショントゥイーンの復習
	3	アニメーションの制作③：Flashの基本操作（モーションガイド、背景の透過）	課題の為の素材を準備
	4	アニメーションの制作④：Flashの基本操作（シーン、カラー変更、パブリッシュ）	課題の為の素材を準備
	5	アニメーションの制作⑤：Flashの基本操作（シェイプトゥイーン、振り子、音声の追加）	イラスト作成
	6	アニメーションの制作⑥：イラスト作成（ペイント系ソフトの使い方）	音声の準備
	7	音声情報処理 フリーソフトを用いたWAVファイルの編集、WAVおよびmp3の変換	音声の変換
	8	ActionScript基礎① ActionScriptの概念と基本記述/フレーム操作	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	9	ActionScript基礎② 変数/テキスト/プロパティ/ムービーシンボル/Ikボーン	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	10	ActionScript基礎③ 関数/ボタンイベント	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	11	ActionScript基礎④ 条件分岐（if文）	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	12	ActionScript応用① 簡易ゲームの作成①	課題（簡易ゲーム）の作成
	13	ActionScript応用② 簡易ゲームの作成②	課題（簡易ゲーム）の作成
14	ActionScript応用③ 簡易ゲームの作成③	課題（簡易ゲーム）の作成	
15	課題発表①	課題公開	
16	課題発表②	課題公開	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントは毎回持参すること。 ・データを保存できるUSBメモリを毎回持参すること。 		
評価	<p>平常点 30点（単元ごとの課題提出状況、到達度を評価） レポート点 70点（課題発表での完成度を評価）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

規範的とされる標準語（共通語）と地方の言葉との違いを言語学的に確認する。また、自分の身の回りにある言語学的現象に気付く。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用言語学	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	2年	授業終了後に教室で受付ける	

学びの準備	ねらい 規範的な標準語を学ぶだけでなく、それを応用し、地方の言葉にもある言語学的な現象を見抜く力を身につける。また、伝統的な琉球諸語も学んだ人には、二つの言語が接触したときにおこる現象についての知識を手に入れる。日常的な言葉の使用実態をデータ化し、理論にもとづいた整理のしかたを学ぶ。	メッセージ アナウンサーが話すような標準語でもなく、祖父母世代がはなす伝統的な方言でもなく、みなさん自身が日常使う言葉について考えます。耳にする音声、目にする文字すべてが研究対象であることを知ってください。
	到達目標 ねらいにもとづき、規範的な標準語と地方の言葉を区別できるようになる。そのために接触言語についてかかれた論文、社会言語学と言語学の差異を理解する。日常の言語生活から研究材料を取り出し、データ化するトレーニングをする。そのため、講義の各回の内容ごとに、自身が気づいた、論文を読んで思いだした接触言語体験例をあげてもらい、出席カードとともに提出する。9回～10回ごろに、レポートの課題を提示し、データ数を指定して、主に文字資料から言語接触の例を取り出し、分析し、提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・琉球列島の言語とは	
	2	日本語標準語・琉球列島の言葉に関する基本	
	3	接触言語における単語作り1・名詞編	テキストを事前に読む
	4	接触言語における単語作り2・動詞/形容詞編	テキストを事前に読む
	5	助詞にみられる言語接触1 主に格助詞	テキストを事前に読む
	6	助詞にみられる言語接触2 とりたて	テキストを事前に読む
	7	動詞における言語接触1 語幹	テキストを事前に読む
	8	動詞における言語接触2 活用・アスペクト・ムード	テキストを事前に読む
	9	動詞における言語接触3 受身・使役・可能 【レポート課題提示】	レポートに関する用例あつめ・分析
	10	形容詞における言語接触1 語幹・意味	レポートに関する用例あつめ・分析
	11	形容詞における言語接触1 活用	レポートに関する用例あつめ・分析
	12	沖縄島北部・奄美諸島における言語接触	レポートに関する用例あつめ・分析
	13	宮古諸島・八重山諸島における言語接触 【レポート提出】	
	14	データの収集と分析におけるモラルと作法	自身のレポートのやり方を省みる
15	レポート解説・まとめ		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は教員で用意する。配布日を除き、講義の進捗を考え、次回に進みそうな範囲は読んでおくこと。講義ではあえて何ページまでとは指定しない。日本語・琉球諸語以外の「接触言語」の研究書なども参考になる。		
	学びの手立て 身近にある郷土関係図書を読み、接触言語的表現がないか参考にする。国語、日本語、言語学の専門用語をもちいた説明がなぜ必要なのか考えながら受講する。		
	評価 各回の課題、内容、取組み具合30%。レポート60%、出席10%とする。15回の講義のうち、3分の2以上の欠席は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語標準語、琉球諸語、接触言語に関連する分野。日常の言葉遣いに敏感になる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山貴之（8回）兼本敏（8回）	4年	奥山貴之 t.okuyama@okiu.ac.jp	研究室5-432

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>多文化間コミュニケーションコースが提供する、「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などの科目で学んだ知識を、実際の海外での文化体験と結びつけて理解を深めることをねらいとしています。視野を国際的に広げ、語学力やコミュニケーション能力を向上させる機会を得て、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p>	<p>異文化や多文化に興味を持ち、理解しようすることは、グローバル化した現代社会で息抜き、活躍するための基本です。自ら計画を立て、異なる文化の中に飛び込んでください。多くのものが得られるはずです。</p>
到達目標	<p>1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な知識、および使用言語を習得する。 2) 訪問先の地域での体験実習を通して、コミュニケーションの技能や多文化理解を深める 3) 実習内容を内省し、報告書にまとめる。そのことで理解を深め、他者に成果を発信する力を身に付ける。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション	
	2	事前研修（本学内）	訪問先について調べる	
	3	事前研修（本学内）	訪問先について調べる	
	4	事前研修（本学内）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	5	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	6	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	7	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	8	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	9	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	10	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	11	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	12	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認	
	13	帰国報告書の反省会	資料の整理	
14	報告書作成	報告書の確認		
15	報告書作成	報告書の確認		
16	相互評価および修正	最終提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。 日本文化学科が提供する関連科目の復習。 共通科目で提供される訪問先の情報の確認など。</p>		
学びの手立て	<p>・訪問先の地理・歴史・文化などを事前に調べる。 ・今まで語学や多文化理解に関する科目で学んだことと、実習で得た情報や体験を結びつけて、知識を確認、修正し、深化させる。 ・帰国後、体験実習で得た学びをしっかりと言語化し、他者に伝える。 ・事前研修では詳細に具体的に調べ、現地での体験は報告書の作成を想定してメモや写真で記録を残しておく。</p>			
評価	<p>事前研修（20%） 研修先での活動（40%） 報告書（40%） 全体での活動と個別での活動は事前に計画し報告してもらう。全体行動と個別活動の評価は「研修先活動」に含まれる。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>国際感覚を磨くのに役立つ科目です。出発前の準備も大切です。また訪問先で自分自身に対する新たな発見があるはずです。帰国後には新たな自分を形成に寄与する科目の履修や勉強（語学・歴史・地理・文化関連科目など）を希望します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学Ⅰ	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、メールで受け付けます。ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教員としての資質、能力の一部である漢文学の知見を深め、漢字文化や中国文化について学修する。	メッセージ 白文を訓読する演習を多く行います。予習をして授業にのぞんでください。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点も意識した指導を行います。
	到達目標 ①漢文の基本的な構造と句形を理解する。 ②漢文訓読法（訓点）の規則に従って、正確に訓読ができるようになる。 ③漢和辞典などを利用して、各々の漢字や単語の意味を調べることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス1 漢文を読むために（1）	特になし
	2	ガイダンス2 漢文を読むために（2）	前時の復習
	3	漁父之利・狐借虎威	資料の予習
	4	勿頸之交	資料の予習
	5	臥薪嘗胆	資料の予習
	6	白水素女	資料の予習
	7	枕中記	資料の予習
	8	鴻門之会	資料の予習
9	四面楚歌	資料の予習	
10	論語	資料の予習	
11	孟子	資料の予習	
12	盗智	資料の予習	
13	畏饅頭	資料の予習	
14	漢文教育の理論と実践	資料の予習	
15	漢文の学習指導	資料の予習	
16	期末考査	考査の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 漢文資料は印刷し配布します。『新字源』『漢語林』など、辞典を必携すること。		
	学びの手立て 漢和辞典や漢文法のハンドブックを何度も活用して、漢文訓読に必要な知識や技能を身に付けてください。そのためには、白文を事前に視写したり、訓読文をノートにまとめたり、語句を調べたりする予習が重要です。		
	評価 小課題（30%）、考査（40%）、授業参加状況（30%）を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国語科教職課程受講者、さらに学びを深めたい方は「漢文学Ⅱ」も受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、メールで受け付けます。ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教員としての資質、能力の一部である漢文学の知見を深め、漢字文化や中国文化について学修する。	メッセージ 白文を訓読する演習を多く行います。予習をして授業にのぞんでください。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点も意識した指導を行います。
	到達目標 ①漢文の基本的な構造と句形を理解する。 ②漢文訓読法（訓点）の規則に従って、正確に訓読ができるようになる。 ③漢和辞典などを利用して、各々の漢字や単語の意味を調べることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス1 漢文を読むために（1）	特になし
	2	ガイダンス2 漢文を読むために（2）	前時の復習
	3	『遺老説伝』 訓読演習 1	資料の予習
	4	『遺老説伝』 訓読演習 2	資料の予習
	5	『遺老説伝』 訓読演習 3	資料の予習
	6	『遺老説伝』 訓読演習 4	資料の予習
	7	『遺老説伝』 訓読演習 5	資料の予習
	8	『遺老説伝』 訓読演習 6	資料の予習
9	『遺老説伝』 訓読演習 7	資料の予習	
10	『遺老説伝』 訓読演習 8	資料の予習	
11	『遺老説伝』 訓読演習 9	資料の予習	
12	『遺老説伝』 訓読演習 10	資料の予習	
13	『遺老説伝』 訓読演習 11	資料の予習	
14	『遺老説伝』 訓読演習 12	資料の予習	
15	『遺老説伝』 訓読演習 13	資料の予習	
16	期末考査	考査の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 漢文資料は印刷し配布します。『新字源』『漢語林』など、辞典を必携すること。		
	学びの手立て レポーターを決めて、発表形式で授業を行います。レポーターは、所定の漢文資料の①翻字、②書き下し文、③語釈、④通釈、⑤関連資料を準備してください。レポーター以外の者も、①～④の作業を事前に済ませてから授業に参加するように。		
	評価 小課題（30%）、考査（30%）、授業参加状況・レジュメ（30%）、ノート・ポートフォリオ（10%）を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「漢文学Ⅱ」で扱う『遺老説伝』は琉球の漢文資料として大変貴重なものです。近世琉球人は、中国語の習得とともに、日本の伝統的な訓法の習得にも努めました。その訓法に影響を与えたのは、「桂庵和尚家法倭點」などではないかと言われています。同書に関連付けた学びを継続してください。
-------	---

※ポリシーとの関連性 自国の文化を認識し発信するための表現力や感性を磨き、グローバル社会での語学力と表現力、自己表現力を英語で身につけていく。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語コミュニケーション演習	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島村 麗	4年	l-shimamura@hotmail.co.jp 080-3968-8867	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多様な文化を背景とした人々の効果的なコミュニケーションの方法を考えながら、自文化に関する知識や認識を英語という媒介語を用いて深めていく。そしてそれらを効果的に発信する方法を身につけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。世界共通の言語となりつつある英語を道具として使い、グローバル時代に必要となる調整力を身につけていく。	自国の文化について、諸外国の人々に向け、特に伝えたいことや話し合ってみたいこと、意見を求めてみたいことなどを常日頃から考え、英語を用いて実際のコミュニケーションを楽しんでほしい。また将来の職業（日本語教師など）につなげていってほしい。
到達目標	伝えたい、継承したい、疑問に思う、一緒に考えたい、発展させたいと考える課題を見つける。それを世界共通語になりつつある英語で、わかりやすく伝える方法を学んでいく。ゲストとの交流や、メディア等も駆使して多様な人々に英語で伝えるという生の経験を重ね、多文化共生社会で生きていることを実感し、コミュニケーションの方法を磨いていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義内容) /英語による講師自己紹介	シラバスを前もって読んでおく
	2	英語による自己紹介の準備	自己紹介文を作成する(英語)
	3	英語による他己紹介(pair work)	紹介する人物との打ち合わせ
	4	Introducing Okinawa (沖縄の歴史と社会)	「History of Okinawa」参照
	5	Talking about Japan (日本の人口/文字/その他)	テキスト予習
	6	Talking about Japan (敬語/東京オリンピック/自動販売機)	テキスト予習
	7	Talking about Japan (AKB48/ オタク/皇室/武士)	テキスト予習題
8	Talking about Japan (コンビニ/パチンコ/カラオケ/居酒屋)	テキスト予習	
9	Talking about Japan (ラーメン/マンガ/アニメ)	テキスト予習	
10	Talking about Japan (旅館/温泉/納豆/京都)	テキスト予習	
11	Talking about Japan (方言/神社と寺/芸者)	テキスト予習	
12	Talking about Japan (お好み焼き/たこ焼き/茶道)	テキスト予習	
13	Talking about Japan (子供の日/お盆/成人の日)	テキスト予習	
14	Talking about Japan (戸籍と住民票/学校制度/塾)	テキスト予習	
15	Presentation 準備(個人 /pair work/ group work) 沖縄/日本について	Presentation の課題を決める	
16	Presentation (power point / 写真 / 絵画) 等を利用して発表	クラス全体としてのまとめ	
	テキスト・参考文献・資料など	テキスト:「日本のことを1分間英語で話してみる」KADOKAWA出版(¥1,600)(購入すること)その他の資料を随時配布する。	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に、あるいは、社会やその他に、問題意識をもち、課題に取り組むこと。 ・英語によるコミュニケーション力をつけていくことにもなるので、地道に積み上げていこう。 ・伝えたい、コミュニケーションしたいという気持ちを大切に、積極的に英語を話す努力をして欲しい。 	
	評価	(1) 授業への参加(10%) (2) 学習意欲(10%) (3) 活動や課題への取り組み(30%) (4) プレゼンテーション(50%) 以上(1)(2)(3)(4)を総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 諸外国の人々と積極的に交わり、自国の事や他国の事情も英語を使って理解しあい、グローバル社会で生きる力を身につけるように、英検やTOEICなどの検定試験にも挑戦して、常に英語に対して積極的に学習して欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 自文化、他文化への理解を深め、多文化共生社会で生きていけるコミュニケーション能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルコミュニケーション論	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山貴之(3回) 孫恵仁(3回) 島村麗(3回) 宮里厚子(3回) 兼本敏(3回)	1年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 自文化・他文化を学習・理解し、多文化共生社会に適応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。	メッセージ この授業では、自文化・他文化への理解を深めながら、色々な活動に取り組みます。色々な人とコミュニケーションを取りながら活動をするがありますが、そうした活動が苦手な人もまずは一歩踏み出してみましよう。
	到達目標 ・自己・自文化を再認識し、理解を深める。 ・米国ハワイ・中国・韓国・ヨーロッパの言語や文化を学びながら、自文化と他文化の類似点・相違点を理解し尊重できるようになる。 ・活動に取り組み、他者との関わる中で、多様な見方・考え方ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、日本のグローバル化①	関連文献を読む
	2	日本のグローバル化②	関連文献を読む
	3	日本のグローバル化③	課題の作成
	4	韓国文化を学ぼう1:韓国文化を学ぼう1:言語—ハンゲルの誕生とその構造	予習と復習
	5	韓国文化を学ぼう2:韓国文化を学ぼう2:歴史—朝鮮時代の日韓交流	予習と復習
	6	韓国文化を学ぼう3:韓国文化を学ぼう3:文化、社会—現代における日韓交流	予習と復習
	7	英語圏の社会と文化①	予習と復習
	8	英語圏の社会と文化②	予習と復習
	9	英語圏の社会と文化③	課題の作成
	10	ヨーロッパに触れてみると(社会と言語)①	予習と復習
	11	ヨーロッパに触れてみると(社会と言語)②	予習と復習
	12	ヨーロッパに触れてみると(社会と言語)③	課題の作成
	13	中国の文化と歴史を知ろう!(文字と言葉を中心に)①	漢字の読みと構造を復習しておく
	14	中国の文化と歴史を知ろう!(文字と言葉を中心に)②	漢字の読みと構造を復習しておく
15	現代の「中国語」とは?(日本語や英語との相似と相違を中心に)	英語の基本文型を復習しておく	
16			
テキスト・参考文献・資料など 担当教員が適宜プリント等を準備する。参考文献は講義の中で紹介する。			
学びの手立て ※クラス内の活動を通してコミュニケーション能力の向上を図ります。積極的に参加してください。 ※シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況によって変わることがあります。			
評価 各パートごとに、課題50%、平常点50%で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「比較文化論」「ジャパノロジーⅠ・Ⅱ」 身近な他者から始まり、様々な人との関わりの中で学んでいきましょう。 協定校への交換留学、各種検定試験など、色々なことへのチャレンジにつなげていってください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語などの外国語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。</p> <p>到達目標</p> <p>琉球の言語や文化が、英語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを理解し、自らが英語によって発信できるようになることを目標とします。</p>	<p>本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、日本語以外の言語、特に英語による琉球文化の表現を考えていきます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成
	2	琉球文化の英語テキスト読解①	レジュメ作成
	3	琉球文化の英語テキスト読解②	レジュメ作成
	4	琉球文化の英語テキスト読解③	レジュメ作成
	5	琉球文化の英語テキスト読解④	レジュメ作成
	6	琉球文化の英語テキスト読解⑤	レジュメ作成
	7	琉球文化の英語テキスト読解⑥	レジュメ作成
8	琉球文化の英語テキスト読解⑦	レジュメ作成	
9	琉球文化の英語テキスト読解⑧	レジュメ作成	
10	琉球文化の英語テキスト読解⑨	レジュメ作成	
11	琉球文化の英語テキスト読解⑩	レジュメ作成	
12	琉球文化の英語テキスト読解⑪	レジュメ作成	
13	琉球文化の英語テキスト読解⑫	レジュメ作成	
14	琉球文化の英語テキスト読解⑬	期末試験準備	
15	期末試験	関連文献読書	
16	予備日	関連文献読書	
	テキスト・参考文献・資料など	その都度指示します。英和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。	
	学びの手立て	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジュメを準備し発表すること。発表の分担はオリエンテーションのときに説明します。	
	評価	平常点（20%）、作成レジュメ（10%）、期末試験（70%）で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	多文化共生論、地域文化情報論、コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱなど。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語などの外国語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。	メッセージ 本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、日本語以外の言語、特に英語による琉球文化の表現を考えていきます。
	到達目標 琉球の言語や文化が、英語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを理解し、自らが英語によって発信できるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成
	2	琉球文化の英語テキスト読解①	レジュメ作成
	3	琉球文化の英語テキスト読解②	レジュメ作成
	4	琉球文化の英語テキスト読解③	レジュメ作成
	5	琉球文化の英語テキスト読解④	レジュメ作成
	6	琉球文化の英語テキスト読解⑤	レジュメ作成
	7	琉球文化の英語テキスト読解⑥	レジュメ作成
	8	琉球文化の英語テキスト読解⑦	レジュメ作成
9	琉球文化の英語テキスト読解⑧	レジュメ作成	
10	琉球文化の英語テキスト読解⑨	レジュメ作成	
11	琉球文化の英語テキスト読解⑩	レジュメ作成	
12	琉球文化の英語テキスト読解⑪	レジュメ作成	
13	琉球文化の英語テキスト読解⑫	レジュメ作成	
14	琉球文化の英語テキスト読解⑬	期末試験対策	
15	期末試験	来期に向けた取り組み	
16	予備日	来期に向けた取り組み	
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。英和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。		
	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジュメを準備し発表すること。発表の分担はオリエンテーションのときに説明します。		
	評価 平常点（20%）、作成レジュメ（10%）、期末試験（70%）で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多文化共生論、地域文化情報論、コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱなど。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代沖縄文学論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本・沖縄の近現代史をふまえ、「沖縄文学」の成立と意義について考える。	メッセージ 沖縄の表現者たちの歩みを知り、明日を生きる力につなげよう。
	到達目標 1 沖縄文学の歴史や特質について理解する。 2 テキストを緻密に読解し、批評する力を養う。	

学びの準備	到達目標 1 沖縄文学の歴史や特質について理解する。 2 テキストを緻密に読解し、批評する力を養う。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 沖縄文学概説	基礎知識の習得と事前調査
	2	I 戦前期—沖縄文学の出発（山城正忠、池宮城積宝、久志美沙子、山之口獺ほか）	テキストを読解する
	3	II 戦後期—アメリカ統治下の文学	同上
	4	III 戦後期—復帰後の文学	同上
	5	IV 現代小説を読む① 大城立裕「亀甲墓」	テキストの予習
	6	現代小説を読む② 霜多正次「虜囚の哭」	同上
	7	現代小説を読む③ 東峰夫「オキナワの少年」	同上
	8	現代小説を読む④ 吉田スエ子「嘉間良心中」	同上
	9	現代小説を読む⑤ 又吉栄喜「カーニバル闘牛大会」	同上
	10	現代小説を読む⑥ 目取真俊「軍鶏」	同上
	11	現代小説を読む⑦ 山野端信子「鬼火」	同上
	12	現代小説を読む⑧ 大城貞俊「K 共同墓地死亡者名簿」	同上
	13	現代小説を読む⑨ 崎山多美「見えないマチからシヨンカネーが」	同上
	14	現代詩歌を読む	レポートの準備
	15	まとめと課題—〈沖縄文学〉という問い	レポートの準備
16	期末試験（レポート）		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プリント使用。 参考文献：岡本恵徳ほか編『沖縄文学選』勉誠社、2015年。その他、適宜指示する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 沖縄文学の作品をできるだけ多く読むことが望ましい。
-------	-------------------------------------

学びの実践	評価 ①期末レポート（80%）②提出物および授業への取り組み（20%）
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：ゼミナール I
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 専門分野（文学研究）を学ぶための基礎となる理論を身につけ、応用する力を育てる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論 I	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 文学の読解に有用な理論を広く学び、適切に応用できる力を身につける。	メッセージ 理論を通して文学を読むとき、ストーリーを理解する、物語を楽しむというのとは別のおもしろさが見えてきます。作者と読者の関係性、文学テキストの背景となっている都市に隠された意義、身体感覚をたどることで見えてくる発見……理論の先にある文学テキストの読み方を探っていきましょう。
	到達目標 文学理論の基礎を理解し、論理的な思考のスタイルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンスー欲望の三角関係	シラバスを読んでおく。
	2	テキスト論	テキストについて復習する。
	3	「主人公」なるもの	主人公について復習する。
	4	記号論から構造主義へ	記号論・構造主義を理解する。
	5	都市論で読む「舞姫」①ー「主人公」の移動について	森鷗外「舞姫」を通読する。
	6	都市論で読む「舞姫」②ー都市空間について	都市空間について復習する。
	7	中間テスト	テスト内容を復習する。
	8	脱構築	脱構築について復習する。
	9	脱構築とフェミニズム	フェミニズムについて復習する。
	10	オリエンタリズム①ー「他者」のイメージ形成	オリエンタリズムについて復習。
	11	オリエンタリズム②ーディズニー映画に描かれたオリエンタリズム	オリエンタリズムについて復習。
	12	ジェンダー・セクシュアリティ	ジェンダー論について復習する。
	13	クィア・スタディーズー映画「セルロイド・クローゼット」を通して	クィア表象について理解を深める。
	14	トラウマについて①ートラウマとは何か	トラウマについて復習する。
	15	トラウマについて②ー映画「父と暮せば」を通して	テストに向けての勉強。
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論ー文学・思想・批評』（世織書房）を推奨する。		
	学びの手立て 文学理論に関心を寄せる学生を広く受け入れる。 理論を学ぶ際には文学作品の実作に触れながら説明を進めるため、事前事後学習として多くの文学作品を読むことが望ましい。		
	評価 中間テスト(40%)、期末テスト(40%)、講義についてのコメントシート(20%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「現代文学理論Ⅱ」。理論を通して文学を読む読書姿勢を身につけてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

近現代社会の問題と文学テキストの関連を理解する。
文学理論に基づいたテキストの読解をすすめ、思考力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 現代文学理論Ⅰで学んだことを発展させ、理論を駆使した文学の読み方を身に付ける。	メッセージ 本講義では戦後から現代にかけての文学をテキストとする。文学をフィクションとしてのみ捉えるのではなく、現代社会の問題と結び付けて考察する視点を養ってほしい。
	到達目標 文学理論を踏まえた上で注目するポイントや問題設定を明確にし、受講生それぞれがテキスト読解の可能性を広げていくことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	小林勝「フォード・一九二七年」①—コロニアリズムの問題点
	3	小林勝「フォード・一九二七年」②—植民地二世と銃
	4	林京子「雛人形」①—引き揚げと戦後
	5	林京子「雛人形」②—フェミニズムの視点から
	6	目取真俊「面影と連れて」①—ツーリズムと開発
	7	目取真俊「面影と連れて」②—被害者の声を奪う暴力
	8	小田実「アボジを踏む」①—ポストコロニアリズムの視点から
9	小田実「アボジを踏む」②—「難死」の思想	
10	黒澤明「夢」より「トンネル」—「難死」に踏みとどまる	
11	黒澤明「夢」より「赤富士」・「鬼哭」・「水車のある村」—核時代を生きる	
12	川上弘美「神様2011」—震災と文学	
13	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」①—格差と貧困	
14	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」②—「他者」とともに生きるための言葉	
15	総論	
16		
	時間外学習の内容	
	シラバスを読んでおく。	
	指定されたテキストを読んでもくる。	
	レポートに向けての学習。	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論—文学・思想・批評』（世織書房）を推奨する。	
	学びの手立て 現代文学理論Ⅰを受講していることが望ましい。 事前学習として指定されたテキストの全文を読んでもくること。	
	評価 レポートによる評価(80%)、小課題の提出および受講態度(20%)。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 理論を理解することで、自分の考えや論点を明確にし、今後の学習意欲を高めていってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文学的文章における「読みの交流」の理論的モデルを学ぶと共に、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている文学的文章教材を取り上げ、読みの交流を促す学習課題について具体的に考察する。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」としての「読みの交流」と、授業実践例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。「読みの交流」学習の基本理論を身に付け、実践に活かせるようにしてほしい。</p>
到達目標	ナラトロジーの考えを知り、実際に文学作品の語りの分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・文学教育をめぐる状況	文学教育の目的を考える
	2	文学教育の目標	予習・用語を調べる
	3	読みの段階と深まり	予習・用語を調べる
	4	視点論	予習・用語を調べる
	5	視点論・作品の視点分析	視点分析
	6	語りの分析（描出表現）	描出表現についてまとめる
	7	語りの分析（再帰的用法・非再帰的用法）・「虹の見える橋」	再帰的用法についてまとめる
	8	読みの交流の成立・学習課題	これまでの復習
	9	「少年の日の思い出」語りの構造・学習課題と読みの実際学習課題	予習・用語を調べる
	10	「握手」一人称語りを考える	語りの分析
	11	中高教材の、語りの分析（描出表現）	語りの分析
	12	中高教材の、語りの分析（描出表現）	語りの分析レポート
	13	中高教材の、学習課題作り	学習課題作り
14	中高教材の、学習課題の検討	学習課題の解答	
15	読みの交流の実践	読みの交流の感想を書く	
16	総括	問いと読みの交流の考察をまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>【テキスト】 松本修、『文学の読みと交流のナラトロジー』，東洋館出版社，2006</p> <p>【参考文献】 野村眞木夫、『日本語のテクストー関係・効果・様相ー』，ひつじ書房，2000</p>		
	学びの手立て		
	<p>①教職課程受講者を対象とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ⑤授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。</p>		
	評価		
	課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】日本文学特講Ⅱ（3年次・後期） (2) 次のステージ 日本文学特講Ⅱでは、学習者の発話分析を行う。カリキュラムポリシー3の、学習者の学びを見取る視点や、深い学びを可能にする問いを作る力を養ってほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語のテキストについて学び、文章や談話の仕組みを知る。さらに、発話プロトコルの分析方法を学び、学習者の実態を検証する能力を身につける。実際に文学的文章教材における読みの交流を行い、交流の実態と学習課題について具体的に考察する。	中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」を見取るための談話分析の方法と、授業分析例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。学習者分析の基礎を身に付け、学習実態を把握する力を付けてほしい。
到達目標	談話分析の歴史と方法を知り、実際に発話分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・学習者分析の歴史①	予習・用語を調べる
	2	学習者分析の歴史②	予習・用語を調べる
	3	言語表現とテキスト研究（コミュニケーション・話題・関係性）	予習・用語を調べる
	4	読みの交流の成立と発話	予習・用語を調べる
	5	発話プロトコルの分析法	予習・用語を調べる
	6	質的三層分析	予習・用語を調べる
	7	発話プロトコルによる、授業分析	予習・用語を調べる
	8	発話プロトコルにみる、授業改善	問いの作成
	9	問い作り または、ビデオによる授業観察	問いの作成
	10	読みの交流 または、ビデオによる授業観察	交流の感想を書く
	11	発話分析①（パソコン室）	発話分析
	12	発話分析②（パソコン室）	発話分析
	13	発話分析③（パソコン室）	レポート作成
14	グループ発表・研究討議（課題分析）①	レポート作成	
15	グループ発表・研究討議（課題分析）②	レポート作成	
16	総括（発話分析をもとに授業改善策を考察する）	最終レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 レジュメを用意する。 野村真木夫、『日本語のテキスト－関係・効果・様相－』、ひつじ書房、2000 松本修編著、『読みの交流と言語活動－国語科学習デザインと実践－』玉川大学出版部、2015 【参考文献】 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一、『文章・談話のしくみ』、おうふう、2003		
	学びの手立て		
	①教職課程受講者を対象・必修とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ⑤授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。		
	評価		
	課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【関連・上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 学習者の発話から、学習実態をつかむ意識をもって模擬授業に臨んでほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅰ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育演習における学び（主に「読むこと」の分野）を拡充する科目である。教科書教材以外の文章（評論・小説・古文・漢文）を読むことによって、読解力や論理的思考の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身が意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準：評価指標と関連します) ①評論の論理的構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な読む能力が身についている。①～④の能力が身につくことを到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日本の古典①語句、文法等の予習
	2	日本の古典①（古文）/古典文法、語彙等の確認/「堤中納言物語」	日本の古典②語句、文法等の予習
	3	日本の古典②（古文）/和歌の読解/「源氏物語」	日本の古典③語句、文法等の予習
	4	日本の古典③（古文）/有職故実/「大和物語」	日本の古典④語句、文法等の予習
	5	日本の古典④（古文）/思想、文化「方丈記」	中国の古典①漢字、句形等の予習
	6	中国の古典①（漢文）/史話/「十八史略」	中国の古典②漢字、句形等の予習
	7	中国の古典②（漢文）/詩/「盛唐の詩人」	中国の古典③漢字、句形等の予習
	8	中国の古典③（漢文）伝奇/「搜神記」	中国の古典④漢字、句形等の予習
	9	中国の古典④（漢文）思想/「論語」	評論①を事前に読むこと
	10	評論①東西文化比較論	評論②を事前に読むこと
	11	評論②環境論	評論③を事前に読むこと
	12	評論③言語論	小説①を事前に読むこと
	13	小説①明治の小説	小説②を事前に読むこと
	14	小説②昭和の小説	小説③を事前に読むこと
	15	小説③戦後の小説	考査の出題範囲の学習
16	期末考査	自己採点などで振り返りを行う	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。 ・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に利用してください。 ・「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。
----	--

学びの手立て	○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。 ○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底して下さい。○基礎学力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完を目指して下さい。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。
--------	--

評価	「期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%」 「期末考査」では、以下の①～④の能力を評価します。①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な能力が身についている。「基礎テスト」では、漢字、語句、語彙などを評価します。「平常点」は受講態度を評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教材研究演習Ⅱ」、「国語科教育法演習Ⅰ」、「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」、「日本文学特講Ⅱ」などと関連します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育演習における学び(主に「読むこと」の分野)を拡充する科目である。教科書教材以外の文章(評論・小説・古文・漢文)を読むことによって、読解力や論理的思考の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身が意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準:評価指標と関連します) ①評論の論理的構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む能力が身についている。①～④の能力が身につくことを到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	日本の古典①(古文)/古典文法、語彙等の確認/「堤中納言物語」
	3	日本の古典②(古文)/和歌の読解/「源氏物語」
	4	日本の古典③(古文)/有職故実/「大和物語」
	5	日本の古典④(古文)/思想、文化「方丈記」
	6	中国の古典①(漢文)/史話/「十八史略」
	7	中国の古典②(漢文)/詩/「盛唐の詩人」
	8	中国の古典③(漢文)伝奇/「搜神記」
	9	中国の古典④(漢文)思想/「論語」
	10	評論①東西文化比較論
	11	評論②環境論
	12	評論③言語論
	13	小説①明治の小説
	14	小説②昭和の小説
	15	小説③戦後の小説
16	期末考査	
		時間外学習の内容
		日本の古典①語句、文法等の予習
		日本の古典②語句、文法等の予習
		日本の古典③語句、文法等の予習
		日本の古典④語句、文法等の予習
		中国の古典①漢字、句形等の予習
		中国の古典②漢字、句形等の予習
		中国の古典③漢字、句形等の予習
		中国の古典④漢字、句形等の予習
		評論①を事前に読むこと
		評論②を事前に読むこと
		評論③を事前に読むこと
		小説①を事前に読むこと
		小説②を事前に読むこと
		小説③を事前に読むこと
		考査の出題範囲の学習
		自己採点などで振り返りを行う

実践	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。 ・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に利用してください。 ・「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。
----	---

学びの手立て	○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。 ○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底して下さい。○基礎学力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完を目指して下さい。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。
--------	--

評価	「期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%」 「期末考査」では、以下の①～④の能力を評価します。①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む能力が身についている。「基礎テスト」では、漢字、語句、語彙などを評価します。「平常点」は受講態度を評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」、「日本文学特講Ⅱ」などに関連します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー2に対応し、各専門分野における学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための「導入科目」です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に親しむ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、『万葉集』を中心に学びながら、日本の古典文学に関する知識を深めていきます。「ことば学びの放射線」は国語教育学者中瀬正堯氏が提唱している国語教育観です。『万葉集』のことば学びを中心に据えて、様々な事柄に学びを結びつけていきます。	古典は、今も生きています。私たちよりも長く生きています。その中にどんな学びがあるのでしょうか。講義は学生との対話を積極的に取り入れます。学びを深める発言や質問を期待します。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	<p>(1) 『万葉集』の歌を理解し、その歌に関する知識をより深めるために、文章を書いたり、発表をしたりすることができる。</p> <p>(2) 古典に関する基礎知識や基礎的な技能を学び、それを活用することができる。</p> <p>(3) のびやかで豊かな詩情をもつことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	『万葉集』事始め	シラバスを読む
	2	磐姫皇后歌／雄略天皇歌	次時資料の検討
	3	舒明天皇歌と大和	次時資料の検討
	4	有間皇子事件と奈良、和歌山	次時資料の検討
	5	額田王とは誰なのか	次時資料の検討
	6	大伯皇女と大津皇子－二上山、折口信夫『死者の書』	次時資料の検討
	7	壬申の乱①	次時資料の検討
8	壬申の乱②	次時資料の検討	
9	柿本人麻呂の歌①	次時資料の検討	
10	柿本人麻呂の歌②	次時資料の検討	
11	柿本人麻呂の歌③	次時資料の検討	
12	グループワーク①	次時資料の検討	
13	グループワーク②	次時資料の検討	
14	グループワーク③	次時資料の検討	
15	学習成果発表会	発表会の振り返り	
16	期末考査	考査の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>必要な資料はプリントを配布します。『万葉集』は各社が出版してしましますが、上下二巻本が使いやすい。おすすめは伊藤博校注『万葉集』（角川文庫）です。</p>		
学びの手立て	『万葉集』を学んで、演劇的表現活動（劇化、対談、プレゼンテーション、ニュースと実況中継等）を行ってもらいます。		
評価	<p>期末考査（40%）＋授業態度・授業参加状況（30%）＋学習成果発表（30%）</p> <p>三分の一以上の欠席があるものには単位を認定しません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	古典に学ぶ・日本文学を読むⅠ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性

本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に親しむ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に親しむというのが本講義の目的である。今回は古事記を講読する。	メッセージ 神話とは何か。現代においても様々なメディアで加工され再生産される神話について考えてみてください。
	到達目標 古事記の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古事記紹介	テキストの予習
	2	イザナキとイザナミ	テキストの復習と予習
	3	アマテラスとスサノヲ	テキストの復習と予習
	4	オホクニヌシとスクナヒコナ	テキストの復習と予習
	5	アメノオシホミミノミコトとニニギノミコト	テキストの復習と予習
	6	海幸と山幸	テキストの復習と予習
	7	神武東征	テキストの復習と予習
	8	サホビコの反逆	テキストの復習と予習
9	ヤマトタケル	テキストの復習と予習	
10	天之日矛	テキストの復習と予習	
11	仁徳天皇	テキストの復習と予習	
12	木梨之軽太子と衣通王	テキストの復習と予習	
13	目弱王の変	テキストの復習と予習	
14	一言主大神	レポートの作成	
15	レポートの書き方について	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの手直し	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト、中村啓信『古事記』角川ソフィア文庫 参考文献、西郷信綱『古事記注釈』ちくま学芸文庫		
	学びの手立て 大きな事典類を引くことを覚えてください。		
	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60%、提出物40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「古典に学ぶ」では平家物語を講読する。また「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に学ぶ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	『万葉集』を扱います。『万葉集』の詠まれた故地について学びを深め、文化地理学的な視点で歌を理解することを目指します。また、『万葉集』に詠まれた植物や、その植物を扱った後代の歌を学び植物と歌との関係を学びます。	身近な事象と古典を結びつける目を養いましょう。何気ないことに深まりが見えたとき、どんな世界が現れるのでしょうか。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	(1) 万葉故地と万葉歌について理解して歌の解釈ができる。 (2) 万葉植物について理解し、歌の解釈ができる。 (3) のびやかで豊かな詩情を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	万葉集 春夏秋冬①	シラバスを読む
	2	万葉集 春夏秋冬②	資料の予習
	3	万葉集 春夏秋冬③	資料の予習
	4	万葉故地① 滋賀	資料の予習
	5	万葉故地② 奈良(1)	資料の予習
	6	万葉故地③ 奈良(2)	資料の予習
	7	万葉故地④ 和歌山(1)	資料の予習
	8	万葉故地⑤ 和歌山(2)	資料の予習
	9	万葉故地⑥ 中国地方	資料の予習
	10	万葉故地⑦ 九州地方	資料の予習
	11	万葉植物①	資料の予習
	12	万葉植物②	資料の予習
	13	万葉植物③	資料の予習
14	万葉植物④	資料の予習	
15	万葉植物⑤	資料の予習	
16	期末考査	考査の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 資料はプリントして配布する。		
学びの手立て	次時の資料について、所定の予習課題に取り組んでから、授業に参加してください。予習課題は、語句調べ、口語訳などです。		
評価	期末考査(40%) + 授業態度・授業参加状況等(30%) + レポート(30%) 三分の一以上の欠席をしたものには単位を認定しません。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読むⅠ・Ⅱ
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性 本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 古典に学ぶ	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 葛綿 正一	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に学ぶというのが本講義の目的である。今回は平家物語を講読する。	メッセージ 歴史とは何か。様々なメディアで加工され再生産される歴史のイメージについて考えてみてください。
	到達目標 平家物語の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 平家物語の本文を理解し、レポートを書く。
-------	------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	平家物語の諸本	テキストの予習
	2	巻一、殿上の闇討ち・鱸	テキストの復習と予習
	3	祇王	テキストの復習と予習
	4	殿下の乗合	テキストの復習と予習
	5	鹿谷	テキストの復習と予習
	6	巻二、座主流し・小教訓	テキストの復習と予習
	7	教訓状・烽火の沙汰	テキストの復習と予習
	8	大納言流罪・阿古屋の松	テキストの復習と予習
	9	康頼祝言・卒塔婆流し	テキストの復習と予習
	10	巻三、赦し文・足摺	テキストの復習と予習
	11	少将都帰り・有王	テキストの復習と予習
	12	医師問答・無文	テキストの復習と予習
	13	法印問答・大臣流罪	テキストの復習と予習
	14	巻四から巻十二の展開	レポートの作成
	15	レポートの書き方	レポートの作成
16	まとめ	レポートの作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト、『平家物語一』岩波文庫 参考文献、『平家物語全注釈』（角川書店）、『平家物語研究事典』（明治書院）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 日本国語大辞典、国史大辞典など、大きな事典類を引くことを覚えてください。
-------	--

学びの実践	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60%、提出物40%。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキル I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高良 宣孝	3年	e-mail、授業終了後教室で (nobu@11.u-ryuky.ac.jp)	

学びの準備	ねらい この授業では、異文化コミュニケーションに関して、言語的・文化的側面から学び、異文化とは何か、異文化理解とは何なのか、異文化間でコミュニケーションを行なう際に重要なことは何なのか、を学んでいく。	メッセージ この授業では、異文化コミュニケーションに関して言語的・文化的側面から学んでいきます。授業では毎回クイズ（ミニテスト；計13回予定）と宿題（計4回予定）があつて大変かもしれませんが、興味深い授業になるよう工夫していく予定です。
	到達目標 (1) 異文化とは何かを理解できる。 (2) 異文化理解に必要な知識を身につけることができる。 (3) 異文化間でのコミュニケーションに関する知識を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	4/8：イントロダクション、文化とは（1）	クイズの勉強、復習、次回の予習
	2	4/15：クイズ（1）； 文化とは（2）	クイズの勉強、復習、次回の予習
	3	4/22：クイズ（2）； コミュニケーションとは	クイズの勉強、復習、次回の予習
	4	5/6：クイズ（3）； 異文化、異文化理解、異文化コミュニケーションとは	クイズの勉強、復習、次回の予習
	5	5/13：クイズ（4）； 異文化適応、違いに気づく； 宿題（1）	クイズの勉強、復習、次回の予習
	6	5/20：クイズ（5）； 言語コミュニケーション（1）	クイズの勉強、復習、次回の予習
	7	5/27：クイズ（6）； 言語コミュニケーション（2）	クイズの勉強、復習、次回の予習
	8	6/3：クイズ（7）； 非言語コミュニケーション（1）	クイズの勉強、復習、次回の予習
9	6/10：クイズ（8）； 非言語コミュニケーション（2）、あいづち	クイズの勉強、復習、次回の予習	
10	6/17：クイズ（9）； 異文化の認識（1）：固定観念、カテゴリー化、ステレオタイプ、差別	クイズの勉強、復習、次回の予習	
11	6/24：クイズ（10）； 異文化の認識（2）：差別について考える（ビデオ鑑賞）；宿題（2）	復習、次回の予習	
12	7/1：コミュニケーションと地域差・ジェンダー差； 宿題（3）	クイズの勉強、復習、次回の予習	
13	7/8：クイズ（11）； コミュニケーションと世代差； 宿題（4）	クイズの勉強、復習、次回の予習	
14	7/22：クイズ（12）； 世界の価値観、ポライトネス理論	クイズの勉強、復習	
15	7/29：クイズ（13）； まとめ	期末試験の為の準備	
16	8/5：期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 授業ではハンドアウトのみを使用します。 授業内で適宜参考文献を紹介します。		
	学びの手立て ・ 授業の為に、出来る限り予習復習を欠かさないこと。 ・ クイズが毎回授業の初めに行なわれるので、遅刻・欠席をしないようにし、しっかりクイズを受けること。 ・ 宿題にしっかり取り組み提出期限を守ること。		
	評価 クイズ50%、宿題20%、期末試験30% クイズは、前回の授業で学習したもの（ハンドアウトの内容及び講師が授業内で説明したもの）から出します。 期末試験は、基本的には授業の初回からが範囲となり、クイズを大きくした形式で行ないます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期では、「コミュニケーションスキルII」を提供し、世界で話されている英語について、またそういった英語と日本人の英語とに何らかの類似点・相違点があるか、を学習していく予定です。 ここで学んだことを活かし、自立した社会人となり、異文化とのコミュニケーションを積極的に取ってもらいたいと思います。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキルⅡ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高良 宣孝	3年	e-mail、授業終了後教室で (nobu@ll.u-ryuky.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、世界中で話されている様々な英語 (World Englishes) を言語的・文化的側面から学ぶ。単にイギリス・アメリカの英語だけではなく、オーストラリア、インド、東南アジア諸国、アフリカ諸国、及び東アジアを代表して日本で話されている英語も学んでいく。これらの学習を通して、異文化間でのコミュニケーションの大切さを学んでいく。	この授業では、世界中で話されている様々な英語を学び、異文化間でのコミュニケーションの大切さを学んでいきます。授業では毎回クイズ (ミニテスト; 14回予定) と宿題 (4~5回予定) があって大変かもしれませんが、興味深い授業になるよう工夫していく予定です。
到達目標	(1) 世界中で話されている様々な英語について、言語的・文化的側面がしっかり理解できる。 (2) 異文化間でのコミュニケーションの大切さがしっかり理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	9/23: イントロダクション、World Englishesに関する用語解説 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習
2	9/30: クイズ (1); World Englishesに関する用語解説 (2)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
3	10/7: クイズ (2); イギリスの英語 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
4	10/14: クイズ (3); イギリスの英語 (2)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
5	10/21: クイズ (4); アメリカの英語 (1); 宿題 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
6	10/28: クイズ (5); アメリカの英語 (2)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
7	11/4: クイズ (6); オーストラリアの英語 (1); 宿題 (2)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
8	11/11: クイズ (7); オーストラリアの英語 (2)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
9	11/18: クイズ (8); インドの英語 (1); 宿題 (3)、中間試験	クイズの勉強、復習、次回の予習	
10	12/2: クイズ (9); インドの英語 (2)、東南アジア諸国の英語 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
11	12/9: クイズ (10); 東南アジア諸国の英語 (2); 宿題 (4)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
12	12/16: クイズ (11); 東南アジア諸国の英語 (3)、アフリカ諸国の英語 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
13	12/23: クイズ (12); アフリカ諸国の英語 (2); 宿題 (5)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
14	1/6: クイズ (13); アフリカ諸国の英語 (3)、日本の英語 (1)	クイズの勉強、復習、次回の予習	
15	1/20: クイズ (14); 日本の英語 (2)、まとめ	期末試験の為の準備	
16	1/27: 期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	授業ではハンドアウトのみを使用します。 授業内で適宜参考文献を紹介します。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の為に、出来る限り予習復習を欠かさないこと。 ・ クイズが毎回授業の初めに行なわれるので、遅刻・欠席をしないようにし、しっかりクイズを受けること。 		
評価	クイズ50%、宿題20%、中間試験 (Take-home Exam) 10%、期末試験20% クイズは、前回の授業で学習したもの (ハンドアウト及び講師が授業内で説明したもの) から出します。 中間試験は基本的には「用語解説～オーストラリアの英語」まで、期末試験は基本的には「インドの英語～日本の英語」までが範囲となり、クイズや宿題を大きくした形式で行ないます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ここで学んだことを活かし、自立した社会人となり、異文化とのコミュニケーションを積極的に取ってもらいたいと思います。
-------	--

※ポリシーとの関連性 中学校国語科書写に必要な知識と技能を学ぶことを主な目的とします。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半(30分程度)を講義、後半を実技に充てます。講義では筆順の原則や活字と手書き文字の違い、許容の形など、他、楷書に至るまでの文字の成り立ちを概観します。実技では書道と書写の違いを踏まえ、中学校書写の教科書を題材とした授業を行います。	小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文字について正しい筆順で速く正しく美しい文字を書くことができる。 いわゆる許容の文字について理解が深まる。 活字と手書きの文字の違いを認識して生徒に指導することができる。 毛筆で培った文字を硬筆に生かして指導することができる。 日常生活の中で毛筆によって文字を書くことができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ	学習指導要領を読むこと
	2	筆順の原則① 実技 楷書を書く①	配付資料を読むこと 実技復習
	3	筆順の原則② 実技 楷書を書く②	同上 実技復習
	4	許容の字体について 実技 楷書を書く③	同上 実技復習
	5	漢字の誕生－甲骨文－ 実技 楷書と仮名の調和①	同上 実技復習
	6	金文について 実技 楷書と仮名の調和②	同上 実技復習
	7	篆書について 実技 行書を書く①	同上 実技復習
	8	隸書について 実技 行書を書く②	同上 実技復習
	9	様々な書(草書・木簡など) 実技 行書を書く③	同上 実技復習
	10	書聖王羲之 実技 行書と仮名の調和①	同上 実技復習
	11	楷書の成立 実技 行書と仮名の調和②	同上 実技復習
	12	三過折法について 実技 細字を書く	同上 実技復習
	13	初唐の三大大家について 実技 仮名を書く①	同上 実技復習
	14	顔真卿と明朝体 実技 仮名を書く②	同上 実技復習
15	臨書の方法について 実技 半切1/4に書く	同上 実技復習	
16	期末考査		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献・資料として中学校書写の教科書及び「中国書道史」角井博監修 芸術新聞社刊・「改訂 大学書写・書道教育」加藤達成監修 第一法規株式会社刊が役に立ちます。
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく休まないこと。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 ・毎時間必要な道具を忘れないこと。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点20パーセント。但し、無断欠席が5回以上になると不可とする。 ・毎回提出する作品60パーセント。レポート20パーセント。以上のことを総合的に判断して評価する。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道実習 書写は書道の一部分です。両方受講することでより効果が上がります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 中学校国語科書写に必要な知識と技能を学ぶことを主な目的とします。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半(30分程度)を講義、後半を実技に充てます。講義では筆順の原則や活字と手書き文字の違い、許容の形など、他、楷書に至るまでの文字の成り立ちを概観します。実技では書道と書写の違いを踏まえ、中学校書写の教科書を題材とした授業を行います。	小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文字について正しい筆順で速く正しく美しい文字を書くことができる。 いわゆる許容の文字について理解が深まる。 活字と手書きの文字の違いを認識して生徒に指導することができる。 毛筆で培った文字を硬筆に生かして指導することができる。 日常生活の中で毛筆によって文字を書くことができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ	学習指導要領を読むこと
	2	筆順の原則① 実技 楷書を書く①	配付資料を読むこと 実技復習
	3	筆順の原則② 実技 楷書を書く②	同上 実技復習
	4	許容の字体について 実技 楷書を書く③	同上 実技復習
	5	漢字の誕生－甲骨文－ 実技 楷書と仮名の調和①	同上 実技復習
	6	金文について 実技 楷書と仮名の調和②	同上 実技復習
	7	篆書について 実技 行書を書く①	同上 実技復習
	8	隸書について 実技 行書を書く②	同上 実技復習
	9	様々な書(草書・木簡など) 実技 行書を書く③	同上 実技復習
	10	書聖王羲之 実技 行書と仮名の調和①	同上 実技復習
	11	楷書の成立 実技 行書と仮名の調和②	同上 実技復習
	12	三過折法について 実技 細字を書く	同上 実技復習
	13	初唐の三大大家について 実技 仮名を書く①	同上 実技復習
	14	顔真卿と明朝体 実技 仮名を書く②	同上 実技復習
15	臨書の方法について 実技 半切1/4に書く	同上 実技復習	
16	期末考査		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献・資料として中学校書写の教科書及び「中国書道史」角井博監修 芸術新聞社刊・「改訂 大学書写・書道教育」加藤達成監修 第一法規株式会社刊が役に立ちます。
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく休まないこと。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 ・毎時間必要な道具を忘れないこと。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点20パーセント。 但し、無断欠席が5回以上になると不可とする ・毎回提出する作品60パーセント。レポート20パーセント。以上のことを総合的に判断して評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道実習 書写は書道の一部です。両方受講することでより効果が上がります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

書の表現を学ぶ上で基礎となる古典についての理解や文字の造形や線質、用具の扱い方などを習得する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 実技を中心とした授業を行います。古典の臨書を通して、各書体について基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。併せて表現の方法にも触れます。また、書写との関連にも配慮するとともに、文房四宝などについても知識を深め、その扱いについても学びます。	メッセージ 小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります。
	到達目標 ①文字についてその時代背景や成り立ちがわかるようになり、普段何気なく使っている文字についての理解が深まります。 ②日常生活の中で筆を使う機会が増え、ポスターや慶弔の袋の上書きなど、様々な場面で筆を使い、生活が豊かになります。 ③毛筆による作品の制作など日常生活が豊かになります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	楷書を書く－楷書の基本用筆について－	楷書の基本用筆について（復習）
	3	臨書①九成宮醜泉銘	臨書①九成宮醜泉銘（復習）
	4	臨書②雁塔聖教序	臨書②雁塔聖教序（復習）
	5	臨書③張猛龍碑	臨書③張猛龍碑（復習）
	6	行書を書く－行書の基本用筆－	行書の基本用筆（復習）
	7	臨書①蘭亭序	臨書①蘭亭序（復習）
	8	臨書②争坐位稿	臨書②争坐位稿（復習）
	9	隷書を書く－隷書の基本用筆－	隷書の基本用筆（復習）
	10	臨書①曹全碑	臨書①曹全碑（復習）
	11	臨書②史晨碑	臨書②史晨碑（復習）
	12	創作① 漢字の書	題材や書体の選定をしていくこと
	13	創作②	前時の復習を行うこと
	14	創作① 漢字仮名交じりの書	題材の選定をしていくこと
15	創作②		
16			
テキスト・参考文献・資料など .テキスト：使用しません。プリントを配布します。			
学びの手立て ・なるべく休まないこと。たとえば隷書の学習で基本用筆の授業を受けてないと古典の学習が難しくなります。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。・毎時間必要な道具を忘れないこと。			
評価 ・平常点40パーセント。 但し、無断欠席が5回以上になると不可とします。・毎回提出する作品60パーセント。以上のことを総合的に判断して評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・書写 ・書写は書道的一部分です。両方受講することで効果が上がります。
-------	---

※ポリシーとの関連性

書の表現を学ぶ上で基礎となる古典についての理解や文字の造形や線質、用具の扱い方などを習得する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>実技を中心とした授業を行います。古典の臨書を通して、各書体について基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。併せて表現の方法にも触れます。また、書写との関連にも配慮するとともに、文房四宝などについても知識を深め、その扱いについても学びます。</p> <p>到達目標</p> <p>①文字についてその時代背景や成り立ちがわかるようになり、普段何気なく使っている文字についての理解が深まります。</p> <p>②日常生活の中で筆を使う機会が増え、ポスターや慶弔の袋の上書きなど、様々な場面で筆を使い、生活が豊かになります。</p> <p>③毛筆による作品の制作など日常生活が豊かになります。</p>	<p>小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	楷書を書く－楷書の基本用筆について－	楷書の基本用筆について（復習）
	3	臨書①九成宮醜泉銘	臨書①九成宮醜泉銘（復習）
	4	臨書②雁塔聖教序	臨書②雁塔聖教序（復習）
	5	臨書③張猛龍碑	臨書③張猛龍碑（復習）
	6	行書を書く－行書の基本用筆－	行書の基本用筆（復習）
	7	臨書①蘭亭序	臨書①蘭亭序（復習）
	8	臨書②争坐位稿	臨書②争坐位稿（復習）
	9	隷書を書く－隷書の基本用筆－	隷書の基本用筆（復習）
	10	臨書①曹全碑	臨書①曹全碑（復習）
	11	臨書②史晨碑	臨書②史晨碑（復習）
	12	創作① 漢字の書	題材や書体の選定をしていくこと
	13	創作②	前時の復習
14	創作① 漢字仮名交じりの書	題材の選定をしていくこと	
15	創作②		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
.テキスト：使用しません。プリントを配布します。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> なるべく休まないこと。たとえば隷書の学習で基本用筆の授業を受けてないと古典の学習が難しくなります。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 毎時間必要な道具を忘れないこと。 			
評価			
<ul style="list-style-type: none"> 平常点40パーセント。 但し、無断欠席が5回以上になると不可とします。 毎回提出する作品60パーセント。以上のことを総合的に判断して評価します。 			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写 書写は書道的一部分です。両方受講することで効果が上がります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童文化論	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 児童文化としての昔話・民話を題材として、情報発信のルールとマナーについて広く学習するとともに、その理論に基づいて子ども向けアニメーションを制作、インターネット上に公開するというプロセスを通して、実践的なICTの活用能力を身に着ける。	メッセージ 昨年度とは少し内容が異なります。今年度は情報上級処理士の資格取得に特化し、社会人として求められるICTの活用スキルと協働する力の育成を目指します。
	到達目標 ①1年生必修科目「文化情報処理入門」にて修得した文書処理・表計算処理の技能をベースとして、画像、音声、動画処理を含むマルチメディア情報の処理に求められる基本的なスキルを身に付ける。 ②インターネット(SNS等)での日々の情報行動を自律的に管理するための知識、モラル・マナーを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループの決定	シラバスを読み、授業に備える
	2	沖縄の文化的コンテンツを発信する意義・作品の選定・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の検討
	3	情報発信のルール・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の検討
	4	情報発信のマナー・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の完成
	5	グループワーク(シナリオ案の提出)	シナリオ案の再検討
	6	グループワーク(シナリオ案の返却・修正)	シナリオ案を作成する
	7	グループワーク(リハーサル)	朗読の練習
	8	スタジオ録音(本番)	音声データのチェック
	9	音声の編集方法 ファイルの種類、結合とミキシング、フェードイン・フェードアウトほか	音声を編集し作品を作る
	10	実習(音声編集)	音声を編集し作品を作る
	11	イラストの作成方法	イラストを作成する
	12	実習(イラスト制作)・図書館での調査	イラストを作成する
	13	アニメーションの作成方法	アニメーションを作成する
	14	実習(アニメーション制作)	アニメーションを作成する
15	課題提出・ネット公開・プレゼンテーション	YouTubeに公開する	
16			
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・第2回以降はPC室での授業となるため、教材のデータを保存するためのUSBを各自準備しましょう。		
	学びの手立て ・本科目は上級情報処理士の認定科目(必修科目)の1つです。PC室の定員(55名)を超える場合は、基礎的な情報科目の履修を終えた、資格取得を目指す学生の受講を優先します。 ・同科目は前期にも開講されますが、前期は3年生のクラスです。2年生は後期クラスを受講しましょう。都合が悪い人は2021年度開講予定クラスを受講しましょう。 ・この科目は来年度(2020年度)は開講されません。 ・図書館スタジオでの録音は受講者の数によって複数の週にまたがって行うことがあります。		
	評価 ・グループワークでの取り組み(40点) ・ソフトウェアの完成度(60点)とし、総合的に評価する。 ・欠席回数が全体の1/3を超えた場合は不可となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・上級情報処理士の必修科目となっている「アカデミック・セミナー」では、この科目で作成した音声データ、イラストを用いたより高度なソフトウェア制作を行います。「アカデミック・セミナー」は2020年度後期に開講予定です。データをなくさないように大切に保管して、ぜひ継続して(連続して)受講しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童文化論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 児童文化としての昔話・民話を題材として、情報発信のルールとマナーについて広く学習するとともに、その理論に基づいて子ども向けアニメーションを制作、インターネット上に公開するというプロセスを通して、実践的なICTの活用能力を身に着ける。	メッセージ 今年度は情報上級処理士の資格取得に特化し、社会人として求められるICTの活用スキルと協働する力の育成を目指します。(※昨年度とは少し内容が異なります)
	到達目標 ①1年生必修科目「文化情報処理入門」にて修得した文書処理・表計算処理の技能をベースとして、画像、音声、動画処理を含むマルチメディア情報の処理に求められる基本的なスキルを身に付ける。 ②インターネット(SNS等)での日々の情報行動を自律的に管理するための知識、モラル・マナーを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループの決定	シラバスを読み、授業に備える
	2	沖縄の文化的コンテンツを発信する意義・作品の選定・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の検討
	3	情報発信のルール・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の検討
	4	情報発信のマナー・グループワーク(シナリオ案作成)	シナリオ案の検討
	5	グループワーク(シナリオ案の提出)	シナリオ案の完成
	6	グループワーク(シナリオ案の返却・修正)	シナリオ案の再検討
	7	グループワーク(リハーサル)	朗読の練習
	8	スタジオ録音(本番)	音声データのチェック
9	音声の編集方法 ファイルの種類、結合とミキシング、フェードイン・フェードアウトほか	音声を編集し作品を作る	
10	実習(音声編集)	音声を編集し作品を作る	
11	イラストの作成方法	イラストを作成する	
12	実習(イラスト制作)・図書館での調査	イラストを作成する	
13	アニメーションの作成方法	アニメーションを作成する	
14	実習(アニメーション制作)	アニメーションを作成する	
15	課題提出・ネット公開・プレゼンテーション	YouTubeに公開する	
16			
	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布する。 ・第2回以降はPC室での授業となるため、教材のデータを保存するためのUSBを各自準備すること。		
	学びの手立て ・本科目は上級情報処理士の認定科目の1つ。PC教室の定員が55名のため、受講者が多い場合は、基礎的な情報科目の履修を終えた、資格取得を目指す学生の受講を優先します。 ・本科目は2019年度は前期後期に開講されます。原則として、前期は3年生クラス、後期は2年生クラスです。 ・本科目は2020年度は開講されないため、3年生で、時間割の重複により前期の受講ができない場合は、事前に山口に許可を取った上で後期の授業に登録しましょう。 ・図書館スタジオでの録音は受講者の数によって複数の週にまたがって行くこともあります。 ・本科目と「アカデミック・セミナー」は連続する科目です。同じ年度内に必ず2科目を受講しましょう。「アカデミック・セミナー」も2020年度は現3年生向けクラスは開講されません。		
	評価 ・グループワークでの取り組み(40点) ・ソフトウェアの完成度(60点) とし、総合的に評価する。 ・欠席回数が全体の2/3を超えた場合は不可となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・上級情報処理士の必修科目となっている「アカデミック・セミナー」では、この科目で作成した音声データ、イラストを用いたより高度なソフトウェア制作を行います。ぜひ継続して(連続して)受講しましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

国際社会に関わっていく上で不可欠な知識を習得する科目です。多文化間コミュニケーションコースの学問体系の基礎を身に付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジャパノロジー I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 多様化する国際社会において自己アイデンティティを認識することの第一歩として日本語、日本文化を再確認する。	メッセージ 自分にとって「当たり前」にあるものを捉えなおし、それが「当たり前」ではない人に説明ができるようになります。
	到達目標 再学習した「日本語・日本文化」について他者に伝えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ジャパノロジーとは	関連文献を読む
	2	日本語の特徴①（文の構造から）	関連文献を読む
	3	日本語の特徴②（表記と待遇表現）	関連文献を読む
	4	日本語の特徴③（人称と役割語）	関連文献を読む
	5	日本語の特徴④（社会方言と地域方言）	関連文献を読む
	6	日本語の特徴⑤（視点の問題とサピア・ウォーフの仮説）	関連文献を読む
	7	日本語の特徴⑥（カテゴリーとイメージスキーマ）	関連文献を読む
	8	中間試験	復習
	9	日本語の特徴⑦（喩え①メタファー）	配布資料を精読
	10	日本語の特徴⑧（喩え②ことわざと慣用語）	発表準備
	11	日本語の特徴⑨（喩え③メトニミー）	発表準備
	12	日本語の特徴⑩（喩え④復習とシネクドキ）	関連文献を読む
	13	日本語の特徴⑪（オノマトペ①）	関連文献を読む
	14	日本語の特徴⑫（オノマトペ②）	関連文献を読む
15	まとめ	復習	
16	期末試験	総復習	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問視する態度と、それを追究し説明する力を身につけて欲しい。そのためにも情報収集（辞書・ネット・文献など）を習慣化することを期待する。グループやペアで話し合いをする機会が何度もあります。伝え合う中で、考えを広げたり深めたりできるように、しっかり活動に取り組んでください。		
	評価 中間試験（25%） 学期末試験（25%） 課題（30%） 平常点（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本を更に理解を深めるためにも「ジャパノロジーⅡ」の履修を強く勧める。その他「海外語学・文化セミナーⅠ～Ⅴ」等の国際理解を深める科目の履修も期待する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースの学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための導入科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジャパノロジーⅡ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Emailや、授業後教室で受けつける。	

学びの準備	ねらい 日本や沖縄について捉え直すこと、それらを他者に伝えることなどを通し、国際的な場で必要な知識とスキルを身に付けます。	メッセージ 身近なことから、日本や沖縄について興味を持ち、考えましょう。また、発表やグループディスカッションなど、伝え合う活動に積極的に参加してください。
	到達目標 日本や沖縄の文化・社会について、身近なことから考えていきます。それらについて知り、考え、そして伝え合う活動をする中で、自分の文化や社会を相対的に捉える視点を持てるようになることを目指します。授業の中で行うグループディスカッションでは、自分の意見や考えを他者に伝える力、他者の意見や考えを聞く力を養います。「知ること」「考えること」「伝え合うこと」を通して、自分の考えを広げたり深めたりすること、そして高度なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 「ジャパノロジー」とは 「文化」とは①	関連文献・記事などを調べる
	2	「文化」とは②	関連文献・記事などを調べる
	3	異文化コミュニケーション	関連文献・記事などを調べる
	4	異文化トレーニング実践	実践して感じたことをまとめる
	5	異文化間で摩擦がおきたら (アサーティブコミュニケーション)	関連文献・記事などを調べる
	6	日本の伝統/文化①	関連文献・記事などを調べる
	7	日本の伝統/文化②	関連文献・記事などを調べる
	8	中間試験	復習
9	固定観念とステレオタイプ	関連文献・記事などを調べる	
10	差別とポリティカル・コレクトネス①	関連文献・記事などを調べる	
11	差別とポリティカル・コレクトネス②	関連文献・記事などを調べる	
12	コミュニケーション①コミュニケーションの捉え方	関連文献・記事などを調べる	
13	コミュニケーション②ポライトネス理論 (1)	関連文献・記事などを調べる	
14	コミュニケーション③ポライトネス理論 (2)	関連文献・記事などを調べる	
15	まとめ	復習	
16	期末試験	総復習	
テキスト・参考文献・資料など 参考文献 原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社 その他随時紹介			
学びの手立て 知識を得ていくと同時に、自分の体験や経験から考えていくことを重視します。グループディスカッションでは、他者を尊重する姿勢を求めます。シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況等によって変わることがあります。			
評価 中間試験 (30%) ・ 期末試験 (30%) ・ 課題 (20%) ・ 平常点 (20%)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジーⅠ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆を見据え、言語研究の基礎を学び方法論を身につけます。プレ研究テーマを設定して、先行研究を収集・分析し、実際に調査を行います。そして、その研究結果を中間報告します。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。	

学びの準備	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、ゼミ開き プレ研究テーマの設定 以下の項目に関する中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した先行研究のリスト ・主要な先行研究のまとめと考察 ・研究テーマに関わる領域の研究状況 <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p> <p>★先行研究の収集とそのまとめは、卒業論文のテーマにしたいと考えている領域が現在どのような研究状況にあるのかを把握するための重要な作業となります。先行研究を分析することで生じてくる疑問や不十分だと思われる点を、卒業論文へと繋げていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。</p>
	<p>評価</p> <p>中間報告の内容、研究テーマへの取り組み方から総合的に判断します。</p>

学びの実践	評価 中間報告の内容、研究テーマへの取り組み方から総合的に判断します。
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅡ」</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 資料を探す。分析する。まとめる。この手順を身につけてほしい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる (1)	資料の収集
	3	調べる (2)	資料の読み込み
	4	調べる (3)	資料の収集
	5	調べる (4)	資料の読み込み
	6	分析する (1)	発表の準備
	7	分析する (2)	発表の準備
	8	分析する (3)	発表の準備
9	分析する (4)	発表の準備	
10	発表する (1)	発表の手直し	
11	発表する (2)	発表の手直し	
12	発表する (3)	発表の手直し	
13	発表する (4)	発表の手直し	
14	発表する (5)	発表の手直し	
15	発表する (6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。		
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナール II においては先行研究を読み込み、分析を深めたい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための実践的な「ゼミナール」（演習科目）。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	3年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近現代の文学の作品を取り上げ、研究の基礎からゼミ発表、論文作成までのプロセスをゼミのメンバーと共有する。	メッセージ 一つの作品、テーマをめぐって仲間と真剣に考え、論じ合うゼミの楽しさを知ってもらいたい。
	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。	

学びの準備	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。
-------	---------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他プリント使用。 参考文献：作品に応じて適宜指示します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他プリント使用。 参考文献：作品に応じて適宜指示します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回の課題を着実にこなすこと。</p>
-------	--------------------------------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>①発表(70%) ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度(30%)</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：ゼミナールⅡ</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化及び琉球文化に専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指し論理的・批判的思考力や課題探究力を養う必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 受講生は1～2年で履修してきた専門科目および選択科目を総合的に整理し文化について理解してもらう。また、卒業論文のテーマ設定を念頭に置き、クラスに参加してもらう。各自が興味を持っているテーマを話し合い、必要な知識、欠落している知識を確認し補っていく。	メッセージ このクラスで話し合う課題が最終的に卒業論文の作成につながるよう意識してもらいたい。
	到達目標 自分が興味を持つ課題を明確に把握するためにも話し合い、先行研究や資料の検討を十分に行い。受講時点で自分が分かっている知識を基礎に補足すべき知識の入手、確認すべき資料の収集方法を具体的に示すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	過卒生のゼミ論紹介
	2	ゼミナールの有り方について（約束とスケジュール確認）	評価方法などの質疑
	3	論文、報告書、感想文などの特徴と形式の確認	論文とはどんなものか
	4	同上	同上
	5	主観的表現と客観的表現	事例を挙げ検討してもらう
	6	論理性とは	論理性を高めるには・・・
	7	サンプル論文の紹介と精読、図書館の利用と学科資料室の利用	ネット資料の取り扱いと書籍の違い
	8	グループ分けと課題の決定	サンプル論文を批判的に査読
9	テーマの選定とゼミ報告書の執筆開始	実際の論文や資料を読む。	
10	テーマの選定とゼミ報告書の執筆開始	実際の論文や資料を読む。	
11	話し合い（進捗報告・問題点について）	個別面談と話し合い	
12	話し合い（進捗報告・問題点について）	同上	
13	中間発表（質疑と報告）	プレゼン資料の作成	
14	中間発表（質疑と報告）	同上	
15	ゼミ報告書の提出	報告書の仕上げ	
16	ゼミ報告書の提出	評価方法の確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じて自己決定し報告してください。適宜紹介します。 高橋順一 他（1998）『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版 小笠原喜康 『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書 その他、適宜に紹介する。		
	学びの手立て 話し合いが最も知的刺激になる。疑問に思ったら調べる（ネット情報だけでなく書籍に当たる）、そして再度話し合うことを繰り返してほしい。グループ毎に中間発表の場を設ける。		
	評価 グループ発表と学期末に提出してもらう「ゼミ報告書」を基に次の3点を基準に分担毎に評価する。 総合評価（グループ50% 個人50%） 1) 文章の構成・論理性（テーマの明示、参考文献の要約、展開と考察）40% 2) 先行研究（資料の収集量と質）40% 3) 全体の構成 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 収集した課題（テーマ）に関する資料の更なる精読と要約を行い卒業論文作成へ進んでもらいたい。そのためにも「ゼミナールⅡ」を履修することが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあう」こと。情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマの調査研究を進め、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。3年生では、次年度の卒業論文作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、資料情報調査を徹底的におこなうこと。</p>	<p>次年度の卒論作成に向けて各自の問題意識を整理し、基礎的知識の獲得を目指し、卒論のテーマ設定への第一歩を踏み出す。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論で取り上げるテーマを、各自の興味・関心に応じて発見・設定すること	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：論文作成作業について	第1～7週：論文の書き方についての基礎知識を修得するので、プリントと関連文献を通して各要素を把握する
	2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール	
	3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法	
	4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法	
	5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法	
	6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方	
	7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議	
8	テーマと方法論の発表／個別指導①	第8～11週：自分の問題意識を明確化するため、先行研究を含めた関連文献に広く目を通すこと	
9	テーマと方法論の発表／個別指導②		
10	テーマと方法論の発表／個別指導③		
11	テーマと方法論の発表／個別指導④		
12	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導①	第12～15週：ゼミ論のテーマを確定させ作成するため、研究室での個別指導を繰り返す	
13	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導②		
14	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導③		
15	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導④		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて調査方法・関連資料などを紹介する。		
	学びの手立て		
	各自のテーマを自ら設定するため、関連文献を網羅的に収集し、広く読むことで知識の獲得を目指す。同時に興味・関心を持つ分野を絞り込み、その分野の基礎的知識の土台作りをめざす。		
	評価		
	平常点（10%）と各自の発表内容（80%）、討議への参加姿勢（10%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>次年度の卒論に発展させるため、興味・関心があるテーマが含まれる該当分野を対象として、情報収集、取捨選択、内容把握を進め、ゼミ論の第1章に相当する問題設定に関する事項をまとめる。「ゼミナールⅡ」へ。</p>

※ポリシーとの関連性 「3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置します。」

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、『山家集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、西行歌と風景・景観とする。西行の故地や歌枕を現地調査する研修旅行を行う。	発表内容は、最終的にゼミ論集にまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。

到達目標	【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①（『山家集』について、西行について）／ゼミの進め方・レジュメ作成の注意	シラバスの確認
	2	ガイダンス②（歌枕・歌ことばについて）／辞典類、参考図書的使用方法について	和歌の分析、解釈
	3	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	4	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	5	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	6	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	7	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	8	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	9	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	10	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	11	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	12	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	13	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
	14	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	和歌の分析、解釈
15	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	ゼミの振り返り	
16	研修旅行の計画・西行に関する故地について	ゼミ研修旅行の準備	

テキスト・参考文献・資料など	テキストは、『山家集』（角川ソフィア文庫）西行（著）、宇津木 言行（著） その他参考資料は授業内で指示する。
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 必ず【通釈】、【語釈】、【考説】の項をもってレジュメを作成すること。 『歌ことは歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）などを用いて、関連事項を調べること。 歌枕や地名等を調査し、当時の道路や交通事情と関連させて発表すること。 『完全踏査 古代の道一畿内・東海道・東山道・北陸道』吉川弘文堂（木下良監修）、『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文堂（木下良）などを参考資料とするとよい。
--------	---

評価	発表レジュメ（60%）＋演習に対する取り組み、参加状況等（20%）＋ゼミ論集の原稿作成等（20%）をもって評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による琉歌について4年次生から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）の相違を比較検討しながら、琉歌について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球古典文学研究と琉球古典芸能の研究について	研究方法の学習
	2	琉球文とおもろさうし・碑文	おもろさうし・碑文の予習
	3	琉球文と琉歌・組踊	琉歌と組踊の予習
	4	琉球文と和文（古文）	古典文法の予習
	5	琉球文による琉歌の読解（発表1）	発表1の琉歌の予習
	6	琉球文による琉歌の読解（発表2）	発表2の琉歌の予習
	7	琉球文による琉歌の読解（発表3）	発表3の琉歌の予習
	8	琉球文による琉歌の読解（発表4）	発表4の琉歌の予習
9	琉球文による琉歌の読解（発表5）	発表5の琉歌の予習	
10	琉球文による琉歌の読解（発表6）	発表6の琉歌の予習	
11	琉球文による琉歌の読解（発表7）	発表7の琉歌の予習	
12	琉球文による琉歌の読解（発表8）	発表8の琉歌の予習	
13	琉球文による琉歌の読解（発表9）	発表9の琉歌の予習	
14	琉球文による琉歌の読解（発表10）	発表10の琉歌の予習	
15	発表の総括と各自の課題について	これまでの発表の整理	
16	試験	試験に向けての資料整理	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する 参考文献：『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』		
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。		
	評価 授業参加30%・発表レジュメ20%・試験50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅡ」では、琉球文による組踊をテキストとして発表を行う。
-------	--

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
5	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
6	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
8	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
9	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
10	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
13	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
14	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
15	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
16	予備日	夏休みのための話し合い	
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。 国語科教育学への理解を深め、必要とする文献を見つける力を養ってほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに沿って論文の第1章まで書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の概要とスケジュール（発表日の確定）	卒論テーマを考える
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方	卒論テーマに関する文献検索
	3	卒論テーマの報告、章立てを決める、研究の目的を書く	卒論テーマに関する文献検索
	4	4年次中間発表会・質疑応答（1～5）	成果と展望を読む
	5	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（1～3）	成果と展望を読む
	6	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（4～6）	成果と展望を読む
	7	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（7～8）	アウトライン作成・文献を読む
	8	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告(1)	アウトライン作成・文献を読む
9	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告(2)	論文作成	
10	発表・質疑応答(1)	論文作成	
11	発表・質疑応答(2)	論文作成	
12	発表・質疑応答(3)	論文作成	
13	発表・質疑応答(4)	論文作成	
14	発表・質疑応答(5)	論文作成	
15	4年次発表会・質疑応答	論文作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 国語科教育の成果と展望Ⅰ・Ⅱ		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 レポート70%、平常点（授業への取組）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナールⅡ（3年次・後期）ゼミナールⅢ（4年次・前期）ゼミナールⅣ（4年次・後期）（2）次のステージ ゼミナールⅡでは、各自のテーマに基づいて、論文を作成し、発表する。質疑を受け、適切に回答することが求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 言語やコミュニケーションを文化・人・社会との関わりから考え、「日本文化」を専門的に捉えられるようになる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	eメール、授業後教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会言語学」の基礎的な知識を身につける。 ・論文を書くための準備のステップを理解し、実践する。 ・論文の構成を理解し、自分の論文作成に活かせるようになる。 ・論文を作成する上で必要な知識、スキルを他者と教え合い、伝え合うことができるようになる。 ・協働作業の中で課題を達成する力を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・ゼミ論準備
	2	研究計画について	文献検索と講読・ゼミ論準備
	3	発表方法の確認と発表例（レジュメの作り方）	文献検索と講読・ゼミ論準備
	4	四年次による前年度ゼミ論報告（5/9）	文献検索と講読・ゼミ論準備
	5	予備日	文献検索と講読・ゼミ論準備
	6	文献講読発表①	文献検索と講読・ゼミ論準備
	7	文献講読発表②	文献検索と講読・ゼミ論準備
	8	文献講読発表③	文献検索と講読・ゼミ論準備
	9	文献講読発表④	文献検索と講読・ゼミ論準備
	10	文献講読発表⑤	文献検索と講読・ゼミ論準備
	11	文献講読発表⑥	文献検索と講読・ゼミ論準備
	12	研究計画発表と調査方法の検討①	文献検索と講読・ゼミ論準備
	13	研究軽薄発表と調査方法の検討②	文献検索と講読・ゼミ論準備
	14	研究計画発表と調査方法の検討③	文献検索と講読・ゼミ論準備
15	研究計画発表と調査方法の検討④	文献検索と講読・ゼミ論準備	
16	研究計画発表と調査方法の検討⑤	文献検索と講読・ゼミ論準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの手立て	身近な疑問を大切にし、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。
--------	--

評価	平常点20%、レジュメおよび発表20%、課題30%、期末課題30%
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門的な情報収集能力を身につけ、レジュメやレポートの作成を通して表現力を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究の調査方法を学び、作品への理解を深める。 レジュメや論文の書き方の基本を身につける。	メッセージ 卒業論文を執筆するためには、ストーリーを理解するだけに留まらない文学作品の読解力や、自らの問題設定を明確にする力、考えていることを文章にして他者に伝える力など、さまざまな能力が求められます。まずは基礎力をつけていきましょう。
	到達目標 本講義ではレジュメ作成の方法を学んだ上で、受講生自身がレジュメをつくり、積極的に発表、発言していく力をつけることを目標とする。 先行研究の調査や論点整理、同時代状況の調査などを通して作品への理解を深め、卒業論文につながるテーマや問題意識を見出すことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・自己紹介	アカデミック・ライティングの復習
	2	レジュメ作成および卒論書式について	アカデミック・ライティングの復習
	3	ゼミ論テーマ報告・卒論進捗報告①	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	4	ゼミ論テーマ報告・卒論進捗報告②	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	5	ゼミ論テーマ報告・卒論進捗報告③	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	6	ゼミ論テーマ報告・卒論進捗報告④	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	7	模擬発表・討議①	林京子「祭りの場」を通読する。
	8	模擬発表・討議②	林京子「祭りの場」を通読する。
9	模擬発表・討議③	林京子「祭りの場」を通読する。	
10	研究発表①	指定されたテキストを読んでくる。	
11	研究発表②	指定されたテキストを読んでくる。	
12	研究発表③	指定されたテキストを読んでくる。	
13	研究発表④	指定されたテキストを読んでくる。	
14	研究発表⑤	指定されたテキストを読んでくる。	
15	研究発表⑥	指定されたテキストを読んでくる。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 学生による発表を行い、その後に教員および受講生全員で討議を行う。 基本的に昭和期の短篇小説をテキストとするが、受講生の要望に応じて若干の変更を加える可能性もある。		
	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文を執筆するための基礎力を付け、自身にふさわしいテーマの選定を行なってほしい。関連科目は「ゼミナールⅡ」。
-------	---

※ポリシーとの関連性 司会・発表を体験することでコミュニケーション能力を培い、自己の関心を他者に的確に伝える力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で明確に問題を設定し、それに基づいてレジユメを作成する。また、他者の発表についてもしっかりと向き合せて意見を出せるようにする。	メッセージ レジユメの書き方の基本を身につけ、議論する雰囲気慣れてきたら、一段高い目標に向けて進みたい。これまでの研究で十分に検討されていないところを見極め、自分自身の問題関心と突き合わせて問題設定をしていこう。 多くのテキストや先行研究に触れ、卒業論文執筆に向けた学びを深めてほしい。
	到達目標 個々のテキストがどのように研究されてきたかを踏まえた上で、新たな研究の視点を見出す。 議論をすることを通してコミュニケーション能力を養い、他者に自分の考えを論理的に伝える力を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	テキスト分析とは何か	指定されたテキストを読んでくる。
	3	テキスト分析実践	指定されたテキストを読んでくる。
	4	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
9	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
10	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
11	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
12	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
13	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
14	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
15	全体のまとめ及びレポート作成時の注意点について	レポート作成に向けての学習。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。		
	学びの手立て 受講生全員に1回の研究発表を義務づける。 発表後には教員および受講生全員で討議を行う。		
	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ。
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による組踊について4年次生から発表し、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、組踊について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	和文（古文）と琉球文について	古典文法の整理
	2	琉球土族語と琉球文について	首里語の予習
	3	能の謡と組踊の唱えの詞章について	能楽の予習
	4	日本古典文学研究と日本古典芸能の研究について	伊勢物語を読む
	5	琉球文による組踊の読解（発表1）	組踊発表1の予習
	6	琉球文による組踊の読解（発表2）	組踊発表2の予習
	7	琉球文による組踊の読解（発表3）	組踊発表3の予習
	8	琉球文による組踊の読解（発表4）	組踊発表4の予習
9	琉球文による組踊の読解（発表5）	組踊発表5の予習	
10	琉球文による組踊の読解（発表6）	組踊発表6の予習	
11	琉球文による組踊の読解（発表7）	組踊発表7の予習	
12	琉球文による組踊の読解（発表8）	組踊発表8の予習	
13	琉球文による組踊の読解（発表9）	組踊発表9の予習	
14	琉球文による組踊の読解（発表10）	組踊発表10の予習	
15	発表の総括	これまでの発表の整理	
16	試験	試験に向けての資料の整理	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語大辞典』『日本古語辞典』『琉球戯曲集』		
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。		
	評価 授業参加30%・発表20%・試験50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文」
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。

到達目標	琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
	3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈
	4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈
	5	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈
	6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈
	7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈
	8	バス見学1(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ
	9	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈
	10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈
	11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈
	12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈
	13	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈
	14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈
15	バス見学2(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	春休みの調査計画等	調査計画書作成	

テキスト・参考文献・資料など	ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。
----------------	--

学びの手立て	初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書(語彙集)作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク(野外調査)を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。
--------	--

評価	平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。 国語科教育学への理解を深め、必要とする文献をもとに、自分の考えを論理的に構築する力を養ってほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに基づき、第2章までまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	論文作成
	2	研究発表・質疑応答(1)	論文作成
	3	研究発表・質疑応答(2)	論文作成
	4	研究発表・質疑応答(3)	論文作成
	5	研究発表・質疑応答(4)	論文作成
	6	研究発表・質疑応答(5)	論文作成
	7	研究発表・質疑応答(6)	論文作成
	8	研究発表・質疑応答(7)	論文作成
9	研究発表・質疑応答(8)	論文作成	
10	研究発表・質疑応答(9)	論文作成	
11	研究発表・質疑応答(10)	論文作成	
12	4年次発表会・質疑応答(1)	論文作成	
13	4年次発表会・質疑応答(2)	論文作成	
14	ゼミ論集の作成(誤字脱字・引用・脚注のチェック)	論文作成	
15	まとめ	論文作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。(欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。) ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 レポート70%、平常点(授業への取組)30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナールⅢ(4年次・前期)ゼミナールⅣ(4年次・後期) (2) 次のステージ ゼミナールⅢでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。 カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味や関心から、ゼミ論文・卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。 ・調査したこと、考察したことをレジュメやスライドにまとめて伝えられるようになること。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・調査
	2	論文の書き方と先行研究	文献検索と講読・調査
	3	先行研究の報告①	発表準備、文献検索と講読・調査
	4	先行研究の報告②	発表準備、文献検索と講読・調査
	5	先行研究の報告③	発表準備、文献検索と講読・調査
	6	先行研究の報告④	発表準備、文献検索と講読・調査
	7	先行研究の報告⑤	発表準備、文献検索と講読・調査
	8	先行研究の報告⑥	発表準備、文献検索と講読・調査
9	個別指導と相互学習	論文執筆	
10	個別指導と相互学習	論文執筆	
11	個別指導と相互学習	論文執筆	
12	個別指導と相互学習	論文執筆	
13	ゼミ論中間発表①	発表準備、論文執筆	
14	ゼミ論中間発表②	発表準備、論文執筆	
15	ゼミ論中間発表③	発表準備、論文執筆	
16	卒業論文報告会	卒業論文の構想を練る	
実践	テキスト・参考文献・資料など	授業の中で適宜紹介する。	
学びの手立て	身近な疑問を大切にし、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。		
評価	平常点10%、レジュメおよび発表20%、課題30%、ゼミ論文40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、概ね日本の古典文学、国語科教育に関する分野について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマを設定してレポート発表する。また、臨地研修などを通して、研究対象と向き合うことによって、様々な知見を経験的・実感的に学んでいく。	学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的・経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分自身の興味関心、問題意識に基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。 2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。 3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス①（文献検索の方法、調査方法等）	シラバスの確認
2	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
3	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
4	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
5	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
6	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
7	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
8	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
9	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
10	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
11	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
12	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
13	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
14	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
15	ゼミ論集の編集	ゼミの振り返り	
16	ゼミ論集配布	ゼミ論集を使って学びの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て ・ 研究報告は、予め発表の順番を決めてから行う。期日までに発表レジュメを作成すること。 ・ 辞典、事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。		
	評価 発表内容（40%）・演習に対する取り組みの姿勢等（60%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。この手順をぜひ身につけてほしい。	

学びの準備	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。この手順をぜひ身につけてほしい。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる〈1〉	資料の収集
	3	調べる〈2〉	資料の読み込み
	4	調べる〈3〉	資料の収集
	5	調べる〈4〉	資料の読み込み
	6	分析する〈1〉	発表の準備
	7	分析する〈2〉	発表の準備
	8	分析する〈3〉	発表の準備
	9	分析する〈4〉	発表の準備
	10	発表する〈1〉	発表の手直し
	11	発表する〈2〉	発表の手直し
	12	発表する〈3〉	発表の手直し
	13	発表する〈4〉	発表の手直し
	14	発表する〈5〉	発表の手直し
15	発表する〈6〉	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。		
学びの手立て	日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
評価	提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢにおいては卒業論文の作成を視野に入れつつ、発表を行う。
-------	--

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための実践的な「ゼミナール」（演習科目）。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	3年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近現代の文学の作品を取り上げ、研究の基礎からゼミ発表、論文作成までのプロセスをゼミのメンバーと共有する。	メッセージ 作品、テーマをめぐって仲間と真剣に考え、論じ合うゼミの楽しさを知ってもらいたい。
	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。ゼミ報告集の編集、発行。	

学びの準備	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。ゼミ報告集の編集、発行。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 プリント使用。</p> <p>参考文献：適宜指示します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 プリント使用。</p> <p>参考文献：適宜指示します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回の課題を着実にこなすこと。他のメンバーと助け合うこと。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①発表(70%) ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度(30%)</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：ゼミナールⅢ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ゼミ論のテーマを決定する。個人およびグループでの「ゼミ論」の記述が目標となる。ゼミ論完成に向けて必要な知識の確認を行う。このゼミ論は卒論に繋がるよう書いてもらう。	メッセージ 自分が書きたい事(テーマ)をクラスメートや教員に話すことで既習事項や欠落している知識を確認できます。話し合いは大事です。
	到達目標 ゼミナールで選択したテーマに関する資料収集の手段、量と質の確認。資料の要約と活用ができるようになる。それらを論理的に順序立てて執筆できるようになるのを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	日程の確認
	2	各自の分担論文の選定	各自の論文内容の確認
	3	中間発表の日程の調整	中間発表の評価基準を説明。
	4	資料・論文の精読(話し合い)	比較・対照を焦点に検討します
	5	同上	同上
	6	中間発表会スタート 発表と質疑	毎回2グループ程度
	7	同上	同上
	8	同上	同上
	9	同上	同上
	10	発表課題の修正	質疑を踏まえて修正
	11	同上	同上
	12	ゼミ論の仮テーマの決定・卒論への展開	章立てを考えます
	13	執筆計画日程の話し合いと決定	次年度までの執筆日程の具体化
	14	同上	同上
15	ゼミ論の提出	締切日厳守	
16	評価に関する質疑	自己採点の再確認	
テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じ適宜紹介します。 論文を書く際の規則やスタイルを紹介した「論文の書き方」に関する書籍は各自で入手、精読してください。 図書館の提供する論文の手引きを活用してください。			
学びの手立て 自分のテーマについて他者に説明することで考えもはっきりとしてきます。足りない知識や必要な情報などを把握するには話して(発表)、質問を受けることが最も効果的です。			
評価 報告書(ゼミ論)の仕上がりで評価します。評価項目は次の通りです。 1) 構成(章立て、展開) 35% 2) 参考資料(量と質:要約を含む) 35% 3) 引用文の形式 10% 4) 内容については質疑応答形式で加点します。20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 資料や参考文献を精読し「論文」の域まで書き上げるために「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と「ゼミナールⅢ・Ⅳ」を履修してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあう」こと。情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、次年度の卒論作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、資料情報調査を徹底的におこなうこと。</p>	<p>次年度の卒論作成に向けて各自の問題意識を整理し、基礎的知識の獲得をめざし、卒論のテーマ設定一の第一歩を踏み出す。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論で取り上げるテーマを、各自の興味・関心に応じて発見・設定し、基礎知識を体系的に獲得すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：後期日程について	
	2	ゼミ論：経過報告／個別指導①	第2～5週：各自が自分の進捗状況をまとめる
	3	ゼミ論：経過報告／個別指導②	
	4	ゼミ論：経過報告／個別指導③	
	5	ゼミ論：書き方	
	6	ゼミ論執筆：個別指導①	第6～9週：各自の課題・問題点を話し合いながら解決していく
	7	ゼミ論執筆：個別指導②	
8	ゼミ論執筆：個別指導③		
9	ゼミ論執筆：個別指導④		
10	ゼミ論発表／質疑応答①	第10～15週：各自がまとめたゼミ論の内容を確認し、修正・加筆していく	
11	ゼミ論発表／質疑応答②		
12	ゼミ論発表／質疑応答③		
13	ゼミ論発表／質疑応答④		
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤		
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥		
16	ゼミ論提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。		
	学びの手立て	各自が設定したゼミ論のテーマに関する知識の土台を獲得するために、関連資料・情報を網羅的に収集することをめざす。	
	評価	平常点（10%）と各自の発表内容（10%）、討議への参加姿勢（10%）、提出されたゼミ論（70%）を含めて総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「ゼミナールⅠ」から引き続き、情報収集・把握してまとめ、卒論作成の基礎知識となるゼミ論を作成・発表する。また、その後の質疑応答を通して、コミュニケーション力を養う。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマを決定します。先行研究の収集と分析、調査方法、論文の構想など具体的な作業を進め、その進捗状況を報告してもらいます。なお可能であれば、調査の実践練習として言語調査の課外実習も行います。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 ・卒業論文執筆に向けて研究テーマを決定し、先行研究をまとめる。 ・研究テーマに関するプレ調査を行い、具体的な研究計画を立てる。	

学びの準備	到達目標 ・卒業論文執筆に向けて研究テーマを決定し、先行研究をまとめる。 ・研究テーマに関するプレ調査を行い、具体的な研究計画を立てる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） おおむね次のように進めていきます。 ガイダンス プレ研究テーマ、これまでの進捗状況の再確認 卒業論文テーマの決定 以下の項目に関する中間報告 ・卒業論文の構想 ・先行研究の追加リスト ・卒業論文の執筆計画の概要 ・プレ調査とその分析結果報告 各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。
	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
	学びの手立て 自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。
	評価 中間報告の内容、研究テーマの取り組み方から総合的に判断します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。
-------	---

学びの実践	評価 中間報告の内容、研究テーマの取り組み方から総合的に判断します。
-------	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目「ゼミナールⅢⅣ」「卒業論文ⅠⅡ」
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究の調査・参照、文献引用や出典の記載の仕方などをあらためて復習し、卒業論文執筆に必要なリテラシーを身につける。	メッセージ レジュメ・レポート作成の基礎は卒業論文にも生かされます。ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだことを定着させながら、新たなテキストに触れていきましょう。
	到達目標 多くのテキストに触れ、広い視野を養う。また、他者の発表に向き合い、議論することを通してコミュニケーション力や自己表現力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・自己紹介	アカデミック・ライティングの復習
	2	レジュメ作成および卒論書式について	アカデミック・ライティングの復習
	3	卒論進捗報告①	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	4	卒論進捗報告②	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	5	卒論進捗報告③	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	6	卒論進捗報告④	ゼミ論・卒論の報告まとめ。
	7	模擬発表・討議①	林京子「祭りの場」を通読する。
	8	模擬発表・討議②	林京子「祭りの場」を通読する。
9	模擬発表・討議③	林京子「祭りの場」を通読する。	
10	研究発表①	指定されたテキストを読んでもくる。	
11	研究発表②	指定されたテキストを読んでもくる。	
12	研究発表③	指定されたテキストを読んでもくる。	
13	研究発表④	指定されたテキストを読んでもくる。	
14	研究発表⑤	指定されたテキストを読んでもくる。	
15	研究発表⑥	指定されたテキストを読んでもくる。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 受講生による発表後に教員および受講生全員で討議を行う。		
	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための実践的な「ゼミナール」（演習科目）。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近現代の文学の作品を取り上げ、研究の基礎からゼミ発表、論文作成までのプロセスをゼミのメンバーと共有する。	メッセージ 一つの作品、テーマをめぐって真剣に取り組み、議論する楽しさを知ってもらいたい。
	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。	

学びの準備	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイルを知る 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他プリント使用。</p> <p>参考文献：適宜指示します。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回の課題を着実にこなすこと。他のメンバーと助け合うこと。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>①発表(70%) ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度(30%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：ゼミナールⅣ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるという手順を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる(1)	資料の収集
	3	調べる(2)	資料の読み込み
	4	調べる(3)	資料の収集
	5	調べる(4)	資料の読み込み
	6	分析する(1)	発表の準備
	7	分析する(2)	発表の準備
	8	分析する(3)	発表の準備
	9	分析する(4)	発表の準備
	10	発表する(1)	発表の手直し
	11	発表する(2)	発表の手直し
	12	発表する(3)	発表の手直し
	13	発表する(4)	発表の手直し
	14	発表する(5)	発表の手直し
15	発表する(6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館			
学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。			
評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のゼミナールⅣにおいては論文の構成、執筆、再検討へと進む。
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化及び琉球文化に専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指し論理的・批判的思考力や課題探究力を養う必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで培ってきた大学生として有すべき技能を駆使してゼミ論を書いてもらう。プレゼンを行い論文の完成度を高めてもらう。	メッセージ 自分の考えを発表して質問を受けることで伝わっている部分、理解されていない部分がはっきりします。発表と質疑で何が足りないのかが明白になります。
	到達目標 自己の設定したテーマに関する口頭発表と質疑を行い「ゼミ報告書」を「ゼミ論」の域まで精緻化する。そのために必要な資料および文献を補足する能力を培う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	日程の確認
	2	進捗状況の確認	各自報告書を提出する
	3	検討会：報告書からゼミ論へ	報告書とゼミ論の違いを確認
	4	中間発表の日程決定	発表形式の確認
	5	テーマごとに質疑応答	模擬発表
	6	同上	同上
	7	発表要旨の配布	発表現行の要旨の作成
	8	発表準備	加筆および修正
	9	発表と質疑	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	同上	同上
	13	総括	自己発表の再評価
	14	テーマに関する質疑（対教員）	修正と加筆
15	同上	同上	
16	ゼミ論の提出	ゼミを振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はしませんが、論文の書き方に関する書籍を購読するように。各自のテーマによって異なるので適宜アドバイスします。		
	学びの手立て 質疑によって論文の完成度が高まります。クラスメート以外にもテーマについて話してみてください。		
	評価 次の点で評価します。 1. プレゼンの準備度（配布資料・提示資料） 40% 2. プレゼンの論理性 30% 3. ゼミ論の完成度 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」および「ゼミナールⅣ」に進んで卒業論文を完成させてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあう」こと。生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。3年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらに資料情報調査やアンケート調査の実施・集計結果の分析により考察を深めていく。</p>	<p>3年次でのゼミ論を基礎として、各自の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマ設定と研究方法を検討するため、先行研究を含めた各種文献調査を進める。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論を基礎として、各自の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマ設定と研究方法を確立させる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ	第1～6週：先行研究を含めた各種資料・情報にあたる
	2	卒論：執筆スケジュールの組み方	関連資料・情報の網羅性が重要
	3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定	
	4	卒論：資料・情報の収集方法	
	5	卒論：論文の構成方法について	
	6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答	
	7	テーマと方法論の報告／個別指導①	第7～10週：テーマと研究方法を組み立てる
8	テーマと方法論の報告／個別指導②		
9	テーマ・方法論の発表／個別指導③		
10	テーマ・方法論の発表／個別指導④		
11	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導①	第11～15週：設定したテーマと研究方法の見直し	
12	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導②	調査方法と内容の確立	
13	卒論内容の発表／個別指導①		
14	卒論内容の発表／個別指導②		
15	卒論内容の発表／個別指導③		
16	まとめ		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など		
	設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。		
学びの手立て	できるだけ多くの資料・情報に目を通し、自分のテーマと研究方法を見つけること。		
評価	平常点（10%）と卒論の発表内容、討議（90%）への参加姿勢を含めて総合的に評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」でまとめたゼミ論を基礎知識の土台として、各自の問題意識を絞り込んで論題として設定し、研究方法を決定して調査を行う。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による琉歌について4年次生から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、琉歌について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	琉球古典文学研究と琉球古典芸能の研究について	
	2	琉球文とおもろさうし・碑文	
		時間外学習の内容	
	3	琉球文と琉歌・組踊	研究方法の学習
	4	琉球文と和文（古文）	おもろさうし・碑文の予習
	5	琉球文による琉歌の読解（発表1）	琉歌と組踊の予習
	6	琉球文による琉歌の読解（発表2）	古典文法の予習
	7	琉球文による琉歌の読解（発表3）	発表1の琉歌の予習
	8	琉球文による琉歌の読解（発表4）	発表2の琉歌の予習
	9	琉球文による琉歌の読解（発表5）	発表3の琉歌の予習
	10	琉球文による琉歌の読解（発表6）	発表4の琉歌の予習
	11	琉球文による琉歌の読解（発表7）	発表5の琉歌の予習
	12	琉球文による琉歌の読解（発表8）	発表6の琉歌の予習
	13	琉球文による琉歌の読解（発表9）	発表7の琉歌の予習
	14	琉球文による琉歌の読解（発表10）	発表8の琉歌の予習
	15	発表の総括と各自の課題について	発表9の琉歌の予習
	16	試験	発表10の琉歌の予習
			これまでの発表の整理
			試験に向けての資料整理
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語大辞典』『日本古語辞典』『琉歌全集』		
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。1・2年で習得した古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。		
	評価 授業参加30%・発表レジュメ20%・試験50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅣ」「卒業論文」
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。

到達目標	琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	3	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	4	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	5	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	6	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	7	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	8	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	9	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	10	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	11	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	12	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
	13	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈
14	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
15	琉球語テキスト(琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	琉球語の品詞分解・解釈	
16	予備日	夏休みについての話し合い	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジュメを用意すること。		
	学びの手立て		
	初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価		
	平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
到達目標	中間発表会で、第3章までの論文を報告し、質問に答えることができる。各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の概要とスケジュール（発表日の確定）・次時の発表役割分担（4年次）	論文作成
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方（3年）・卒論執筆スケジュール作成（4年）	論文作成
	3	3年次へのアドバイス（卒論テーマ、章立て、研究の目的）	論文作成
	4	4年次中間発表会・質疑応答（1～5）	論文作成
	5	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑応答（1）	論文作成
	6	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑応答（2）	論文作成
	7	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑応答（3）	論文作成
	8	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告への質疑(1)	論文作成
	9	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告への質疑(2)	論文作成
	10	発表・質疑応答(1)	論文作成
	11	発表・質疑応答(2)	論文作成
	12	発表・質疑応答(3)	論文作成
	13	発表・質疑応答(4)	論文作成
14	発表・質疑応答(5)	発表会準備	
15	4年次発表会・質疑応答	論文作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。			
学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数 $\frac{1}{3}$ を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。			
評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナールⅣ（4年次・後期） (2) 次のステージ ゼミナールⅣでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 言語やコミュニケーションを文化・人・社会との関わりから考え、「日本文化」を専門的に捉えられるようになる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	eメール、授業後教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。 ・調査したこと、考察したことをレジュメやスライドにまとめて伝えられるようになること。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文準備
	2	研究計画について	文献検索と講読・論文準備
	3	発表方法の確認と発表例（レジュメの作り方）	文献検索と講読・論文準備
	4	四年次による前年度ゼミ論報告	文献検索と講読・論文準備
	5	予備日	文献検索と講読・論文準備
	6	文献講読発表①	発表準備、文献検索講読・論文準備
	7	文献講読発表②	発表準備、文献検索講読・論文準備
	8	文献講読発表③	発表準備、文献検索講読・論文準備
	9	文献講読発表④	発表準備、文献検索講読・論文準備
	10	文献講読発表⑤	発表準備、文献検索講読・論文準備
	11	文献講読発表⑥	発表準備、文献検索講読・論文準備
	12	研究計画発表と調査方法の検討①	文献検索と講読・論文準備
	13	研究計画発表と調査方法の検討②	文献検索と講読・論文準備
14	研究計画発表と調査方法の検討③	文献検索と講読・論文準備	
15	研究計画発表と調査方法の検討④	文献検索と講読・論文準備	
16	研究計画発表と調査方法の検討⑤	文献検索と講読・論文準備	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て	身近な疑問を大切にし、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。	
	評価	平常点20%、レジュメおよび発表20%、課題30%、期末課題30%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅣ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、『山家集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、西行歌と風景・景観とする。西行の故地や歌枕を現地調査する研修旅行を行う。	メッセージ 発表内容は、最終的にゼミ論集としてまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①（『山家集』について、西行について）／ゼミの進め方・レジュメ作成の注意	シラバスの確認
	2	ガイダンス②（歌枕・歌ことばについて）／辞典類、参考図書的使用方法について	和歌の分析、解釈
	3	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	4	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	5	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	6	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	7	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	8	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	9	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	10	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	11	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	12	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	13	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	14	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
15	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	ゼミの振り返り	
16	研修旅行の計画・西行に関する故地について	ゼミ研修旅行の準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、『山家集』（角川ソフィア文庫）西行（著）、宇津木言行（著） その他参考資料は授業内で指示する。		
	学びの手立て ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもってレジュメを作成すること。 ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などを用いて、関連事項を調べること。 ・歌枕や地名等を調査し、当時の道路や交通事情と関連させて発表すること。 ・『完全踏査 古代の道—畿内・東海道・東山道・北陸道』『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文堂（木下良監修）などを参考資料にするとよい。		
	評価 発表内容（60%）＋演習に対する取り組み、参加状況等（20%）＋ゼミ論集の原稿作成等（20%）をもってに評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の執筆と同時進行で、ゼミ活動として、地域の文化情報施設(書店・図書館)での実習を取り入れ、本研究室がテーマとする「文化情報の流通」について実践的に学ぶとともに、国際社会、地域社会に貢献できる資質を高めることを本授業の目的とする。	例年とはゼミの進め方がやや異なりますが、様々な体験ができるプログラムを企画しています。社会人として必要な資質・能力を得るとともに、卒業論文の調査・執筆にフィードバックするという視点で取り組むとよいでしょう。
到達目標	①大学外の地域社会との協働により、「ことばのプロ」として、地域社会に貢献できる資質・能力を身に着ける。 ②ゼミナールでの学びが社会に様々な形で役立つことを実践的に理解する。 ③グループ活動を通して、自己の適性を発見・理解するとともに、社会人・職業人に求められる同僚性を修得する。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>「文化情報の流通」について実践的に学ぶため、「図書館情報学特別演習Ⅱ」とも一部連携しながら、次のようなプロジェクトをグループ単位で取り組む。全体を5人ずつの2つのグループに分け、1つのテーマをメインで取り組み、もう1つのテーマはサポート役として関わる。</p> <p>1回目 オリエンテーション・プロジェクトの紹介・グループの決定 2回目～7回目 ジュンク堂那覇店とのコラボレーションによる「本好きの大学生が選んだ本」フェアの開催 日本文化学科の卒業生であり、司書課程でも学んだジュンク堂の書店員さんの指導の下で、売り場の一部をお借りして、ブックフェアを企画・運営する。再販売価格維持制度・委託販売制度など、図書館員として必要となる出版流通の知識を実体験を通して学ぶとともに、図書館関連企業として書店への就職を視野に入れている学生には、司書課程で学んできた「資料を提供する」と「書籍を売る」ことの違いを学ぶ機会にもする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジュンク堂那覇店の訪問・フェアについてのレクチャーを受ける ●フェアの企画を考える・どのような本を選ぶか? ●フェアのアイテムを考える・ブックカバー、しおりなどのデザイン・発注 ●効果的なPOP、推薦者の想いが見える宣伝方法とは? ●販売促進イベントを考える・実施する <p>8回目～13回目 沖縄国際大学図書館との協働による企画展示の実施 図書館現場での展示活動を実践的に学ぶため、沖縄国際大学図書館のスタッフの皆さんの指導の下で、「大学生の課題解決」をテーマとする企画展示を実施する。大学図書館だけでなく、公共図書館や学校図書館などの展示事例も参考にしながら、「現代の沖縄の大学生」がどのような情報を求めているか、課題を抱えているか、図書館がその解決にどう役立つことが出来るか、という視点での展示を企画・運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマの検討・企画書の作成 ●図書館側へのプレゼンテーション ●展示資料の収集・リクエスト ●効果的なPOP、アイテムの作成 ●企画展示の実施・広報活動 <p>14・15回目 授業の振り返り・フィードバック</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>・テキストは特に使用しません。</p> <p>・実習にかかる費用は全額補助します。</p>
学びの手立て	<p>・4年生オリエンテーションにしっかり参加し、早い時期に1年間の履修計画を立てましょう。</p>
評価	<p>・授業時間中のグループ活動の参加状況(50点)、グループ活動の到達度(実習成果の評価・30点)、感想レポート(20点)、で評価する。</p> <p>・授業は一部集中形式で実施する。</p> <p>・全15回の授業の内、欠席回数が1/3を超える場合は単位は修得できない。</p> <p>※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期必修科目「ゼミナールⅣ」でも同様の実習を行います。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

広い領域の知識に関心を持ち、必要に応じて知識や理論を用いる応用力を養うと同時に、専門分野についての知見を深める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 自分で設定したテーマの研究を深め、レジュメ作成や発表によるプレゼンテーションを通して表現力を高める。	メッセージ ゼミナールⅣではこれまでに学んだことを生かし、積極的に議論に参加することを求める。
	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。 自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。	

学びの準備	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。 自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	テキスト分析とは何か	指定されたテキストを読んでくる。
	3	テキスト分析実践	指定されたテキストを読んでくる。
	4	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	9	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	10	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	11	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	12	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	13	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	14	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	15	全体のまとめおよび論文作成時の注意点について	卒業論文完成に向けての学習。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 受講生による発表後に教員および受講生全員で討議を行う。司会は受講生が務める。
-------	--

学びの実践	評価 発表内容50%、授業時の発言や討論への参加の積極性30%、レポート20%。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための実践的な「ゼミナール」（演習科目）。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近現代の文学の作品を取り上げ、研究の基礎からゼミ発表、論文作成までのプロセスをゼミのメンバーと共有する。	メッセージ 一つの作品、テーマをめぐって仲間と真剣に考え、論じ合うゼミナールの楽しさを知ってもらいたい。
	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。	

学びの準備	到達目標 文学テキストを緻密に読解、分析する批評的な力を身につける。
-------	---------------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイルを知る 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他プリント使用。 参考文献：適宜指示します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他プリント使用。 参考文献：適宜指示します。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>毎回の課題を着実にこなすこと。他のメンバーと助け合うこと。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>①発表(70%) ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度(30%)</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文Ⅰ</p>
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆、再検討を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	5	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	6	論文を執筆する1	データの打ち込み
	7	論文を執筆する2	データの打ち込み
	8	論文を執筆する3	データの打ち込み
	9	論文を執筆する4	データの打ち込み
	10	論文を執筆する5	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文要旨をまとめる1	データの手直し	
16	論文要旨をまとめる2	データの手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールで学んだことを卒業論文に活かす。
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性

高度な情報収集能力と的確な自己表現力によって、現代社会の諸課題を解決できる能力を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で作成提出したゼミ論の完成を目指します。ゼミ論の口頭発表を行い質疑応答を通して完成度を高めます。	メッセージ 事前準備が肝心です。海外へのゼミ調査を企画実行するためにも早めの完成を！
	到達目標 論理的な文章（卒業論文）の作成と資料の提示を会得します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	発表日程と提出期限の確認
	2	進捗状況の報告	報告の準備
	3	日程決定	海外調査と論文発表の日程
	4	執筆と質疑	対教員と質疑
	5	同上	同上
	6	発表と質疑	対クラスメート発表
	7	同上	同上
	8	同上	同上
	9	同上	同上
	10	総括	自己採点を行う
	11	添削	執筆
	12	添削	執筆
	13	論文提出	論文の精読と校正
	14	添削	執筆と質疑（教員）
15	添削	同上	
16	評価と総括	自己採点の再確認	
	テキスト・参考文献・資料など 指定なし。 個々のテーマによって異なりますが、必要に応じて提示します。		
	学びの手立て 先行研究や先輩方の卒論を参考にしてください。論文の形式や約束事を身に付けてください。		
	評価 早めの提出で添削も可能です。 最終評価は提出されたゼミ論で行います。（卒論に準じる） 構成、論証の正確さ（50%）、参考文献の有効性（30%）、中間発表（20%）と評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学生として身に着けるべき技能の集大成がゼミ論を発展させた卒業論文です。ある特定の課題を検討する際、多くの情報と資料を収集し、精査し、簡潔に述べる技術は実社会でも必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあう」こと。生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。さらなる資料情報調査やアンケート調査の実施・集計結果の分析などにより考察を深め、卒業論文の完成をめざす。</p>	<p>設定した課題解決のために、調査活動をおこない、内容をまとめ、分析し、自分なりの結論を導き出す。</p>
到達目標	卒業論文を完成させる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：後期日程について	第1～9週：論文作成作業を進めながら、中間発表をおこない、課題を解決していく 調査結果の集計・分析
	2	卒論：中間発表／個別指導①	
	3	卒論：中間発表／個別指導②	
	4	卒論：中間発表／個別指導③	
	5	卒論：中間発表／個別指導④	
	6	論文執筆：個別指導①	
	7	論文執筆：個別指導②	
8	論文執筆：個別指導③		
9	論文執筆：個別指導④		
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①	第10～16週：内容の検討、加筆・修正を繰り返す	
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②		
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③		
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④		
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤		
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥		
16	卒業論文提出		
テキスト・参考文献・資料など	設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。		
学びの手立て	調査・研究を着実に進め、調査結果の集計・分析を丁寧におこない、その結果からどのようなことが言えるのかについて、しっかりと検討する。		
評価	平常点（10%）と卒論の発表内容、討議（90%）への参加姿勢を含めて総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査結果の集計・分析・考察から結論を導き出してまとめ、発表・質疑応答を行う。「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	卒業論文の執筆と同時進行で、ゼミ活動として、図書館利用者の文献検索をサポートする実習を取り入れ、本研究室がテーマとする「文化情報の流通」について実践的に学ぶとともに、地域社会に貢献できる資質を高めることを本授業の目的とする。	例年とはゼミの進め方がやや異なりますが、様々な体験ができるプログラムを企画しています。社会人として必要な資質・能力を得るとともに、卒業論文の調査・執筆にフィードバックするという視点で取り組むとよいでしょう。		
学びの準備	到達目標			
	①ゼミの外の組織との協働により、「ことばのプロ」として、地域社会に貢献できる資質・能力を身に着ける。 ②ゼミナールでの学びが、世の中で様々な形で役立つことを実践的に理解する。 ③(司書を目指す学生は)実習を通して、「サービス」「支援」という活動に求められる資質を理解し、卒業後の専門職としての活動の基盤をつくる。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		<ul style="list-style-type: none"> ●前半は、沖縄少年院を訪問し、図書室の整備や院生の読書活動の支援を行い、公共図書館のアウトリーチサービスの意義、読書の教育的価値を学ぶ。(9月末～10月) ●中盤は、沖縄県内図書館の活動・読書活動をまとめた雑誌の編集発行人として、特集企画の考案、取材、原稿集め、校正、印刷業者とのやりとりなど、出版・編集業務のノウハウを学習し、1冊の雑誌を出版するまでのプロジェクトにゼミ生全員で取り組む。(9月～12月まで) ●後半は、専門図書館であるJICA沖縄国際センター図書資料室との協働により実施する、沖縄民話を題材とする英語絵本コンテストの審査員とPR活動の担当を務める。(1月～2月上旬) 		
	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に使用しません。 ・実習にかかる費用は全額補助します。 		
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生は後期オリエンテーションがありません。卒業単位を満たすことができているかどうか、卒業研究が計画的に進められるかどうか、など、各自で主体的に考え、計画的に行動できるようにしましょう。 		
学びの実践	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間中のグループ活動の参加状況(50点)、グループ活動の到達度(実習成果の評価・30点)、感想レポート(20点)、で評価する。 ・授業は一部集中形式で実施する。 ・全15回の授業の内、欠席回数が1/3を超える場合は単位は修得できない。 ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと) 		
	次のステージ・関連科目	2年間のゼミ活動の最後の科目となります。ゼミで学んだことを社会人として、職業人として生かしてくれることを願っています。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による組踊について4年次から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、組踊について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	和文（古文）と琉球文について	古典文法の整理
	2	琉球土族語と琉球文について	首里語の予習
	3	能の謡と組踊の唱えの詞章について	能楽の予習
	4	古典文学研究と古典芸能の研究について	伊勢物語を読む
	5	琉球文による組踊の読解（発表1）	組踊発表1の予習
	6	琉球文による組踊の読解（発表2）	組踊発表2の予習
	7	琉球文による組踊の読解（発表3）	組踊発表3の予習
	8	琉球文による組踊の読解（発表4）	組踊発表4の予習
	9	琉球文による組踊の読解（発表5）	組踊発表5の予習
	10	琉球文による組踊の読解（発表6）	組踊発表6の予習
	11	琉球文による組踊の読解（発表7）	組踊発表7の予習
	12	琉球文による組踊の読解（発表8）	組踊発表8の予習
	13	琉球文による組踊の読解（発表9）	組踊発表9の予習
	14	琉球文による組踊の読解（発表10）	組踊発表10の予習
15	発表の総括	これまでの発表の整理	
16	試験	試験に向けての資料の整理	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語辞典』『日本古語辞典』『琉球戯曲集』		
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。		
	評価 授業参加30%・発表20%・試験50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文」
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
-------	---	--

到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
	3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈
	4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈
	5	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈
	6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈
	7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈
	8	バス見学1（故地を訪ねて）	レポートによるまとめ
	9	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈
	10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈
	11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈
	12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈
	13	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈
	14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈
	15	バス見学2（故地を訪ねて）	レポートによるまとめ
16	春休みの調査計画等	調査計画書作成	

テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジюмеを用意すること。

学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。
--

評価 平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。

学びの継続 次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、概ね日本の古典文学、国語科教育について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマ設定してレポート発表する。また臨地研修などを通して、研究対象と向き合い、様々な知見と経験的実感的に学んでいく。	学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。

到達目標
1 自分自身の興味関心、問題意識に基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。 2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。 3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（文献検索の方法、調査方法等）	シラバスの確認
	2	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	3	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	4	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	5	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	6	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	7	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	8	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	9	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	10	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	11	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	12	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	13	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	14	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
15	ゼミ論集の編集	ゼミの振り返り	
16	ゼミ論集の配布	ゼミ論集を使って学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
必要に応じて指示する。 必要に応じて指示する。

学びの手立て
・ 研究報告は、予め発表の順番を決めて行います。期日までにレジュメを作成すること。 ・ 辞典・辞典類を活用して、詳細な調査につとめてください。

評価
発表内容（40%）・演習に対する取り組み等（60%）を総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。 自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
	到達目標 各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。 発表会で、質問に回答することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	卒論執筆
	2	研究発表・質疑(1)	卒論執筆
	3	研究発表・質疑(2)	卒論執筆
	4	研究発表・質疑(3)	卒論執筆
	5	研究発表・質疑(4)	卒論執筆
	6	研究発表・質疑(5)	卒論執筆
	7	研究発表・質疑(6)	卒論執筆
	8	研究発表・質疑(7)	卒論執筆
9	研究発表・質疑(8)	卒論執筆	
10	研究発表・質疑応答(9)	卒論執筆	
11	研究発表・質疑応答(10)	卒論提出	
12	4年次発表会・質疑(1)	卒論提出	
13	4年次発表会・質疑(2)	卒論集作成・印刷会社への連絡	
14	ゼミ論集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	卒論集作成・印刷会社への連絡	
15	まとめ	卒論集作成・印刷会社への連絡	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】卒業論文ⅠⅡ（4年次・前期・後期）(2) 次のステージ 卒業論文Ⅱでは、文献や調査結果をもとに、国語科教育学に関する論文を作成、提出する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生、3年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文・卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。 ・調査したこと、考察したことをレジюмеやスライドにまとめて伝えられるようになること。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・調査
	2	論文の書き方と先行研究	文献検索と講読・調査
	3	先行研究の報告①	発表準備、文献検索と講読・調査
	4	先行研究の報告②	発表準備、文献検索と講読・調査
	5	先行研究の報告③	発表準備、文献検索と講読・調査
	6	先行研究の報告④	発表準備、文献検索と講読・調査
	7	先行研究の報告⑤	発表準備、文献検索と講読・調査
	8	先行研究の報告⑥	発表準備、文献検索と講読・調査
	9	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	10	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	11	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	12	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	13	ゼミ論中間発表①	文献検索と講読・調査、論文執筆
14	ゼミ論中間発表②	文献検索と講読・調査、論文執筆	
15	ゼミ論中間発表③	文献検索と講読・調査、論文執筆	
16	卒業論文報告会	発表準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て	「どうして?」「なぜ?」「本当だろうか?」という気持ちを大切に、その気持ちに答えていけるようになりましょう。 応えるための適切な手順や方法を仲間と一緒に身につけていきましょう。	
	評価	平常点10%、レジюмеおよび発表20%、課題30%、期末課題40%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性 3年次以降の「ゼミナール」を適切に選択するため、必修科目として設置する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール入門	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山(5回) 狩俣(1回)、黒澤(1回)、葛綿(1回)、下地(1回)、村上(1回)、田場(2回)、西岡(2回)、桃原(2回)	2年	後期2年次オリエンテーションに要出席。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本文化学科開設のゼミの特色、研究内容への理解を深め、専門性の深化させて具体的な学問の方策について学ぶ。琉球文化コース、日本文化コース、多文化間コミュニケーションコースの各開設科目の基礎科目、応用科目、発展科目がどのように形成されているかを知り、卒業研究に向けて自分自身の専門性をどのように高めていくかを学び、研究計画書を作成する。</p> <p>到達目標 自分が進むべき専門領域について一定の理解に達しており、また、その領域の文献検索も支障なく進められ、研究計画書、ゼミ希望調査表等を適切に書くことができる。</p>	<p>日本文化学科の教員が、各専門領域における学問的な魅力について講義を行う。日本文化学科で学べることの広がりを感じ取り、どの専門領域の研究を深く掘り下げていきたいのかを考えて決めてほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>大学での学びと進路、研究計画書の作成について</td><td>登録確認、講義概要の把握</td></tr> <tr><td>2</td><td>日本古典文学の世界</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>3</td><td>琉球文化を考えることばの不思議</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>4</td><td>近現代文学①</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>5</td><td>多文化間コミュニケーションと日本語教育</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>6</td><td>古典文学と国語科教育</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>7</td><td>国語科教育を考える+図書館学</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>8</td><td>インターンシップ報告会（3年次の職業体験を聞く）</td><td>コメントをまとめる</td></tr> <tr><td>9</td><td>比較・対照 言語と文化</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>10</td><td>琉球語の再生と多文化共生</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>11</td><td>近現代文学②</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>12</td><td>内定者報告会</td><td>コメントをまとめる</td></tr> <tr><td>13</td><td>優秀レポートの発表（プレゼンテーション）</td><td>レポートへのコメントをまとめる</td></tr> <tr><td>14</td><td>琉球文化を考える</td><td>講義内容の復習、課題への取組</td></tr> <tr><td>15</td><td>図書館ガイダンス</td><td>研究計画書の作成</td></tr> <tr><td>16</td><td>卒業論文奨励賞報告</td><td>研究計画書の提出</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	大学での学びと進路、研究計画書の作成について	登録確認、講義概要の把握	2	日本古典文学の世界	講義内容の復習、課題への取組	3	琉球文化を考えることばの不思議	講義内容の復習、課題への取組	4	近現代文学①	講義内容の復習、課題への取組	5	多文化間コミュニケーションと日本語教育	講義内容の復習、課題への取組	6	古典文学と国語科教育	講義内容の復習、課題への取組	7	国語科教育を考える+図書館学	講義内容の復習、課題への取組	8	インターンシップ報告会（3年次の職業体験を聞く）	コメントをまとめる	9	比較・対照 言語と文化	講義内容の復習、課題への取組	10	琉球語の再生と多文化共生	講義内容の復習、課題への取組	11	近現代文学②	講義内容の復習、課題への取組	12	内定者報告会	コメントをまとめる	13	優秀レポートの発表（プレゼンテーション）	レポートへのコメントをまとめる	14	琉球文化を考える	講義内容の復習、課題への取組	15	図書館ガイダンス	研究計画書の作成	16	卒業論文奨励賞報告	研究計画書の提出	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	大学での学びと進路、研究計画書の作成について	登録確認、講義概要の把握																																																			
2	日本古典文学の世界	講義内容の復習、課題への取組																																																			
3	琉球文化を考えることばの不思議	講義内容の復習、課題への取組																																																			
4	近現代文学①	講義内容の復習、課題への取組																																																			
5	多文化間コミュニケーションと日本語教育	講義内容の復習、課題への取組																																																			
6	古典文学と国語科教育	講義内容の復習、課題への取組																																																			
7	国語科教育を考える+図書館学	講義内容の復習、課題への取組																																																			
8	インターンシップ報告会（3年次の職業体験を聞く）	コメントをまとめる																																																			
9	比較・対照 言語と文化	講義内容の復習、課題への取組																																																			
10	琉球語の再生と多文化共生	講義内容の復習、課題への取組																																																			
11	近現代文学②	講義内容の復習、課題への取組																																																			
12	内定者報告会	コメントをまとめる																																																			
13	優秀レポートの発表（プレゼンテーション）	レポートへのコメントをまとめる																																																			
14	琉球文化を考える	講義内容の復習、課題への取組																																																			
15	図書館ガイダンス	研究計画書の作成																																																			
16	卒業論文奨励賞報告	研究計画書の提出																																																			
	テキスト・参考文献・資料など なし。 各週担当者が適宜紹介する。																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①無断欠席をしないこと。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。③遅刻や途中退席は認めない。④毎時間、文章表現課題がある。 後期2年次オリエンテーションにも必ず出席すること（この「ゼミナール入門」の出席としてカウントする）。</p>																																																				
	評価	全10回のゼミ紹介参加度(合計50%)、各報告会での感想シートの内容(20%)、研究計画書の完成度(30%)																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：ゼミナールⅠ・Ⅱ、3年生以上の日本文化学科専門科目。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 1年～3年で学んできたことの集大成となる科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 論文執筆のプロセスを再確認し、論文を書き進めて行く。 テーマの設定、資料の収集と読み込み、構想の作成、調査と分析、さらに執筆した文章の推敲など、を経て論理的思考力とそれを伝える力を身につける。	メッセージ 研究テーマについて熟考し、どうすれば自分が知りたい、確かめたいことを、どうすれば追究できるか、方法を考えてください。参考文献の熟読や仲間との議論を通して自分の研究を形にしていってください。
	到達目標 ・適切なテーマに絞ることができる。 ・先行研究を読み込み、自分の論文執筆に活かせるようになる。 ・論文の構成を適切に組み立てられるようになる。 ・仮説から適切な調査計画をたて、実施できるようになる。 ・分析・考察を多角的な視点からできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文準備
	2	研究計画について（年間計画の作成）	文献検索と講読・論文準備
	3	論文の構成	文献検索と講読・論文準備
	4	前年度ゼミ論報告	発表準備、文献検索講読・論文準備
	5	ゼミ論報告からの反省と発展	文献検索と講読・論文準備
	6	引用参考文献の書き方の確認	文献検索と講読・論文準備
	7	先行研究の報告①	文献検索と講読・論文準備
	8	先行研究の報告②	文献検索と講読・論文準備
	9	先行研究の報告③	文献検索と講読・論文準備
	10	先行研究の報告④	文献検索と講読・論文準備
	11	調査法について	文献検索と講読・論文準備
	12	調査法の検討①	文献検索と講読・論文準備
	13	調査法の検討②	文献検索と講読・論文準備
	14	調査結果の分析と考察	文献検索と講読・論文準備
	15	考察とまとめについて	文献検索と講読・論文準備
	16	夏期休暇中の研究計画について	文献検索と講読・論文準備
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・身近なことに興味や疑問を持っておくこと。 ・テーマを絞るためには、自分の興味や疑問を突き詰め、先行研究を読み込むこと。 ・各自の研究テーマに沿った基礎的な文献は、各自でしっかり読み込んでおく。 ・研究計画、研究メモなどは、専用のノートなどを作ってまとめておこう。 ・先行研究を読んだり、論文を書いたりしていく中で、論文らしい文章に慣れていきましょう。		
	評価 平常点（15%）、発表（30%）、提出物（25%）、期末課題（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅱ」
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に先行研究の整理、分析視点の設定に力点を置く。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。こうした方法論は広く応用可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理する。分析の視点を設定する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論とは何か	関連する資料の収集
	2	先行研究の整理（1）	資料収集
	3	先行研究の整理（2）	資料の読み込み
	4	先行研究の整理（3）	資料収集
	5	先行研究の整理（4）	資料の読み込み
	6	分析の視点（1）	資料収集
	7	分析の視点（2）	資料の読み込み
	8	分析の視点（3）	発表の準備
	9	分析の視点（4）	発表の準備
	10	中間発表（1）	発表の手直し
	11	中間発表（2）	発表の手直し
	12	中間発表（3）	発表の手直し
	13	中間発表（4）	発表の手直し
	14	中間発表（5）	発表の手直し
15	中間発表（6）	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 『枕草子・徒然草・浮世草子—言説の変容』 そのつど指示する		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典、沖縄大百科事典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 先行研究の整理、分析の視点などを重視して、評価する。論文内容100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱにおいては論文の構成と執筆、再検討に進んでいく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい テーマを決定し、問題設定を明確にする。テキスト批評の具体的な方法を学ぶ。	メッセージ 大学生生活の総決算。熱い心で取り組みましょう。
	到達目標 論文のアウトラインを作成し、中間発表に向けて論文を書き進める。	

学びの準備	到達目標 論文のアウトラインを作成し、中間発表に向けて論文を書き進める。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの確定 2 卒業論文の進め方(年間計画作成) 3 調査、文献・資料収集の方法 4 参考文献目録の作り方 5 研究史のまとめ方 6 方法、視点の検討 7 小テーマの設定 8 仮説論証の練習 9 構想表の作り方 10 テキスト批評の発表 11 中間発表 ※夏期合宿で「中間発表会」を行う
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導する。 参考文献：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他、適宜指示する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導する。 参考文献：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他、適宜指示する。
	学びの手立て テーマや問題設定を明確にするためには、先行論文を読み込むことが重要。一流の先行研究者の論文と「対話」しながら自分の思考を鍛えてください。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導する。 参考文献：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他、適宜指示する。
	学びの手立て テーマや問題設定を明確にするためには、先行論文を読み込むことが重要。一流の先行研究者の論文と「対話」しながら自分の思考を鍛えてください。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導する。 参考文献：『レポート・論文の書き方入門』第3版（河野哲也著、慶応義塾大学出版会、1998）。 その他、適宜指示する。
	学びの手立て テーマや問題設定を明確にするためには、先行論文を読み込むことが重要。一流の先行研究者の論文と「対話」しながら自分の思考を鍛えてください。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：卒業論文 II
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	問い合わせはメールでkanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表現力（文章構成）、資料収集力、分析&要約などを示す内容の論文を作成してもらいます。これらの技能を示すのが卒業論文であり、大学生活で獲得した知識と技能の集大成が「卒業論文」です。	メッセージ テーマの概要や具体的な事例を分かりやすい適切な言葉で表現できるように日頃から訓練しましょう。
	到達目標 各自で設定したテーマに関する先行研究・資料等を整理し論理的に記述できるようになる。論文の要点を簡潔明瞭に分かりやすく口頭でも発表できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論課題の確認
	2	卒業論文の進め方 年間計画作成	個別スケジュールの確定
	3	調査、文献・資料収集の方法	図書とウェブの利用について
	4	方法、視点の検討	過卒生の論文の精読
	5	同上	同上
	6	参考文献リストの作成	各自作成、提出
	7	卒論テーマおよびタイトルの最終決定	面談
	8	先行研究に対するディスカッション	関連論文を精読
	9	同上	同上
	10	論文執筆時における諸注意と論文の構成について	著作権、引用方法などの理解
	11	同上	同上
	12	中間発表と質疑	中間発表と質疑応答
	13	中間発表と質疑	同上
	14	同上	同上
15	総括	修正と完成	
16	仮提出	提出論文の精読	
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは設定しない。 各自のテーマによって授業内で適宜紹介する。		
	学びの手立て 先輩方の卒論を参考にしたり、後輩へのアドバイスをしながら自分のテーマに関して簡潔に説明できるように心がけてください。		
	評価 論文の中間提出の完成度によって成績を評価するが、その際、先行研究と資料の整理（30%）、要約と整理（30%）、論文の構成（論理性20%）などを重視する。少なくとも章立てが完成していること。 中間発表（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱで完成を目指してもらおう。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在及びこれからの図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自の問題意識からテーマを自由に設定し卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には「問題解決能力」を身につけるために、問題設定→あらゆる情報手段を使用した資料情報収集→収集各種資料の比較・検討・選択→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成プロセスをすすめる。</p> <p>到達目標 図書館情報学という学門分野において、課題設定から問題解決まで自分で考えながらプロセスを進めることにより、問題発見能力、資料・情報検索能力、情報選択能力、情報活用能力、情報発信能力など、社会参加してからも重要な要素となる基礎的能力を身につけていく。</p>	<p>図書館司書課程の科目内容から、さらに踏み込んだ内容に触れる。各自が自分でテーマ設定し、問題解決のプロセスを展開させていく。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション：論文作成プロセス</td> <td rowspan="4">第1～6週：論文執筆プロセスについての内容説明（各項目について関連資料・情報に目をとらす）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>執筆スケジュールの組み方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ設定・研究方法の確定</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>資料・情報の収集方法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>論文の構成方法</td> <td rowspan="6">第7～10週：テーマ、方法、参考文献などを発表をするため、各自が研究計画書を作成する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内容発表の方法・質疑応答・討議について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各自のテーマ・研究方法の発表①</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各自のテーマ・研究方法の発表②</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各自のテーマ・研究方法の発表③</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各自のテーマ・研究方法の発表④</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>個別指導①</td> <td rowspan="5">第11～15週：前週までの研究計画書に基づき、個別に内容確認、修正などをおこない、計画書を修正・加筆し、作成作業に取りかかる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>個別指導②</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>個別指導③</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>個別指導④</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>個別指導⑤</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>総括</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション：論文作成プロセス	第1～6週：論文執筆プロセスについての内容説明（各項目について関連資料・情報に目をとらす）	2	執筆スケジュールの組み方	3	テーマ設定・研究方法の確定	4	資料・情報の収集方法	5	論文の構成方法	第7～10週：テーマ、方法、参考文献などを発表をするため、各自が研究計画書を作成する	6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	7	各自のテーマ・研究方法の発表①	8	各自のテーマ・研究方法の発表②	9	各自のテーマ・研究方法の発表③	10	各自のテーマ・研究方法の発表④	11	個別指導①	第11～15週：前週までの研究計画書に基づき、個別に内容確認、修正などをおこない、計画書を修正・加筆し、作成作業に取りかかる	12	個別指導②	13	個別指導③	14	個別指導④	15	個別指導⑤	16	総括	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																					
	1	オリエンテーション：論文作成プロセス	第1～6週：論文執筆プロセスについての内容説明（各項目について関連資料・情報に目をとらす）																																					
	2	執筆スケジュールの組み方																																						
3	テーマ設定・研究方法の確定																																							
4	資料・情報の収集方法																																							
5	論文の構成方法	第7～10週：テーマ、方法、参考文献などを発表をするため、各自が研究計画書を作成する																																						
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について																																							
7	各自のテーマ・研究方法の発表①																																							
8	各自のテーマ・研究方法の発表②																																							
9	各自のテーマ・研究方法の発表③																																							
10	各自のテーマ・研究方法の発表④																																							
11	個別指導①	第11～15週：前週までの研究計画書に基づき、個別に内容確認、修正などをおこない、計画書を修正・加筆し、作成作業に取りかかる																																						
12	個別指導②																																							
13	個別指導③																																							
14	個別指導④																																							
15	個別指導⑤																																							
16	総括																																							
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。</p>																																								
<p>学びの手立て</p> <p>問題解決プロセスでは、まず自ら考えること。その上で迷ったりわからないことがある場合には、どのようなことでも相談すること。</p>																																								
<p>評価</p> <p>提出された論文により評価する。</p>																																								

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ゼミナールⅢ」で進める作業を文章化し、加筆・修正をかさねる。「卒論Ⅱ」</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前年度の「ゼミナールII」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。	前期の卒論の授業では、進路決定に役立つようなガイダンスも含めつつ、後期からは本格的に始まる卒論執筆の準備を進めていきます。いろいろと忙しくなりますが、ゼミ生みんなで乗り切りましょう。
到達目標	①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。 ②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。 ③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得 エントリーシートの書き方①	シラバスを読み、授業に備える
	2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成 エントリーシートの書き方②	スケジュールの作成
	3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成 エントリーシートの書き方・送り方③	主題規程文の執筆
	4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識 グループディスカッションの進め方	主題規程文の手直し
	5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法 面接にのぞむ方法	主題規程文の手直し
	6	個別相談① 序論の確定	文献収集
	7	個別相談② 序論の確定	文献収集
8	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	目次・章立ての検討	
9	個別相談③ 目次・章立ての検討	目次・章立ての検討	
10	個別相談④ 目次・章立ての検討	目次・章立ての検討	
11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	発表の準備、振り返り	
12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	発表の準備、振り返り	
13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	発表の準備、振り返り	
14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	発表の準備、振り返り	
15	授業のまとめ・前期の振り返り	自己評価シートの作成・提出	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜指示する。 		
評価	定期テスト・・・0点 レポート・・・80点 (卒業論文の土台となる序論・中間発表の完成度を評価) 平常点・・・20点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、個別相談時間の活用状況などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文II」に繋がる科目です。
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。	メッセージ 卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。
	到達目標 琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
	3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成
	4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成
	5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成
	6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成
	7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成
	8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成
	9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成
	10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成
	11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆
	12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆
	13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆
	14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆
	15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆
	16	予備日	卒論集作成
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
	学びの手立て 個別的な面談を必要とします。レジュメを準備し中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行います。		
	評価 中間発表 (25%)、論文の内容 (25%)、形式 (25%)、取り組み方 (25%) の観点から総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅱ。
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 日本文化学科-4. 論理的批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を行ったうえで、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。	メッセージ 卒業論文は、文献にのみ頼らず、伝承者の心意（思い）を理解するために、フィールド調査を重視すること。
	到達目標 学士に相応しい卒業論文を作成すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉歌の研究方法	琉歌の概要の整理
	2	琉球舞踊の研究方法	琉球舞踊の整理
	3	組踊の研究方法	組踊の概要の整理
	4	村踊りの研究方法	村踊りの整理
	5	エイサーの研究方法	エイサーの整理
	6	古謡の研究方法	古謡の整理
	7	昔話・伝説の研究方法	昔話・伝説の整理
	8	卒業論文のテーマを設定する	卒論のテーマを考える
9	卒業論文の構成を考える	卒論の構成を考える	
10	卒論概要の発表 1	卒論の目次を考える	
11	卒論概要の発表 2	卒論資料の調査	
12	卒論概要の発表 3	卒論資料の調査	
13	卒論概要の発表 4	卒論資料の調査	
14	卒論概要の発表 5	卒論資料の調査	
15	卒論概要の発表 6	卒論資料の整理	
16	卒論レポート提出と総括	卒論レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：各自の研究テーマに応じてその都度指示する。		
	学びの手立て 卒業論文に関連した文献の他、沖縄の祭り、御嶽、グスク等の実地見学調査を行うこと。		
	評価 レポート70%/・平常点（授業への取組）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。日本の古典文学と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ 締め切りギリギリでの執筆は、極めて危険です。卒論を書き上げるまでに、あらゆる障壁が皆さんの前に、現れては消え、消えては現れます。パソコンが壊れたり、USBがなくなったり。時には恋人と別れたりして、辛い思いを抱えながら執筆することにも……。①予定を立てること、②とにかく書くこと、③自分の言葉で書くこと。
	到達目標 卒業論文を作成するための、資料収集、整理を行い、研究方法を決め、研究をすすめていく。そのために必要な能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。 1 卒業論文の要件 2 卒業論文の進め方・年間計画作成 3 先行研究の検索、収集、整理① 4 先行研究の検索、収集、整理② 5 先行研究の検索、収集、整理③ 6 先行研究の検索、収集、整理④ 7 研究方法の検討① 8 研究方法の検討② 9 研究方法の検討③ 10 小テーマの設定① 11 小テーマの設定② 12 卒業論文テーマの確定 13 卒業論文の構成 14 卒業論文の構成の検討 15 中間発表会
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て ・研究報告は、予め順番を決めてから行う。期日までにレジュメを作成すること。 ・辞典、事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。
	評価 論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。12月1日に卒論提出、1月に卒業研究発表会を行います。
到達目標	理論編を完成させる。 アンケートや調査、模擬授業を終える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出	論文作成
	2	発表・質疑応答 (1)	論文作成
	3	発表・質疑応答 (2)	論文作成
	4	発表・質疑応答 (3)	論文作成
	5	発表・質疑応答 (4)	論文作成
	6	発表・質疑応答 (5)	論文作成
	7	発表・質疑応答 (6)	論文作成
8	発表・質疑応答 (7)	論文作成	
9	発表・質疑応答 (8)	論文作成	
10	発表・質疑応答 (9)	論文作成	
11	発表・質疑応答 (10)	論文作成	
12	発表・質疑応答 (11)	論文作成	
13	発表・質疑応答 (12)	論文作成	
14	発表・質疑応答 (13)	論文作成	
15	発表・質疑応答 (14)	論文作成	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。(欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。) ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点(討議への参加・質問内容)30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】卒論Ⅱ(4年次・後期) (2) 次のステージ 卒論Ⅱでは、アンケートや授業実践のデータを分析し、成果と課題をまとめることが求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で新たな研究成果を得ること。	メッセージ 納得のいく卒業論文が書けるよう、各自努力してください。
	到達目標 卒業論文の完成。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の完成。
-------	------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文進捗状況の確認・卒業論文執筆計画作成	現時点での卒論の進捗を確認する。
	2	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	3	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	4	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	9	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	10	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	11	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	12	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	13	卒業論文仮提出	添削に応じて修正する。
	14	卒業論文本提出	卒業論文の校正を行う。
15	卒業論文集作成に向けての準備	卒業論文集を作成する。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 他のゼミ生の研究発表に対して有意義な発言ができるよう、指定されたテキストは必ず読んでくること。		
	評価 卒業論文の完成度（80%）、受講態度およびゼミ内での共同作業への参加（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に論文の構成と執筆、再検討に力点をおく。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆し、再点検する。	

学びの準備	到達目標 論文の構成について考え、執筆し、再点検する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	2	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	5	論文を執筆する1	データの打ち込み
	6	論文を執筆する2	データの打ち込み
	7	論文を執筆する3	データの打ち込み
	8	論文を執筆する4	データの打ち込み
	9	論文を執筆する5	データの打ち込み
	10	論文を執筆する6	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文要旨をまとめる1	データの手直し	
16	論文要旨をまとめる2	データの手直し	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など そのつど指示する。		
学びの実践	学びの手立て 迷ったときは原点に立ち戻る。また、データの打ち込みに専念する。		
学びの実践	評価 論文の形式と内容を重視して評価する。論文100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 今後の課題を明らかにして、研究を継続してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中間発表の内容を踏まえ、各自の課題について手直し、補足調査等を行い、卒業論文をまとめます。	メッセージ 大学生生活の総決算。熱い心で取り組みましょう。
	到達目標 卒業論文の完成。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の完成。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 発表 2 卒業論文の形式、体裁の確認 3 手直し／推敲／完成 4 合評会 ※論文執筆と並行して各自3回程度の発表と、進度に応じた指導を行います。
	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。
	学びの手立て 論文を仕上げるためには、最後までしっかり講義に出席することが大切です。授業での発表に集中することが、着実に論文を進めるポイントになります。また、研究対象はちがっていても、他の人の発表をきき、論文の進め方を学ぶことは大変よい勉強になります。最後まであきらめずにがんばりましょう。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。
	学びの手立て 論文を仕上げるためには、最後までしっかり講義に出席することが大切です。授業での発表に集中することが、着実に論文を進めるポイントになります。また、研究対象はちがっていても、他の人の発表をきき、論文の進め方を学ぶことは大変よい勉強になります。最後まであきらめずにがんばりましょう。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。
	学びの手立て 論文を仕上げるためには、最後までしっかり講義に出席することが大切です。授業での発表に集中することが、着実に論文を進めるポイントになります。また、研究対象はちがっていても、他の人の発表をきき、論文の進め方を学ぶことは大変よい勉強になります。最後まであきらめずにがんばりましょう。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゼミナールⅣ
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

自らが専攻する学問的関心を専門知識を系統的に記述し、習得した知識を論理的で分かりやすい文章で表現する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	kanemoto@okiu.ac.jp 又は 5-501研究室	

学びの準備	ねらい 自らが選定したテーマを多面的に検証・解説し、他者が理解できるように必要な資料の収集し、分かりやすく論理的な記述のよ提示ができる技能を習得する。	メッセージ これまで学習した専門知識を文章という表現形式で読み手が理解できるように十分な情報（資料）の提供、論理的な展開を実践してください。
	到達目標 自分で選定したテーマを多面的な検証（十分な資料・情報収集）と論理的な展開で専門知識の分かりやすい伝達ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	表記上の注意事項（ルール）の確認と構成の確認
	3	事例の提示① 先行研究の活用例
	4	ディスカッション
	5	事例の提示② アンケート調査の事例
	6	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アボの確認
	7	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アボの確認
	8	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アボの確認
9	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アボの確認	
10	発表前準備と卒論の最終確認	
11	発表と修正	
12	発表と修正	
13	発表と修正	
14	確認と校正	
15	確認と校正	
16	製本	
		時間外学習の内容
		テーマの確認
		文献の引用に関するルールの確認
		文献検索の確認
		手法の検討
		有効性について検討
		テーマと手法について検討
		発表後に加筆や修正を検討
		発表後に加筆や修正を検討
		発表後に加筆や修正を検討
		(印刷開始)
		(印刷開始)
		卒論の精読
	テキスト・参考文献・資料など 各自の決めたテーマについて関連文献を紹介します。 大学図書館と学科資料室の活用を奨励します。	
	学びの手立て 前期でテーマの骨子は完成しています。これまでに書き進めてきた論文を再度読み直しましょう。 論理的展開に必要な資料の確認と卒論における引用の仕方（ルール）を再確認しながら書き加えていきます。 偏った情報や資料にならないように意識してください。	
	評価 基本である講義での取り組み、自己のテーマに関する必要な資料の収集と分析。（40%） 卒業論文：論理的展開および資料の質量で判断されます。（40%） 発表（20%）を通して修正を繰り返し最後の完成度を評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 偏らない資料や情報を収集し分析できるように心がけてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これからの図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自がテーマを自由に設定し卒論を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には、「問題解決能力」を身につけるために、問題設定→あらゆる情報手段を使用した資料情報収集→収集資料の比較検討選択→論文作成→発表→質疑応答討論という論文作成プロセスをすすめていく。</p>	<p>図書館司書課程の科目内容から、さらに踏み込んだ内容に触れる。各自が自らテーマ設定し、問題解決プロセスを展開させていく。</p>
到達目標	<p>図書館情報学という学門分野において、課題設定から問題解決まで自分で考えながらプロセスを進めることにより、問題発見能力、情報検索能力、情報選択能力、情報活用能力、情報発信能力など、社会参加した後も重要な問題解決のための基礎能力を身につけていく。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期日程について：オリエンテーション	第1～5週：中間発表に備えて、論文作成の進捗状況、今後の課題・問題点をまとめたレジュメを作成する
	2	卒論の中間発表①	
	3	卒論の中間発表②	
	4	卒論の中間発表③	
	5	卒論の中間発表④	
	6	論文執筆・個別指導①	第6～9週：論文作成作業を進めながら、内容確認とともに課題・問題点の解決のため個別に相談する
	7	論文執筆・個別指導②	
8	論文執筆・個別指導③		
9	論文執筆・個別指導④		
10	論文内容の発表・質疑応答①	第10～15週：執筆した論文内容の発表のために、レジュメを作成する	
11	論文内容の発表・質疑応答②		
12	論文内容の発表・質疑応答③		
13	論文内容の発表・質疑応答④		
14	論文内容の発表・質疑応答⑤		
15	論文内容の発表・質疑応答⑥		
16	総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など	各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介していく。	
	学びの手立て	問題解決プロセスでは、まず自ら考えて対策を立てること。その上で迷ったり、わからないことがある場合には、どのようなことでもすぐに相談すること。	
	評価	提出された論文により評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「ゼミナールⅣ」での作業内容を文章化し、論文としてまとめる。最後の卒論内容の発表・質疑応答を通して、自己表現・コミュニケーション力を養う。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 前年度の「ゼミナールⅡ」、前期の「卒業論文Ⅰ」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布等を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。	メッセージ 卒業論文は4年間の大学生活の総決算です。大学生活に悔いが残らないように、体調管理、スケジュール管理に気を付けつつ、卒業論文を仕上げていきましょう。
	到達目標 ①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。 ②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。 ③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	卒業論文の執筆方法1 卒業論文の様式学術論文の文体・引用の方法
	2	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
	3	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
	4	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
	5	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
	6	卒業論文の執筆5 (個別相談期間)
	7	卒業論文の執筆6 (個別相談期間)
	8	卒業論文の執筆7 (個別相談期間)
	9	卒業論文の執筆8 (個別相談期間)
	10	卒業論文の提出(仮提出)
	11	卒業論文の添削 (個別指導期間)
	12	卒業論文の添削 (個別指導期間)
	13	卒業論文の最終提出に向けて・抄録の書き方・英語タイトルの決定
	14	卒業論文集の作成・印刷・配布
	15	卒論発表会の進め方・授業のまとめ
16		
	時間外学習の内容	
	夏休みの取り組みを整理	
	序論・基本概念の執筆	
	基本概念の執筆	
	基本概念の執筆	
	調査方法の確定	
	調査の実施	
	調査の実施	
	調査結果の分析	
	調査結果の分析、結論の執筆	
	仮提出用ファイルの作成	
	本文の見直し	
	本文の見直し	
	本提出用ファイルの作成	
	卒業論文集の作成準備	
	発表会の準備	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。
----	--

学びの手立て	・10月～12月上旬かけては、1人あたり1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。 。
--------	--

評価	レポート・・・80点 (卒業研究の到達度、卒業論文の完成度を評価します) 平常点・・・20点 (個別相談時間の活用状況、卒論集作成への取り組み、卒論発表会の内容などを評価) ※授業・個別相談を欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文の執筆を通して学んだことを、卒業後、社会に出て生かしてくれることを期待しています。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科-4. 論理的批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要することを認識すること。よって、最初に設定した目次等の論文構成は、実際に書くことで何度も移動させながら、全体構想を練り直す作業が必要である。	卒業論文は、文献にのみ頼らず、伝承者の心意（思い）を理解するために、フィールド調査を重視すること。
到達目標	学士に相応しい卒業論文を作成すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の発表と質疑応答1	卒論執筆OR発表資料の作成
	2	卒業論文の発表と質疑応答2	卒論執筆OR発表資料の作成
	3	卒業論文の発表と質疑応答3	卒論執筆OR発表資料の作成
	4	卒業論文の発表と質疑応答4	卒論執筆OR発表資料の作成
	5	卒業論文の発表と質疑応答5	卒論執筆OR発表資料の作成
	6	卒業論文の発表と質疑応答6	卒論執筆OR発表資料の作成
	7	卒業論文の発表と質疑応答7	卒論執筆OR発表資料の作成
8	卒業論文の発表と質疑応答8	卒論執筆OR発表資料の作成	
9	卒業論文の発表と質疑応答9	卒論執筆OR発表資料の作成	
10	卒業論文の発表と質疑応答10	卒論執筆OR発表資料の作成	
11	卒業論文の発表と質疑応答11	卒論執筆OR発表資料の作成	
12	卒業論文の発表と質疑応答12	卒論執筆OR発表資料の作成	
13	卒業論文集の提出	卒論の校正	
14	卒業論文集の編集	卒論の校正及び修正	
15	卒業論文集の製本	卒論の校正及び修正	
16	総括	総括	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：なし 参考文献：各自の研究テーマに応じてその都度指示する。		
	学びの手立て	卒業論文に関連した文献の他、沖縄の祭り、御嶽、グスク等の実地見学調査を行うこと。	
	評価	卒業論文80%・平常点（授業への取組）20%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱで完了とする。
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。日本の古典文学と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ 締め切りギリギリでの執筆は、極めて危険です。卒論を書き上げるまでに、あらゆる障壁が皆さんの前に、現れては消え、消えては現れるのです。パソコンが壊れたり、USBがなくなったり。時には恋人を別れたりして、辛い思いを抱えながら執筆することも……。①予定を立てること、②とにかく書くこと、③自分の言葉で書くこと。
	到達目標 科学的な思考をもって論述し、正当な調査方法によって調査検討することによって、課題論文を完成させる能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。 16 卒業論文の目次・章立て① 17 卒業論文の目次・章立て② 18 卒業論文の執筆方法① 19 卒業論文の執筆方法② 20 卒業論文の執筆① 21 卒業論文の執筆② 22 卒業論文の執筆③ 23 卒業論文の執筆④ 24 仮提出と添削 25 添削・個別指導① 26 添削・個別指導② 27 添削・個別指導③ 28 卒業論文提出 29 卒業論文集の作成 30 卒業論文発表会
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 研究報告は、予め順番を決めて行います。期日までにレジュメを作成すること。 辞典・事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。
	評価 卒業論文80%+平常点20%

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文は、学位授与の絶対必要条件です。未提出の者には、審査を受ける権利がありません。計画的に調査、分析を進め、堅実な執筆を心掛けてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。
	到達目標 データ分析・結論を完成させる。 ゼミへの卒論提出は、12月1日〆切。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出・進行状況報告	論文作成
	2	発表・質疑応答(1)	論文作成
	3	発表・質疑応答(2)	論文作成
	4	発表・質疑応答(3)	論文作成
	5	発表・質疑応答(4)	論文作成
	6	発表・質疑応答(5)	論文作成
	7	発表・質疑応答(6)	論文作成
	8	発表・質疑応答(7)	論文作成
	9	発表・質疑応答(8)	論文作成
	10	発表・質疑応答(9) ※仮提出	論文作成
	11	内容・データ分析結果の最終確認	論文作成
	12	内容・データ分析結果の最終確認	論文作成
	13	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック） ※最終提出	論文作成・印刷会社への連絡
	14	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	論文集作成・印刷会社への連絡
15	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	論文集作成・印刷会社への連絡	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 【カリキュラムポリシーとの関連】4 今後も課題に向きあい、研究を継続してください。
-------	---

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。	メッセージ 卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。
	到達目標 琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
	3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成
4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成	
5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成	
6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成	
7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成	
8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成	
9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成	
10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成	
11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆	
12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆	
13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆	
14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆	
15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆	
16	予備日	卒論集作成	
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
	学びの手立て 個別的な面談を必要とします。レジュメを準備し中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行います。		
	評価 中間発表（25%）、論文の内容（25%）、形式（25%）、取り組み方（25%）の観点から総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ。卒業論文Ⅰ。
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 4年間の集大成となる卒業論文を仕上げる科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業論文を仕上げる。先行研究のまとめ、調査結果のまとめ、考察、などをさらに熟考し、結論につなげる。推敲を重ね、仲間と伝え合うことで、さらに多角的な視点と、論理的な思考を身につけていく。こうして、計画的に研究をすすめる、卒業論文を執筆することで大学での学びの集大成とする。	メッセージ 何度も考え直し、推敲を重ね、伝え合う活動を重ねて、自分のカラーを破ってください。
	到達目標 ・論理的な構成の文章（論文）を書くことができる。 ・調査結果から、適切に情報を読み取りまとめることができる。 ・仮説の検証を多角的な視点で行い、結論を出すことができる。 ・長期間の研究を計画的に行い、成果を出すことができる。	

学びの準備	到達目標 ・論理的な構成の文章（論文）を書くことができる。 ・調査結果から、適切に情報を読み取りまとめることができる。 ・仮説の検証を多角的な視点で行い、結論を出すことができる。 ・長期間の研究を計画的に行い、成果を出すことができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文執筆
	2	進捗状況の報告	文献検索と講読・論文執筆
	3	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	4	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	5	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	6	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	7	第一次提出（11/7）	文献検索と講読・論文執筆
	8	個別指導	文献検索と講読・論文執筆
	9	中間発表	文献検索と講読・論文執筆
	10	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	11	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	12	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	13	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	14	最終確認	文献検索と講読・論文執筆
	15	発表の準備 論文集作成の打ち合せ	文献検索と講読・論文執筆
16	卒業論文報告会	文献検索と講読・論文執筆	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て ・研究計画を再考し、最終確認する。 ・先行研究をさらに読み込み、参考にする。 ・研究のメモをノートに残し、何度も見直して考える。 ・仲間からの質問やコメントについてよく検討し、論文に反映させていく。
-------	--

学びの実践	評価 論文と、それを完成させていく過程（提出物、発表、その他取り組み）を評価する。 論文60%、提出物15%、発表15%、平常点10%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 論文執筆で培った、社会人として相応しい力（計画・思考・伝える、など）を、次のステージで活かして欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化共生論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地球上には、数千にも及ぶ言語があるとされているが、その多くが21世紀中には消滅するのではないかと危惧されている（琉球語諸方言もそういった言語の中に入るであろう）。本講義では、世界における様々な言語を地域別に調べる。それぞれが固有の言語文化を持っていることを理解し、多文化共生の視点を培っていく。	日本語、英語、中国語などの多数派の言語にふれる機会が多いかもしれない。しかし、世界には、多種多様な言語があり、それぞれの地域で祖先から受け継いだ文化を継承しようとしている。沖縄の現状もふまえつつ、世界中の各地域の言語文化に思いを寄せてほしい。
到達目標	他言語を理解するための基本的な概念を知り、多文化共生への手がかりとする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	参考文献の確認、レジュメの準備
	2	日本危機言語概略	レジュメの準備、講義内容の復習
	3	アイヌ語	レジュメの準備、講義内容の復習
	4	沖縄語（北琉球語）	レジュメの準備、講義内容の復習
	5	宮古語（南琉球語）	レジュメの準備、講義内容の復習
	6	東アジア言語概略	レジュメの準備、講義内容の復習
	7	朝鮮語	レジュメの準備、講義内容の復習
	8	ツングース諸語	レジュメの準備、講義内容の復習
	9	シベ語（満州語）	レジュメの準備、講義内容の復習
	10	北京語	レジュメの準備、講義内容の復習
	11	広東語	レジュメの準備、講義内容の復習
	12	上海語	レジュメの準備、講義内容の復習
	13	閩南語	レジュメの準備、講義内容の復習
14	台湾原住民語概略	レジュメの準備、講義内容の復習	
15	ブヌン語	講義内容の復習	
16	期末試験	試験の復習	
テキスト・参考文献・資料など	梶茂樹・中島由美・林徹『事典 世界のことば141』（大修館書店、2009年）、中川裕〔編〕『日本語の隣人たち』（白水社、2009年）、Merritt Ruhlen, "A guide to the World's Languages Volume 1: Classification", Edward Arnold, 1991、ニコラス・エヴァンズ（大西正幸・長田俊樹・森若菜〔訳〕）『危機言語 言語の消滅でわれわれは何を失うのか』（京都大学学術出版会、2013年）。		
学びの手立て	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えない。 発表形式の授業である。発表担当者は責任をもって発表すること。 英語の文献にもふれるので、英和辞典を準備すること（紙媒体・電子辞書いずれも可）。		
評価	平常点（20%）、作成レジュメ（10%）、期末試験（70%）で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 言語文化接触論Ⅰ・Ⅱ、比較文化論、アジア太平洋文化論、共通科目外国語科目群などが関連科目である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山貴之（8回）兼本敏（8回）	3年	奥山貴之 t.okuyama@okiu.ac.jp	研究室5-432

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>多文化間コミュニケーションコースが提供する、「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などの科目で学んだ知識を、実際の海外での文化体験と結びつけて理解を深めることをねらいとしています。視野を国際的に広げ、語学力やコミュニケーション能力を向上させる機会を得て、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な知識、および使用言語を習得する。 2) 訪問先の地域での体験実習を通して、コミュニケーションの技能や多文化理解を深める 3) 実習内容を内省し、報告書にまとめる。そのことで理解を深め、他者に成果を発信する力を身に付ける。</p>	<p>異文化や多文化に興味を持ち、理解しようすることは、グローバル化した現代社会で息抜き、活躍するための基本です。自ら計画を立て、異なる文化の中に飛び込んでください。多くのものが得られるはずです。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	3	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	4	事前研修（本学内）	訪問先の最新情報の共有と確認
	5	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	6	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	7	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	8	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	9	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	10	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	11	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	12	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	13	帰国報告書の反省会	訪問先の最新情報の共有と確認
14	報告書作成	資料の整理	
15	報告書作成	報告書の確認	
16	相互評価および修正	報告書の確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。 日本文化学科が提供する関連科目の復習。 共通科目で提供される訪問先の情報の確認など。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の地理・歴史・文化などを事前に調べる。 ・今まで語学や多文化理解に関する科目で学んだことと、実習で得た情報や体験を結びつけて、知識を確認、修正し、深化させる。 ・帰国後、体験実習で得た学びをしっかりと言語化し、他者に伝える。 ・事前研修では詳細に具体的に調べ、現地での体験は報告書の作成を想定してメモや写真で記録を残しておく。 		
	評価		
	事前研修（20%） 研修先での活動（40%） 報告書（40%） 全体での活動と個別での活動は事前に計画し報告してもらう。全体行動と個別活動の評価は「研修先活動」に含まれる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国際感覚を磨くのに役立つ科目です。出発前の準備も大切です。また訪問先で自分自身に対する新たな発見があるはずです。帰国後には新たな自分を形成に寄与する科目の履修や勉強（語学・歴史・地理・文化関連科目など）を希望します。

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースでは、沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくスキル修得を教育目標の1つとしている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域文化情報論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏(3回)、芳山紀子(6回)、伊佐常利(7回)	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付けるための専門科目と位置づけ、MySQL やWebプログラミングを用いて琉球語・日本語を課材とするデータベースを作成する。言語研究や文学研究を緻密に客観的に行うためには、充実したデータベースに基づく手法が不可欠である。その基礎となるデータベース作成の手法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>①琉球語の継承におけるデータベース構築の必要性を理解できる。 ②MySQLとWebプログラミングの仕組みを理解することができる。 ③MySQLとWebプログラミングを用いてリレーショナルデータベースを構築できる。 ※本科目は、上級情報処理士資格取得のための選択科目である。</p>	<p>コンピュータの情報処理能力は、私たちのことばの成り立ちを解析してくれるときにも威力を発揮します。たとえば、かつて辞典を作るときは単語を1枚1枚カードにして「人力」で50音順（あるいはアルファベット順）に並べ変えたのですが、今のコンピュータは一瞬にして「文字列処理」をし、有益な情報を与えてくれます。その手法を学んでみましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに：文字列の情報処理	文字コードについて知る
2	言語研究・文学研究・辞書作成と索引	琉球語テキストの準備①	
3	琉球語データベースの必要性	琉球語テキストの準備②	
4	MySQL 2 テーブルの作成、確認、削除/データ型と列制約/データの挿入/データの検索	DBの概要を復習・課題テーマ設定	
5	MySQL 3 where句/比較演算子/論理演算子	課題作成のためのデータ収集	
6	MySQL 4 並び替え/データの上書き/データの削除	データ収集・課第作成①	
7	MySQL 5 あいまい検索/結合	課題作成②	
8	独自データベース（課題）の作成と提出	課題作成③ 提出	
9	Webプログラミング基礎 1 コーディング基礎と出力	コーディングの基礎を復習	
10	Webプログラミング基礎 2 変数とデータ/演算子（算術・文字列連結・代入）	変数と演算子の理解を深める	
11	Webプログラミング基礎 3 if文/比較演算子/if else/if else if else	条件分岐文を理解する	
12	Webプログラミング基礎 4 論理演算子/for	ループ文を理解する	
13	Webプログラミング基礎 5 関数	課題に備え総復習	
14	フォームの送受信/Webプログラミングとデータベースとの連携 1	最終課題作成	
15	Webプログラミングとデータベースとの連携 2	最終課題作成	
16	最終課題発表	最終課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など		
	オリジナルテキストを使用する。		
	学びの手立て		
	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えない。		
	評価		
	定期テスト・・・0点（テストは行わない）		
	提出物・・・70点（課題発表でのソフトウェアの完成度で評価する）		
	平常点・・・30点（单元ごとの課題提出状況、到達度を評価する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「アカデミックセミナー」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館概論	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>図書館の存在意義・種類・機能を学び、職員制度の問題点などを説明する。司書を目指す学生については、資格課程の導入科目として位置づけ、図書館勤務経験を持つ講師の指導の下で、基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とする。一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>①図書館情報学を学ぶ上での基本知識（用語の意味など）と学習態度を身につけることができる。</p> <p>②図書館の存在を支える「図書館の自由」という理念を、民主主義、表現の自由、知る自由といったキーワードを用いて、適切に説明することができる。</p> <p>③現代の図書館と司書職が抱える制度的な問題を知り、自身が在住する自治体の図書館行政に結びつけて理解することができる。</p> <p>④幅広い図書館の種類、豊かな機能、司書の役割を知り、自己の職業適性を考えることができる</p>	<p>司書資格の取得を目指す人は必ず1年生で受講しましょう。資格取得を目指さない人も、日本文化学科での研究活動に役立つ基礎的なリテラシー（図書館活用の基本）を身につけることができる科目です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類	シラバスを読んで授業に備える
	2	図書館の構成要素と現代的課題(1)：建物・資料	指定図書を読む
	3	図書館の構成要素と現代的課題(2)：職員、司書になるには？	在住自治体の司書採用制度を調べる
	4	図書館の構成要素と現代的課題(3)：利用者	在住自治体の司書採用制度を調べる
	5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1)：民主主義・表現の自由・知る自由・図書館戦争	レポートの準備
	6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2)：資料収集・提供の自由 はだしのゲン・『絶歌』問題	レポートの準備
	7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3)：利用者の秘密を守る	レポートの準備
8	図書館の種類(1) 公共図書館①：設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」	指定図書を読む	
9	図書館の種類(2) 公共図書館②：サービスの三原則	指定図書を読む	
10	図書館の種類(3) 学校図書館①：設置主体・目的、サービス対象	指定図書を読む	
11	図書館の種類(4) 学校図書館②：設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴	学校司書の雇用状況を調べる	
12	図書館の種類(5) 大学図書館：設置主体・目的、サービス対象、課題	指定図書を読む	
13	図書館の種類(6) 専門図書館：種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など	指定図書を読む	
14	図書館の種類(7) 国立国会図書館・外国の図書館：種類、目的、利用方法、納本制度	指定図書を読む	
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題： 指定管理者制度、授業のまとめ	テスト勉強	
16	試験+解説	テストの振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> 参考図書は授業時間内に指示します。(指定図書コーナーに排架しています) 適宜、プリントを配布します。 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> 司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。 授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出題する演習問題（自由提出課題）に積極的に取り組みましょう。 6月17日、7月22日は6時間目も授業を行います。(5月17日、8月5日が出張のため) テストは7月29日に行います。 		
	評価		
	<p>定期テスト・・・80点（期末試験の到達度により評価）</p> <p>平常点・・・20点（授業時間中の提出レポートの到達度により評価）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館と社会との関わりについてより広く学ぶ科目として、「生涯学習概論」も1年生前期から受講できます。 この科目を受けて、さらに図書館について学びたいと思った方は、後期開講科目「図書館情報資源概論」を受講してみましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館サービス概論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口真也(4回) 呉屋美奈子(4回)、富永一也(8回)	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	図書館活動の基本的なあり方を、図書館サービスの中でも、特に「パブリックサービス」という側面に注目して、図書館現場で専門職として働いた経験をもつ講師の指導の下、その多様な種類、理念、具体的な方法について具体的に学ぶことで、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。後期から始まる、図書館サービスの各論(児童サービス、情報サービスなど)の基礎科目と位置づける。	司書を目指す方はもちろん、利用者の立場から図書館に興味がある方も含めて、この科目を通して図書館の機能・役割(ミッション)、司書の専門性を多く人に知ってもらいたいと思っています。
到達目標	以下の知識・技能を身につけることを到達目標とする。 ①図書館サービスに関するの基本知識(専門用語の意味、必要性の理解)、 ②自身が普段利用している図書館のサービスを適切に評価する力、 ③自己の職業適性を考える力、 ④多様な文献や図書館サービスを積極的に活用した上でレポートを作成し、図書館サービスの中でも特に重要な資料提供サービスの必要性・重要性を利用者の視点から理解する力	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館サービスの種類と理論、法令との関わり、「まちづくり」と図書館	シラバスを読み、授業に備える
	2	閲覧サービス フロアワークの重要性・第三の場としての図書館・展示活動	ミニレポート①テーマ決定
	3	貸出・予約サービス	ミニレポート①文献調査
	4	情報サービス 定義と種類、現代的意義と制約	ミニレポート①作成・提出
	5	図書館の広報活動① 図書館行事・イベント、市民との協働	ミニレポート②テーマ決定
	6	図書課の広報活動② 図書館PR	ミニレポート②文献調査
	7	対象別サービス① 若い世代(乳幼児・児童・ヤングアダルト)	授業の復習・予習
	8	対象別サービス② 障害者(視覚障害者を中心に)	授業の復習・予習
	9	対象別サービス③ 障害者(そのほかの図書館利用に障害を持つ人)	授業の復習・予習
	10	対象別サービス④ 外国人(多文化サービス)、貧しい人たち	授業の復習・予習
	11	図書館サービスの諸課題① 危機管理	授業の復習・予習
	12	図書館サービスの諸課題② 利用規則・条例の見直し	授業の復習・予習
	13	図書館サービスと著作権① 著作権と著作権法の理論	ミニレポート②作成
	14	図書館サービスと著作権② 複写サービスの方法・注意点	ミニレポート②作成・提出
15	図書館サービスの諸課題③ 行政サービスとしての図書館サービス	小テスト勉強	
16	図書館サービスの評価・小テスト	小テストの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

- ・プリントを配布します。欠席した場合は、翌週までに山口研究室(5-525)前で受け取りましょう。
- ・授業で紹介する参考文献は本学図書館1F、指定図書コーナーに排架されていますので、積極的に活用しましょう。

学びの手立て

- ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。(1年生の時にオリエンテーションを受講していない人)
- ・本科目は3名の教員が担当します。教員の都合により各回の内容を入れ替えることもあります。詳細は1回目の授業で説明します。
- ・5月18日は講師の都合により休講です。その分の授業は4月13日、4月27日のお昼休みを使って行いますので、予定を開けておきましょう。(12時45分くらいまで)

評価

ミニレポート①…25点(山口パート)
ミニレポート②…25点(呉屋先生パート)
ミニテスト…50点(富永先生パート)

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期からサービス系科目の各論科目が多数開講されます。司書を目指す方は、この科目で学んだことを基礎としてさらに学びを深めてください。司書課程を受講しない方は、この科目で学んだ知識を生かして、よき図書館利用者としてこれからの人生を豊かに過ごしてくれることを期待します。

※ポリシーとの関連性

日本文化学科の自由選択科目ですが、司書課程受講生であれば全科受講できます。演習Ⅰを受講していない方も大歓迎です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報学特別演習Ⅱ	前期	木2	2
	担当者 山口 真也	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業は、現代の図書館に求められる「課題解決」をテーマとする演習・実習形式の授業です。図書館勤務経験をもつ講師のコーディネートの下、現場の職員の方とも協働しながら、「図書館情報学特別演習Ⅰ」の学習内容をさらに実践的に展開していきます。	日本文化学科の専門科目の1つですが、司書課程受講生であれば他学科の学生も歓迎です。司書を目指す人はぜひ受講して下さい。

到達目標	①図書館における企画展示の実習、イベントの運営などの協力を通して、これからの司書に求められる企画運営能力を身に着ける、 ②図書館・図書館関係企業で活躍している方々と交流を通して、職業に対する理解を深め、進路決定の参考とする、 ③グループワークを通して、司書として、社会人として求められる協働意識やチームの一員として働く上での自己の適性を理解する。
------	---

学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	<p>本授業は、「書店でのブックフェアの開催」と「病院へのアウトリーチサービス」という2つのプロジェクトの実施を予定しています。受講生はこの2つのプロジェクトのうち、どちらか1つをメインで担当し、もう1つはサポート役として関わります。</p> <p>1回目 プロジェクトの紹介・担当グループの決定 2回目～8回目 ジュンク堂那覇店とのコラボレーションによる「本好きの大学生が選んだ本」フェアの開催 日本文化学科の卒業生であり、司書課程でも学んだジュンク堂の書店員さんの指導の下で、売り場の一部をお借りして、ブックフェアを企画・運営する。再販売価格維持制度・委託販売制度など、図書館員として必要となる出版流通の知識を実体験を通して学ぶとともに、図書館関連企業として書店への就職を視野に入れている学生には、司書課程で学んできた「資料を提供する」と「書籍を売る」との違いを学ぶ機会にもなる。(4月～6月中旬にかけて実施します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジュンク堂那覇店の訪問・フェアについてのレクチャーを受ける ●フェアの企画を考える・どのような本を選ぶか? ●フェアのアイテムを考える・ブックカバー、しおりなどのデザイン・発注 ●効果的なPOP、推薦者の想いが見える宣伝方法とは? ●販売促進イベントを考える・実施する <p>9回目～15回目 病院図書館でのアウトリーチ型児童サービスの体験 昨年度の授業で少年院へのアウトリーチサービス体験から学んだように、公共図書館がサービス対象とする地区の中には、公共図書館を日常的に利用できない人が一定数存在する。今期の授業では、那覇市にある沖縄赤十字病院の図書室(専門図書館)と協働し、病院図書館での資料提供サービスの充実を通して、弱い立場の人たちへを支援するという公共図書館の1つのミッションを実践的に理解する。(6月下旬～8月上旬にかけて実施します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●病院図書室担当者からのレクチャー・病院と図書室の活動を知る ●入院患者のニーズを知る・アンケートの作成 ●ニーズをもとに県立図書館の一括貸出し制度を利用して本を選ぶ ●病院図書室の活動をPRする・パンフレット、ポスター、チラシ等の作成 ●団体貸出コーナーづくり ●病院へのアウトリーチサービスの課題を考える・紛失の恐れ、資料の消毒の必要性等 <p>16回目 授業のまとめ・振り返り・感想レポートの作成</p>

実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを使用する。 ・演習に必要な道具類は全て補助されます。
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格取得のための科目ではありません。 ・図書館情報学の基礎知識を必要とするアドバンスド科目ですので、原則として、司書科目の基礎科目(概論科目)を履修していることを履修の条件とします。 ・ゲスト講師、協力館の都合により、日程が変更になることもあります。 ・書店・図書館等を訪問する際、午前中に2コマ続けて授業を行うこともありますが、受講生全員のスケジュールを調整した上で日程は決定します。 ・「演習Ⅰ」を受講していない学生の受講も歓迎します。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻は3回で1回の欠席とし、6回以上欠席した場合は単位を認定しません。 ・授業時間中のグループ学習の取り組み(50点)、プロジェクトの到達度(30点)、感想レポート(20点)を合計して評価します。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業で学んだことを卒業後に図書館現場、または図書館関連企業で生かしてくれることを期待しています。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報資源概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 図書館活動の基本的なあり方を、図書館情報資源（資料・メディア）という側面に注目して、図書館専門職経験をもつ講師の指導の下で、収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に学ぶとともに、関連領域である出版と流通のあり方について理解し、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。	メッセージ 司書資格を取得するための基礎科目です。日本文化学科の専門科目にもなっていますので、大学生活で図書館を上手に活用したいと思っている人は受講してみましよう。
	到達目標 ①図書館資料（情報資源）の種類を理解し、図書館サービスの多様性と関連づけてその機能を説明することができる。 ②図書館資料の収集・提供をめぐるこれまで生きてきた様々な問題を知り、「図書館の自由」の理念をふまえて望ましい対応を提案できる。 ③図書館資料をめぐる制度である日本独自の出版・流通制度の特徴を理解し、その意義と問題点を説明することができる。 ④様々な資料を活用して課題レポートを作成することで、図書館資料の必要性を利用者の視点から理解することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館情報資源（資料）の定義	シラバスを読み、授業に備える
	2	図書館情報資源の種類（1）図書	授業の復習・予習
	3	図書館情報資源の種類（2）逐次刊行物（雑誌） マガジンとジャーナルの違い	指定図書を読む
	4	図書館情報資源の種類（3）逐次刊行物（新聞）新聞による報道の違い、中立公正とは？	指定図書を読む
	5	図書館情報資源の種類（4）小冊子 地域資料と灰色文献	授業の復習・予習
	6	図書館情報資源の種類（5）書写資料・視覚障害者向け資料	指定図書を読む
	7	図書館情報資源の種類（6）電子書籍・インターネットサービス、電子図書館	授業の復習・予習
	8	図書館情報資源の収集（1）収集方針・選択理論・ツール・複本問題(出版社・書店との関係)	授業の復習・予習
	9	図書館情報資源の収集（2）複本問題(出版社・書店との関係)、レポート課題①	レポート①の準備(文献収集)
	10	図書館情報資源の整理（1）分類、人文・社会・自然科学分野の情報資源の特徴とは？	レポート①の準備(文献収集)
	11	図書館情報資源の整理（2）目録・排架・装備	授業の復習・予習
	12	図書館情報資源の保存 外的要因と内的要因(酸性紙問題、災害・戦争やテロの被害)	授業の復習・予習
	13	図書館情報資源とパブリックサービス（1）図書館の自由との関わり・資料収集、提供の自由とは？	レポート②の準備(文献収集)
	14	図書館情報資源とパブリックサービス（2）事例紹介：BL本・『絶歌』、レポート課題②	レポート②の準備(文献収集)
15	図書館情報資源をめぐる諸制度： 取次、再販制の意義と問題	テスト勉強	
16	試験+解説	テストの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・授業内容の理解を深めるための参考図書は、本学図書館1F指定図書コーナーに配架しています。		
	学びの手立て ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。後期から受講を始める人は履修ガイドをよく読むこと。 ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出题する演習問題（自由提出課題）にも積極的に取り組みましょう。 ・レポート課題を作成する際は、多様な図書館情報資源を活用するように心がけましょう。1月中旬から本学図書館で開催予定の「レポートライティングサポート」も積極的に受講しましょう。		
	評価 定期テスト・・・70点（期末試験の到達度により評価） 平常点・・・30点（授業時間中に提出を指示する課題の到達度により評価）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書資格取得を目指す方は、情報資源系の後継科目「情報資源組織論Ⅰ」「情報資源組織論Ⅱ」を続けて受講しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館文化論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	2年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	生涯学習社会・情報社会における図書館について、国策レベルの公共図書館の内容と変化の方向性（理想像）を把握した上で、現在の公共図書館における課題・問題点のとらえ方の基礎を学ぶ。さらに、最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。	3年次からの専門課程で「図書館情報学ゼミナール（吉田ゼミ）」に進もうとしている2年次向けの「プレゼミ科目」として設定している。
到達目標	図書館を取り巻く基礎知識として関連法、法則、綱領などをあらためて把握した上で、日本の公共図書館の諸問題を考える上で中核となる国レベルの政策を取り上げ、あらためて図書館の理想と現実を捉え直す。さらに、今日の図書館が直面している諸問題についても内容を把握した上で考察をすすめる、専門課程で図書館情報学のゼミを選択する人の基礎的知識の土台をつくる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：科目内容と進め方の説明	
2	公共図書館の基礎知識1	第2～4週：法律・綱領の内容把握	
3	公共図書館の基礎知識2		
4	公共図書館の基礎知識3		
5	レポートA（図書館像①近未来像）：提示・説明	第5～12週：国レベルの政策を把握	
6	レポートA（図書館像①近未来像）：発表・まとめ		
7	レポートB（図書館像②図書館政策）：提示・説明		
8	レポートB（図書館像②図書館政策）：発表・まとめ		
9	レポートC（図書館像③理想と現実）：提示・説明		
10	レポートC（図書館像③理想と現実）：発表・まとめ		
11	レポートA～Cのまとめ（図書館像の理想と現実）		
12	レポートD（図書館の現状と課題）：提示・説明		
13	レポートE（図書館が直面する諸問題）：提示・説明	第13～16週：関連文献での調査	
14	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表1		
15	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表2		
16	総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて、適宜プリントを配布する。		
学びの手立て	国レベルでの理想像と、身近に利用している最寄りの公共図書館の現実を比較・対象してみる。また、社会変化により、図書館はどのような新たな問題に直面しているのか、という視点で日本の公共図書館全体を概観してみる。		
評価	平常点（10%）及び課題レポートの提出・発表（80%）、授業への参加姿勢（10%）による総合評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 図書館関連の学門分野を扱う「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「ゼミナールⅢ・Ⅳ」へと進み、各自が設定した論題で卒業論文をまとめる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本近代現代文学や国語教育に必要な基礎知識を習得し、実際の作品に数多くふれることで、教養を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1 年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近現代史を踏まえながら日本近代文学の成立背景や特質について学ぶ。具体的には、いくつかの代表的な作品にふれながら、どのような社会状況のもとでテキストが読まれ生成されてきたかについて考える。	日本近代文学という未知の森を、一緒に探検しよう！

到達目標	明治以降の日本近現代文学の成立と変遷について学び、文学史的知識の基礎を身につけることを目的とする。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	高校までの基礎知識を復習する。
	2	近代文学と進化論	プリントを復習する。
	3	写実主義文学～坪内逍遙「小説神髓」～	指示したテキストを読解する。
	4	言文一致運動と文体のゆれ～二葉亭四迷「浮雲」ほか～	指示したテキストを読解する。
	5	硯友社の文学～尾崎紅葉「金色夜叉」ほか～	指示したテキストを読解する。
	6	近代恋愛の成立～北村透谷「厭世詩家と女性」～	指示したテキストを読解する。
	7	立身出世と恋愛～森鷗外「舞姫」～	指示したテキストを読解する。
8	女性作家の登場と樋口一葉～「たけくらべ」～	指示したテキストを読解する。	
9	自然主義文学の成立(1)～島崎藤村「破壊」～	指示したテキストを読解する。	
10	自然主義文学の成立(2)～田山花袋「蒲団」～	指示したテキストを読解する。	
11	夏目漱石と新聞小説～「三四郎」～	指示したテキストを読解する。	
12	耽美派の文学～谷崎潤一郎「刺青」～	指示したテキストを読解する。	
13	〈新しい女〉と田村俊子～「木乃伊の口紅」～	指示したテキストを読解する。	
14	白樺派の文学～武者小路実篤「友情」ほか～	指示したテキストを読解する。	
15	大正期文学の諸動向～芥川龍之介ほか～	指示したテキストを読解する。	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリント及びテキストを適宜指示する。		
	学びの手立て 漫然と知識を学ぶだけでは、文学史は理解しにくいものです。できるだけ多くの文学作品に触れ、その時代の雰囲気や生の手触りを知ることが大切です。ただし、最低限の文学史の知識は必要です。そのためには、試験の前になって慌てないよう毎回到授業の予習、復習をおこなしましょう。		
	評価 ①学期末試験(90%) ②提出物(10%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本近代文学史 II
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

日本近現代文学研究や国語教育に必要な基礎知識を習得し、実際の作品に数多く触れることで教養を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 関東大震災から現代に至るまでの文学史の流れを理解し、代表的な作家・作品についての理解を深めることを目指す。 受講生には積極的な読書を求める。 受講生が日本近代文学における諸概念を理解し、さまざまな文学表現を具体的に考察するための力を養うことを目的とする。	メッセージ 日本近代文学史Ⅰを履修していない者の登録も認めるが、基本的にはⅠ・Ⅱを通しての履修が望ましい。 日本の近代史と文学の展開を関連づけて理解する視点を養ってほしい。
	到達目標 大正から現代にかけての文学がいかに発展してきたかを時代に即して理解する。 実際の作品に触れ、読解力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
	2	関東大震災と文学	関東大震災について復習。
3	新感覚派とプロレタリア文学	プロレタリア文学について復習。	
4	梶井基次郎の文学	「檸檬」を読む。	
5	山之口獏の詩	山之口獏の詩を読む。	
6	昭和10年前後の文学状況	戦前の文学について復習。	
7	戦時下の文学	テスト勉強。	
8	中間テスト：文学史の理解度をはかる。持ち込み可。	テスト内容の復習。	
9	戦後派文学—新日本文学会と『近代文学』派	戦後文学について復習。	
10	太宰治と戦後の頹廢的空気感	太宰治について復習。	
11	大岡昇平「野火」①—見棄てられた兵士たち	「野火」を読む。	
12	大岡昇平「野火」②—殺すこと、食べること、生きること	「野火」を読む。	
13	石牟礼道子「五月」①—水俣病という病	水俣病について復習。	
14	石牟礼道子「五月」②—語りつくせぬことを聞き取る可能性に向けて	「五月」を読む。	
15	村上春樹の世界	村上春樹について復習。	
16	期末テスト：文学テキストの読解力をはかる。	テスト内容の復習。	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義で資料を配付する。 大岡昇平『野火』（新潮文庫）。		
	学びの手立て テストでは講義で配布するレジュメおよびノートの持ち込みを認める。 講義で扱う文学作品に実際に触れることを推奨する。		
	評価 中間テスト（40%） 期末テスト（50%）、受講態度（10%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本近代文学史Ⅱで学んだ作品を実際に読破し、作家・作品への理解を深める。 関連科目は日本近代文学史Ⅰ、文化テキスト論Ⅰ・Ⅱ。
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本近現代文学研究や国語教育に必要な基礎知識を習得し、実際の作品に数多く触れることで教養を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 関東大震災から現代に至るまでの文学史の流れを理解し、代表的な作家・作品についての理解を深めることを目指す。 受講生には積極的な読書を求める。 受講生が日本近代文学における諸概念を理解し、さまざまな文学表現を具体的に考察するための力を養うことを目的とする。	メッセージ 日本近代文学史Ⅰを履修していない者の登録も認めるが、基本的にはⅠ・Ⅱを通しての履修が望ましい。 日本の近代史と文学の展開を関連づけて理解する視点を養ってほしい。
	到達目標 大正から現代にかけての文学がいかに発展してきたかを時代に即して理解する。 実際の作品に触れ、読解力を高める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
2	関東大震災と文学	関東大震災について復習。	
3	新感覚派とプロレタリア文学	プロレタリア文学について復習。	
4	梶井基次郎の文学	「檸檬」を読む。	
5	山之口獺の詩	山之口獺の詩を読む。	
6	昭和10年前後の文学状況	戦前の文学について復習。	
7	戦時下の文学	テスト勉強。	
8	中間テスト：文学史の理解度をはかる。持ち込み可。	テスト内容の復習。	
9	戦後派文学—新日本文学会と『近代文学』派	戦後文学について復習。	
10	太宰治と戦後の頹廢的空気感	太宰治について復習。	
11	大岡昇平「野火」①—見棄てられた兵士たち	「野火」を読む。	
12	大岡昇平「野火」②—殺すこと、食べること、生きること	「野火」を読む。	
13	石牟礼道子「五月」①—水俣病という病	水俣病について復習。	
14	石牟礼道子「五月」②—語りつくせぬことを聞き取る可能性に向けて	「五月」を読む。	
15	村上春樹の世界	村上春樹について復習。	
16	期末テスト：文学テキストの読解力をはかる。	テスト内容の復習。	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義で資料を配付する。 大岡昇平『野火』（新潮文庫）。		
	学びの手立て テストでは講義で配布するレジュメおよびノートの持ち込みを認める。 講義で扱う文学作品に実際に触れることを推奨する。		
	評価 中間テスト（40%） 期末テスト（50%）、受講態度（10%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本近代文学史Ⅱで学んだ作品を実際に読破し、作家・作品への理解を深める。 関連科目は日本近代文学史Ⅰ、文化テキスト論Ⅰ・Ⅱ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本芸能史	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	2年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古代の雅楽、中世の能楽、近世の歌舞伎・文楽と日本を代表する芸能の歴史について学び、それらの芸能が当時の身分制社会と密接に結びついていることを学ぶと同時に、民俗芸能と古典芸能の相違について理解を深める。	メッセージ 日本の芸能の所作・音楽・セリフから、その精神性について学ぶ態度を身に付けて欲しい。テーマによっては、グループで調べて発表してもらうこともある。
	到達目標 日本芸能と琉球の芸能を文化論的に比較することを習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本芸能の音楽と所作について	日本古典芸能の種類を整理する
	2	古代社会と芸能について	奈良・平安の古代史の整理
	3	雅楽と舞楽の舞台と精神性について	平安貴族について調べる
	4	雅楽と舞楽	古代の楽器について調べる
	5	中世社会と芸能について	武家政治を調べる
	6	能・狂言の舞台と精神性について	能舞台について調べる
	7	能の構造について	夢幻能について調べる
	8	能と狂言の相違について	狂言の種類について調べる
	9	近世社会と芸能について	近世の遊郭について調べる
	10	近世小唄と琉歌	三線と三味線について調べる
	11	歌舞伎の舞台と精神性について	歌舞伎の舞台構造を調べる
	12	文楽の精神性について	人形劇について調べる
	13	義太夫語りについて	「語る」と「歌う」を調べる
	14	日本と沖縄の芸能の特徴について	西洋のスポーツと
	15	総括—日本芸能の変遷について考える—	これまでの資料の整理
	16	試験	試験の準備
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。講義の中で参考書を指示する。		
	学びの手立て 講義で配布されたプリントは整理して保管する。NHKのEテレで古典芸能を鑑賞する。		
	評価 試験80%・平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 日本語に関する専門的な知識を深め、その歴史的背景について深く学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 穰	3年	授業終了後に教室で受け付けます（「リアクション・ペーパー」への記入も可）。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、日本語の音韻（発音の体系）、語法（会話のしくみ）、語彙（単語の集まり）、文字・表記（ことばを記すルール）などの各分野の歴史を概観していきます。日本語がどのように生じ、どのように発達したか、また、なぜ衰え滅んだかを考えることで、どのような特徴を持つことばなのかを理解できるようになります。	本科目は、日本語教員養成プログラムや国語教育にも関連している科目です。将来、国語教師や日本語教員になりたい人や普段使用している「日本語」が他の言語とどのような違いがあるのかについて関心がある人へ受講を勧めます。
到達目標	1. 本講義の到達目標は、現代日本語のどの要素が古典語から現代まで生き残り、どのような要素が変化したのか、分析する力を持つことです。そのためには、その前に日本語史の基礎的な知識を身につける必要があります。 2. 身につけた日本語史の知識を日本語教育や国語教育へ取り入れ、教育現場や一般社会などでこれを生かせるように実力をつけることです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義内容の確認と登録調整／上代の日本語(1) 音韻①	プリントとテキストⅠ章を読む
	2	上代の日本語(2) (奈良時代までの日本語の音韻②, 文字)	プリントとテキストⅠ章を読む
	3	上代の日本語(3) (奈良時代までの日本語の文法)	プリントとテキストⅠ章を読む
	4	上代の日本語(4) (奈良時代までの日本語の語彙)	プリントとテキストⅡ章を読む
	5	中古の日本語(1) (平安時代の日本語の音韻)	プリントとテキストⅡ章を読む
	6	中古の日本語(2) (平安時代の日本語の文字, 文法①)	プリントとテキストⅡ章を読む
	7	中古の日本語(3) (平安時代の日本語の文法②)	前半のプリントとⅠ～Ⅲ章を読む
	8	中世の日本語(1) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の音韻) / 中間試験	プリントとテキストⅢ章を読む
	9	中世の日本語(2) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の文法)	プリントとテキストⅢ章を読む
	10	中世の日本語(3) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の語彙)	プリントとテキストⅣ章を読む
	11	近世の日本語(1) (江戸時代の日本語の音韻, 文字)	プリントとテキストⅣ章を読む
	12	近世の日本語(2) (江戸時代の日本語の文法)	プリントとテキストⅣ章を読む
	13	近世の日本語(3) (江戸時代の日本語の語彙)	プリントとテキストⅤ章を読む
14	近現代の日本語(1) (明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の音韻・表記)	プリントとテキストⅤ章を読む	
15	近現代の日本語(2) (明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の文法・語彙)	後半のプリントとテキストを読む	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。必ず購入してください。 『日本語の歴史』(山口仲美[著], 岩波書店, 2006年) 【参考文献】 『日本語史』(沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤[著], おうふう, 1989年) 『はじめて読む日本語の歴史』(沖森卓也[著], ベレ出版, 2010年) 『新訂 国語史要説』(土井忠夫・森田武[著], 修文社, 1975[1955]年)		
	学びの手立て		
	この授業で日本語史に関する知識をきちんと理解していないと、日本語史Ⅱの講義内容についていけません。また、各自に与えられた発表テーマについての理解ができずに発表レジュメの作成や質疑応答も行うことができません。そのため、この授業で日本語史の概略を把握できるよう、テキストや配布プリントを事前や事後に読み返してください。さらに参考文献にも目を通しておくと、授業では取り上げられなかった内容についても関連づけて学ぶことができます。		
	評価		
	中間試験(30%) + 期末試験(50%) + 講義への参加度[リアクションペーパーの提出](20%)によって成績を判じます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目: この講義を受講後、より深く学びたい人は「関連科目」の「日本語史Ⅱ」を受講してください。 (2) 次のステージ: 現代日本語も常に進化し、変化していきます。日本語の変化の特徴を学び、今後起こりうる言語変化に対応できるようになりましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 穰	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのような生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づけます。前半では発表の実例や取り扱う言語資料に関する解説を行います。6回目以降は受講生による発表形式を取り、研究テーマに関する発表、質疑応答、レポートの作成などに取り組むことで、実社会で役立つ力を身につけてもらいます。	受講生は最初に日本語史の重要なテーマのなかから発表するテーマを選択します。実際に発表を行う際は、選択したテーマの内容をテキスト、参考文献、日本語学の専門書などをよく読み、内容の理解を深めます。つぎに、実際の言語資料から用例を抜き出すなどしてテーマの検証を行います。真摯に取り組み、発表力だけでなく、読解力、分析力、質問力なども向上します。

到達目標	①担当するテーマをよく理解し、適切な文献にあたって言語資料を抜き出すことができる。②抜き出したデータを分析し、どのような特徴があるのかをまとめることができる。③テキストや参考文献に書かれてある内容と自分の分析結果を比べ、テーマに書かれてあることが正しいかどうか判断することができる。④これらを制限枚数内にまとめてレジюмеを作成し、印刷・配布することができる。⑤研究内容をわかりやすく説明し、質疑に的確に答えることができる。⑥他者の発表を聞き、質問をすることができる。⑦発表内容や批評をレポートにまとめることができる。⑧レポートを決められた体裁に整え、期限内に提出することができる。 ※この科目の最終的な目標は、帰納法、実証方法を取得することです。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義方法・テーマの確認と担当決め、日本語史の区分	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	2	事例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その1）	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	3	古典語の文献とその特徴	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	4	現代語の文献とその特徴	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	5	事例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その2）	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	6	発表と質疑：上代の音韻	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	7	発表と質疑：上代の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	8	発表と質疑：中古の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	9	発表と質疑：中古の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	10	発表と質疑：中世の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	11	発表と質疑：中世の文法 / レポート提出（レポート綴り、中間提出）	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	12	発表と質疑：近世の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	13	発表と質疑：近世の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	14	発表と質疑：近現代の表記 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
15	発表と質疑：近現代の文法 / レポート提出	レポートを綴り、テキストを読む	
16	レポート最終提出日（発表予備日）		

学びの手立て	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ※講義のテーマを深く理解するために使用します。 沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤（1989）『日本語史』おうふう</p> <p>【参考文献】 土井忠夫・森田武（1975[1955]）『新訂 国語史要説』修文社</p>
--------	--

学びの手立て	<p>受講生の一人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞いて討議に積極的に参加してください。なお、発表者のレジюмеは1週間前に配布されるので、事前に目を通して内容の把握を行うとともに質疑応答への準備もしてください。</p> <p>レポートは発表の態度のほか、資料（底本となる文献）の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジюмеの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてください。また、提出期限を守ってください（厳守）。レポートの最終提出日には、表紙やつづり方など、第1回目の授業で配布する「要領」に記載されている書式で提出してください。</p>
--------	---

評価	<p>研究発表(50%)＋レポート[授業記録](35%)＋討議[授業参加](15%)で成績を判断します。</p> <p>※「研究発表」では、レジюмеの作成とその内容、発表態度、質疑応答で目標の達成度を判断します。「レポート」では発表内容のまとめ方、批評の際の独自の視点、提出状況で目標の達成度を判断します。「討議」では、他者の発表やレジюмеの理解度や質問力、積極性などで目標の達成度を判断します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 前期に開設される「日本語史Ⅰ」を受講してから本科目を受講してください。「日本語史Ⅰ」を受講せずに本科目を受講する場合は、山口仲美『日本語の歴史』（岩波書店、2006年）を手に入れて熟読し、テキストの第Ⅰ部をよく読み込んでから参加してください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学史	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古代・中世・近世文学の流れを辿り、それぞれの歴史性について理解する。	メッセージ 何か一つ好きな作品を見つけてほしい。そうすると、そこから広げて様々な作品をつなげていくことができるはずである。
	到達目標 古代・中世・近世文学の流れを理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古代・中世・近世文学の概観	テキストの予習2~4頁
	2	万葉集の世界・初期万葉	5~10頁
	3	万葉集の世界・人麻呂と赤人	11~13頁
	4	万葉集の世界・旅人と家持	15~22頁・レポートの作成
	5	古事記、日本書紀、風土記	34~42頁
	6	古今集の世界	44~52頁
	7	平安時代の物語	88~96頁
	8	平安時代の日記	112~118頁
	9	新古今集の世界	125~139頁・レポートの作成
	10	軍記物語	167~175頁
	11	御伽草子	182~188頁
	12	近世の俳諧	224~241頁
	13	近世前期の小説	224~241頁
	14	近世後期の小説	テキストによる学習
	15	小テスト	テキストによる学習
	16	まとめ	テキストの復習
	テキスト・参考文献・資料など 『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 新日本古典文学大系（岩波書店）、新編日本古典文学全集（小学館）、日本古典集成（新潮社）などを活用してください。		
	評価 レポートと小テストで評価する。レポート2回X30、小テスト40の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学概論」では日本文学の様々な特質について考えるとともに、様々な研究方法を紹介する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語音声学特講	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	3年	非常勤のため、講義の前後とする。欠席届は紙で提出のこと。	

学びの準備	ねらい 「言語音声」の伝達と性質について理解できる。日本語の仮名文字と音声の関係についてわかる。日本語の仮名文字の正書法と、日本語の規範的な発音の体系を相対的にとらえることができる。	メッセージ テキストを事前に読み、専門的な用語を確認しておく。講義中に発声してもらうことがある。そのときにきちんと声をだすこと。
	到達目標 人間の音声のもつ機能について説明できる。日本語の仮名文字と音声の別な基準であることが説明できる。	

学びの準備	到達目標 人間の音声のもつ機能について説明できる。日本語の仮名文字と音声の別な基準であることが説明できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週 講義内容のガイダンス 2週 言語音声のラング的側面と非ラング的側面について 3週 言語音声の非ラング的側面1 4週 言語音声の非ラング的側面2 5週 あらためて言語音声とは 6週 言語音声のラング的側面1（単語・文・イントネーション） 7週 言語音声のラング的側面2（単語・音節・音素） 8週 テスト（第1回） 9週 五十音図の成立と音声 10週 清音と濁音 11週 直音と拗音・合拗音 12週 つまる音（促音）とはねる音（撥音） 13週 母音について 14週 音節・アクセント構造の変化 15週 かな正書法（まとめ） 16週 テスト（第2回） ※進捗状況により内容は前後する。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは教員で用意する。 「言語音声は何を伝えるか」上村幸雄1964 「五十音図の音声学」上村幸雄
	学びの手立て 日本語音声学関連の書籍は多く出版されているので、参照してもらうのがいい。また、音響音声学、聴覚心理学の分野も興味をひろげるだろう。
評価	テスト2回(各45%)で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語など他の言語の音声学関連の講義。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学概論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。ふだん何気なく無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この「概論」では、音声学の基礎および現代日本語の音声の特徴、また日本語の音声と文字の歴史の変遷、表記の問題について学んでいきます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①日本語の音声の特徴 ②日本語の文字と発音の歴史の変遷 ③日本語の表記法(漢字、仮名)	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	日本語の音声の特徴①：音声のしくみ、日本語の母音	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語の音声の特徴②：日本語の子音	同上
	4	日本語の音声の特徴③：音韻論	同上
	5	文字とは、日本語の文字	同上
	6	かな文字と発音の変化(1)：上代	同上
	7	かな文字と発音の変化(2)：中古	同上
	8	かな文字と発音の変化(3)：中世～近世	テスト範囲の復習
9	中間試験	試験の振り返り	
10	漢字の歴史と分類、試験の解答解説	授業の復習、次回内容の確認(資料)	
11	漢字の構成、音読みと訓読み(1)	同上	
12	音読みと訓読み(2)	同上	
13	漢字をめぐる議論：近代の国語・国字論	同上	
14	当用漢字と常用漢字	同上	
15	仮名遣いと漢字の送り仮名	テスト範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、山口明穂他1997『日本語の歴史』東京大学出版会、今野真二2012『百年前の日本語』岩波新書、『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂、など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・登録者数が100人を超える場合、座席の指定を行います。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(3～4回)。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、小テスト20%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本語学の基本を理解し、知的好奇心を高めるための科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学入門	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。本科目は、本文化学科・日本文化コースの導入科目となります。ふだん何気なく無意識に使っている日本語ですが、その特徴について意識的に考えてみましょう。 言語学の基礎的事項を理解した後、日本語の語種や語構成、意味、また社会言語学に関することがらについて学びます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「言語」「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①言語の単位一文・語・形態素 ②日本語の語構成、語種 ③語の意味 ④日本語の位相、ウチナーヤマトゥグチ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	「言語」とは? 「日本語」とは?	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	文・語・形態素について(1)	同上
	4	文・語・形態素について(2)	同上
	5	語彙とは、語の構成(1)	同上
	6	語彙とは、語の構成(2)	同上
	7	語種と語感(1): 語種の出自とその特徴、和語と漢語	同上
	8	語種と語感(2): 外来語・混種語	テスト範囲の復習
9	中間試験	次回内容の確認(資料)	
10	語の意味(1): 「意味」とは、試験の解答解説	授業の復習、次回内容の確認(資料)	
11	語の意味(2): 意味の拡張、意味の分析	同上	
12	語の位相(1): 集団語・役割語、世代差とことば	同上	
13	語の位相(2): 性差とことば、場面とことば、地域差とことば	同上	
14	語の位相(3): 琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ①	同上	
15	語の位相(4): 琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ②	テスト範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編/中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、宮地裕他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・登録者数が100人を超える場合【座席の指定】を行います。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(3~4回)。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、小テスト20%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。 関連科目: 「日本語学概論」
-------	--

科目基本情報	科目名 日本語表現法演習 I	期別 前期	曜日・時限 木 4	単位 2
	担当者 -佐渡山 美智子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ freenet.school@gmail.com	

学びの準備	ねらい 音声表現（話し言葉）を中心に、基本である日本語の発声・発音・滑舌トレーニングを「はじめ、「伝えるための方法」を学び実践します。グループワークを通して、お互いを認め合い、チームとして取り組むプログラムの中からコミュニケーションの意味を考え、「繋がる」ことから「伝達」「表現」の理解を深めるプログラムです。	メッセージ 日本文化学科で学ぶことの基礎として、声を磨くことから始めませんか。発声トレーニングの「外郎売り」は、グループで合格をめざす中で個々のスキルを高めながら、コミュニケーションによって力を合わせることを知り、言葉への意識を高めていきます。後期のプロジェクト演習「鬼慶良間」を受講するためには必須科目です。
	到達目標 ●姿勢を整え、腹式で声を響かせることができること。●「外郎売り」の暗唱ができ、はっきりと発音することができる。●グループで協力しながら、目標を達成することができる。●話をよく聞き、質問することができる。●内容が伝わるように読むことができる。●朗読として内容を表現することができる。●積極的に活動することができる。●創作詩を書くことができる。●報告・連絡・相談ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	時間外学習の内容																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>○ガイダンス</td></tr> <tr><td>2</td><td>○発声・発音トレーニングの基本<姿勢・発声・発音など></td></tr> <tr><td>3</td><td>○自己紹介○「外郎売り」の音読</td></tr> <tr><td>4</td><td>○班員紹介プレゼンテーション</td></tr> <tr><td>5</td><td>○人物スケッチ<傾聴・情報の整理・選択・表現></td></tr> <tr><td>6</td><td>○人物スケッチ・他己紹介</td></tr> <tr><td>7</td><td>○詩の朗読<読み方のポイント・伝えたい言葉の表現方法></td></tr> <tr><td>8</td><td>○詩の朗読<発表></td></tr> <tr><td>9</td><td>○創作詩<グループリレー朗読>一提出</td></tr> <tr><td>10</td><td>○美術館の感想文から<抜粋で朗読グループリレー></td></tr> <tr><td>11</td><td>○群読の実践<言葉に想いをあわせて></td></tr> <tr><td>12</td><td>○創作詩集から共感ランキングの発表<朗読・実践></td></tr> <tr><td>13</td><td>○創作民話劇「鬼慶良間」<役割とその内容について></td></tr> <tr><td>14</td><td>○「鬼慶良間」キャストオーディション</td></tr> <tr><td>15</td><td>○「鬼慶良間」キャスト発表・スタッフ役割決定</td></tr> <tr><td>16</td><td>○総括</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	1	○ガイダンス	2	○発声・発音トレーニングの基本<姿勢・発声・発音など>	3	○自己紹介○「外郎売り」の音読	4	○班員紹介プレゼンテーション	5	○人物スケッチ<傾聴・情報の整理・選択・表現>	6	○人物スケッチ・他己紹介	7	○詩の朗読<読み方のポイント・伝えたい言葉の表現方法>	8	○詩の朗読<発表>	9	○創作詩<グループリレー朗読>一提出	10	○美術館の感想文から<抜粋で朗読グループリレー>	11	○群読の実践<言葉に想いをあわせて>	12	○創作詩集から共感ランキングの発表<朗読・実践>	13	○創作民話劇「鬼慶良間」<役割とその内容について>	14	○「鬼慶良間」キャストオーディション	15	○「鬼慶良間」キャスト発表・スタッフ役割決定	16	○総括	個人プロフィールの作成 自己紹介の準備 班員紹介の準備・ミーティング 好きな詩を選んでくる 人物スケッチ・まとめ 感想・詩を選んでくる 詩の読み方を練習する 美術鑑賞感想文の提出準備 編集委員会を中心に詩集製作 詩集を読んで共感の評価 外郎売りのテストの準備 外郎売りのテストの準備 鬼慶良間の役割希望の選択 外郎売りのテストの準備 ノート・レポートのまとめ
	回	テーマ																																		
1	○ガイダンス																																			
2	○発声・発音トレーニングの基本<姿勢・発声・発音など>																																			
3	○自己紹介○「外郎売り」の音読																																			
4	○班員紹介プレゼンテーション																																			
5	○人物スケッチ<傾聴・情報の整理・選択・表現>																																			
6	○人物スケッチ・他己紹介																																			
7	○詩の朗読<読み方のポイント・伝えたい言葉の表現方法>																																			
8	○詩の朗読<発表>																																			
9	○創作詩<グループリレー朗読>一提出																																			
10	○美術館の感想文から<抜粋で朗読グループリレー>																																			
11	○群読の実践<言葉に想いをあわせて>																																			
12	○創作詩集から共感ランキングの発表<朗読・実践>																																			
13	○創作民話劇「鬼慶良間」<役割とその内容について>																																			
14	○「鬼慶良間」キャストオーディション																																			
15	○「鬼慶良間」キャスト発表・スタッフ役割決定																																			
16	○総括																																			
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な資料はプリントで配布致します。																																				
学びの手立て 履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点になります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡すること。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●提出物や宿題は、必ず期日を守り提出、準備を行ってください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが効果的な活動へと繋がります。●「外郎売り」の暗唱テストは、10名のグループごとのテストです。メンバーの意思疎通ができています。お互いが助け合える環境を整えることが大切です。●講義の内容などをノートに記録してください。提出をもとめることがあります。																																				
評価 ●出席率 ●提出物 ●活動実績・活動状況 ●「外郎売り」暗唱・発声テスト																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期のプロジェクト演習、創作民話劇「鬼慶良間」と連動しています。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年	freenet.school@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語表現法演習Ⅱでは、1年から学んできた「表現」を継続する位置づけで、まず、発声・発音の基本から「読む力」から取り組みます。聞き取りやすく、内容の伝わる読み方の要点をおさえ実践します。後半では、論理的な思考と表現方法、話の本質を理解し自らの意見や意思を伝えることを目的にディスカッション・ディベートを行い、プレゼンテーションで情報を共有していきます。	1年で取り組んだ「外郎売り」「鬼慶良間」は、個々の努力とお互いの協力で豊かな学びの機会をなりました。そのことをベースとして、声にだして読むための方法を学んでいきます。そして、グループワークでは、多角的な物事のとらえ方、多様な価値観、情報の収集・整理・選択・表現を目的にディスカッションとディベートを行います。
到達目標	達成目標 ●姿勢を整え、聞き取りやすい声の響きで発音することができる。●滑舌よく、はっきりとした言葉で発音することができる。●内容がよく伝わる読み方ができる。●朗読で聞く人の心に響かせることができる。●現状を把握するための情報を収集できる。●情報の内容の裏付け、信憑性をはかることができる。●目的を明確に要点を押さえることができる。●言葉の足し算・引き算で調整することができる。●相手に身になって考えることができる。●相手にあわせて、効果的に表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	受講の目的などプロフィール作成
	2	発声・発音トレーニング<姿勢・声の響き・滑舌など>	発声・発音練習。原稿の音読練習。
	3	作品を読む<明瞭な発音・抑揚・アクセント・間の取り方など>	作品の解釈と読み込み。
	4	作品を読む<声の使い方や表情・聞き手にあわせた読み方など>	2分で読む作品の朗読。発表準備。
	5	朗読<披露・感想・意見交換>	朗読についてのレポート
	6	ディベートとは<ソフトディベートについて。その目的と内容>	ディベートテーマの提案・準備
	7	ディベートテーマの提案・プレゼンテーションとテーマの決定	情報の収集・整理
	8	ディベートマップの作成<多角的視点・論理構成・ストーリー>	ファイルの整理・発言リハーサル
	9	ディベートマッチ<実践>=物事の本質を観る論理的な話し方	ディスカッションテーマの提案
	10	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	11	ディスカッションを効果的に進めるために<目的と論点>	コメントの作成と考え方の整理
	12	ディスカッション<実践>	内容の整理・報告の準備
	13	報告プレゼンテーションのポイントについて	グループで報告内容の準備
14	報告プレゼンテーション<実践>	振り返りレポート	
15	総括<朗読・ディベート・ディスカッション・プレゼンテーション>	ノートの提出	
16	まとめのレポート (それぞれのPDCAマネジメントサイクルへ)		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は必ず連絡をすること。欠席届は、翌週までに提出を基本とします。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●講義内容の要点を記録し、ノートを作成してください。傾聴が基本です。●グループワークを中心に活動します。報告・連絡・相談を行い、メンバーに迷惑のかからないように心がけてください。		
	評価		
	●出席率 ●提出物 ●宿題・課題などの事前準備 ●活動内容と実績		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	聞き取りやすく、聞き手にわかりやすく効果的に話す力は、今後、あらゆる場面で活かされるコミュニケーションのスキルです。よりよい表現の方法を求めて、勇気をもって実践することが必要です。

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 日本古典文学や漢文を読解し理解するために、古典文法や漢文の句形などを学び直します。</p> <p>(2) 上記の知識を活用して、古文や漢文の読解力を養います。</p>	<p>日本文化学科において日本の古典文学や漢文を読むことは、国語科教師を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養のひとつとして必要不可欠だと考えます。授業は概ね、教員による解説→問題演習→解答→質疑応答という形を取る予定です。</p>
到達目標	<p>(1) 日本の古典文法や漢文の句形に関する基本的知識を身につける。</p> <p>(2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解に生かすことができる。</p> <p>(3) 将来国語科教師を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと古典文法入門	
	2	動詞(1) 四段・上二段・下二段活用	テキストの当該ページを読む。
	3	動詞(2) 上二段・下一段活用	同上
	4	動詞(3) カ・サ・ナ・ラ変格活用	同上
	5	形容詞	同上
	6	形容動詞	同上
	7	1～6までの確認テストとファイルの確認	プリントを整理する。
	8	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	テキストの当該ページを読む。
	9	敬語表現法・和歌の修辞法	同上
	10	助動詞(1) 助動詞の働きと分類	同上
	11	助動詞(2) 時の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	12	助動詞(3) 推量の助動詞	同上
	13	助動詞(4) 推量の助動詞	同上
14	漢文(1) 漢文を学ぶ意義・熟語の構造・漢文の基本構造・訓読の仕方	同上	
15	漢文(2) 書き下し文の作り方・置き字・再読文字・返読文字	同上	
16	漢文(3) 14～16までの確認テストとファイルの確認	プリントを整理する。	
テキスト・参考文献・資料など			
<p>(1) テキスト ①『楽しく学べる 基礎からの古典文法』 第一学習社 (524円+税)</p> <p>②『新 明説漢文ノート』 尚文出版 (457円+税)</p> <p>(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典など。</p>			
学びの手立て			
<p>(1) テキストを必ず持参すること。</p> <p>(2) 授業で配布されるプリントや資料は適切にファイリングすること。</p> <p>(3) 文法の学習は積み重ねが大切なので欠席しないこと。</p>			
評価			
古典文法分野と漢文分野の試験70%、ファイル等の提出20%、授業態度10%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1) 適宜、中・高の教科書レベルの古文や漢文の訳出練習を取り入れます。</p> <p>(2) 後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修します。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 日本古典文学や漢文を読解し理解するために、古典文法や漢文の句形などを学び直します。</p> <p>(2) 上記の知識を活用して、古文や漢文の読解力を養います。</p>	<p>日本文化学科において日本の古典文学や漢文を読むことは、国語科教師を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養のひとつとして必要不可欠だと考えます。授業は概ね、教員による解説→問題演習→解答→質疑応答という形を取る予定です。</p>
到達目標	<p>(1) 日本の古典文法や漢文の句形に関する基本的知識を身につける。</p> <p>(2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解に生かすことができる。</p> <p>(3) 将来国語科教師を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと古典文法入門	
	2	動詞(1) 四段・上二段・下二段活用	テキストの当該ページを読む。
	3	動詞(2) 上二段・下一段活用	同上
	4	動詞(3) カ・サ・ナ・ラ変格活用	同上
	5	形容詞	同上
	6	形容動詞	同上
	7	1～6までの確認テストとファイルの確認	プリントを整理する。
	8	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	テキストの当該ページを読む。
	9	敬語表現法・和歌の修辞法	同上
	10	助動詞(1) 助動詞の働きと分類	同上
	11	助動詞(2) 時の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	12	助動詞(3) 推量の助動詞	同上
	13	助動詞(4) 推量の助動詞	同上
14	漢文(1) 漢文を学ぶ意義・熟語の構造・漢文の基本構造・訓読の仕方	同上	
15	漢文(2) 書き下し文の作り方・置き字・再読文字・返読文字	同上	
16	漢文(3) 14～16までの確認テストとファイルの確認	プリントを整理する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>(1) テキスト ①『楽しく学べる 基礎からの古典文法』 第一学習社 (524円+税)</p> <p>②『新 明説漢文ノート』 尚文出版 (457円+税)</p> <p>(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典など。</p>		
学びの手立て	<p>(1) テキストを必ず持参すること。</p> <p>(2) 授業で配布されるプリントや資料は適切にファイリングすること。</p> <p>(3) 文法の学習は積み重ねが大切なので欠席しないこと。</p>		
評価	古典文法分野と漢文分野の試験70%、ファイル等の提出20%、授業態度10%で評価します。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 適宜、中・高の教科書レベルの古文や漢文の訳出練習を取り入れます。</p> <p>(2) 後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修します。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 日本古典文学や漢文を読解し理解するために、古典文法や漢文の句形などを学び直します。</p> <p>(2) 上記の知識を活用して、古文や漢文の読解力を養います。</p>	<p>日本文化学科において日本の古典文学や漢文を読むことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養のひとつとして必要不可欠だと考えます。授業は概ね、教員による解説→問題演習→解答→質疑応答という形を取る予定です。</p>
到達目標	<p>(1) 日本の古典文法や漢文の句形に関する基本的知識を身につける。</p> <p>(2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解に生かすことができる。</p> <p>(3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと前期学習の復習など	前期の学習内容を復習しておく。
	2	助動詞(1) 打消の助動詞 打消推量の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	3	助動詞(2) 断定の助動詞 自発・可能・受身・尊敬の助動詞	同上
	4	助動詞(3) 使役・尊敬の助動詞 願望の助動詞 比況の助動詞	同上
	5	2～3までの確認テスト	プリントを整理する。
	6	助詞(1) 格助詞	テキストの当該ページを読む。
	7	助詞(2) 接続助詞	同上
	8	助詞(3) 副助詞 係助詞	同上
	9	助詞(4) 終助詞 間投助詞	同上
	10	漢文(1) 否定形	同上
	11	漢文(2) 疑問形 反語形	同上
	12	漢文(3) 詠嘆形 願望形	同上
	13	漢文(4) 受身形 使役形	同上
14	漢文(5) 仮定形 限定形・累加形	同上	
15	漢文(6) 比較形・比況形 選択形 抑揚形	同上	
16	10～15までの確認テスト	プリントを整理する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>(1) テキスト ①『楽しく学べる 基礎からの古典文法』 第一学習社 (524円+税)</p> <p>②『新 明説漢文ノート』 尚文出版 (457円+税)</p> <p>(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典など。</p>		
学びの手立て	<p>(1) テキストを必ず持参すること。</p> <p>(2) 授業で配布されるプリントや資料は適切にファイリングすること。</p> <p>(3) 文法の学習は積み重ねが大切なので欠席しないこと。</p>		
評価	<p>古典文法分野と漢文分野の試験70%、ファイル等の提出20%、授業態度10%で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 適宜、中・高の教科書レベルの古文や漢文の訳出練習を取り入れます。</p> <p>(2) 前期の「日本語文法基礎Ⅰ」からの継続履修です。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 日本古典文学や漢文を読解し理解するために、古典文法や漢文の句形などを学び直します。</p> <p>(2) 上記の知識を活用して、古文や漢文の読解力を養います。</p>	<p>日本文化学科において日本の古典文学や漢文を読むことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養のひとつとして必要不可欠だと考えます。授業は概ね、教員による解説→問題演習→解答→質疑応答という形を取る予定です。</p>
到達目標	<p>(1) 日本の古典文法や漢文の句形に関する基本的知識を身につける。</p> <p>(2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解に生かすことができる。</p> <p>(3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと前期学習の復習など	前期の学習内容を復習しておく。
	2	助動詞(1) 打消の助動詞 打消推量の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	3	助動詞(2) 断定の助動詞 自発・可能・受身・尊敬の助動詞	同上
	4	助動詞(3) 使役・尊敬の助動詞 願望の助動詞 比況の助動詞	同上
	5	2～3までの確認テスト	プリントを整理する。
	6	助詞(1) 格助詞	テキストの当該ページを読む。
	7	助詞(2) 接続助詞	同上
	8	助詞(3) 副助詞 係助詞	同上
	9	助詞(4) 終助詞 間投助詞	同上
	10	漢文(1) 否定形	同上
	11	漢文(2) 疑問形 反語形	同上
	12	漢文(3) 詠嘆形 願望形	同上
	13	漢文(4) 受身形 使役形	同上
14	漢文(5) 仮定形 限定形・累加形	同上	
15	漢文(6) 比較形・比況形 選択形 抑揚形	同上	
16	10～15までの確認テスト	プリントを整理する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>(1) テキスト ①『楽しく学べる 基礎からの古典文法』 第一学習社 (524円+税)</p> <p>②『新 明説漢文ノート』 尚文出版 (457円+税)</p> <p>(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典など。</p>		
学びの手立て	<p>(1) テキストを必ず持参すること。</p> <p>(2) 授業で配布されるプリントや資料は適切にファイリングすること。</p> <p>(3) 文法の学習は積み重ねが大切なので欠席しないこと。</p>		
評価	古典文法分野と漢文分野の試験70%、ファイル等の提出20%、授業態度10%で評価します。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 適宜、中・高の教科書レベルの古文や漢文の訳出練習を取り入れます。</p> <p>(2) 前期の「日本語文法基礎Ⅰ」からの継続履修です。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、俗に「学校文法」と呼ばれる日本語文法の考え方の1つをとりあげます。学校教育で学んできた「文法」を見直し、そこに含まれる問題点について議論していきましょう。	文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからなのです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語文法の発展の歴史を理解し、適切に説明することができる。 いわゆる「学校文法」の概要と問題点を理解し、適切に説明することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	文法とは、日本語文法研究史①：中世～近代	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語文法研究史②：「四大文法」	同上
	4	日本語文法研究史③：「四代文法」以後	授業の復習、予習：text p.16-18
	5	学校文法とは、ことばの単位：「文節」批判①	授業の復習、予習：text p.19-33
	6	文の種類、単語の働き：「文節」批判②	授業の復習、予習：text p.38-45
	7	単語の種類(品詞分類)	授業の復習、予習：text p.96-110
	8	動詞①：活用形	授業の復習、予習：text p.110-113
	9	動詞②：自動詞と他動詞、可能動詞	授業の復習、予習：text p.153-191
	10	動詞③：「助動詞」批判	授業の復習、予習：text p.126-134
	11	形容詞①：活用形とその変遷	授業の復習、予習：text p.135-139
	12	形容詞②：ナ形容詞	授業の復習、予習：text p.214-220
	13	助詞①：「格助詞」批判	授業の復習、予習：text p.214-215
	14	助詞②：連体の「の」	授業の復習、予習：text p.206,229
15	助詞③：副助詞—主語の「は」と「が」	講義内容全体の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用するテキスト：田近洵一2012『くわしい国文法 中学1～3年[新学習指導要領対応]』文英堂 参考文献 高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房、山田敏弘2004『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、山田敏弘2015『日本語文法練習帳』くろしお出版、大野晋1978『日本語の文法を考える』岩波書店、高山善行・青木博史編2010『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、など。
-------	---

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。 予告なしに小テストを行うことがあります(2～3回) <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> いわゆる国語の「文法」が苦手だった人は予習して講義にのぞみましょう(「時間外学習の内容」を参考)。
--------	---

評価	<p>期末試験50%、リアクションペーパー20%、平常点20%、小テスト10%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>異なる観点からの日本語文法について学びたい人へ 関連科目「日本語文法論Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、日本語教育の観点から日本語の文法を捉えていきます。グループワークなどを通し、日本語教育の現場で生きる「自分で考える」力を身に付けていきましょう。	文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからなのです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語文法論の基本を理解し、主要な術語やカテゴリーの概要を適切に説明することができる。 日本語文法の主要なカテゴリーのシステムを理解し、それに関わる言語事象（語や文）について説明することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、日本語文の構造(1)：基本文型	授業の復習、予習：text p.7-14
	2	日本語文の構造(2)：格助詞	授業の復習、予習：text p.15-25
	3	主題化(1)：格成分の主題化、格成分以外の主題化	授業の復習、予習：text p.26-28
	4	主題化(2)：「～は～が～」構文	授業の復習、予習：text p.29-32
	5	自動詞と他動詞(1)：自他の区別	授業の復習、予習：text p.33-41
	6	自動詞と他動詞(2)：自他の対応による分類	授業の復習、予習：text p.43-49
	7	ヴォイス(1)：受身文	授業の復習、予習：text p.50-59
8	ヴォイス(2)：使役文とその他のヴォイス	授業の復習、予習：text p.60-62	
9	ヴォイス(3)：「さ入れ言葉」と「ら抜き言葉」	授業の復習、予習：text p.63-71	
10	テンス(1)：絶対テンスと相対テンス	授業の復習、予習：text p.72-78	
11	テンス(2)：テンス以外のタ形	授業の復習、予習：text p.79-81	
12	テンス(3)：内的状態動詞	授業の復習、予習：text p.83-90	
13	アスペクト(1)：「～ている」と「～である」	授業の復習、予習：text p.91-94	
14	アスペクト(2)：金田一の動詞分類	授業の復習、予習：text p.95-97	
15	アスペクト(3)：日本語動詞の形態論	講義内容全体の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> 使用テキスト：原沢伊都夫(2010)『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の分布』スリーエーネットワーク 参考文献 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版、高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房、山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、野田尚史(2001)『はじめての人の日本語文法』など。 		
	学びの手立て		
	履修の心構え <ul style="list-style-type: none"> 出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。 予告なしに小テストを行うことがあります(5～6回) 学びを深めるために <ul style="list-style-type: none"> いわゆる国語の「文法」が苦手だった人は予習して講義にのぞみましょう(「時間外学習の内容」を参考)。 		
	評価		
	期末試験50%、リアクションペーパー20%、小テスト(確認クイズ)15%、平常点15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 日本語文法に関する専門的な知識を深め、外国語と対照する。 日本語学習者の「誤用」について、それが生じる理由を文法的に説明する。

※ポリシーとの関連性

日本や琉球・沖縄の美術を学ぶことを通して、国際社会や地域社会で活躍するために必要な思考力、知性、感性、創造性を育てます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の美術	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 美奈子	2年	375mnko@gmail.com 授業終了後に教室でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の美術は古くから外来文化を巧みに吸収しながら独自の表現や様式を創出してきました。本講義では近世から近・現代までの日本美術の歴史と特徴について、各時代の代表的な作家や作品を取り上げて解説します。日本美術の技法や感性が現代アートやポップカルチャーにどのように受け継がれているのか、また琉球絵画や近・現代沖縄美術との関係性について学びます。</p>	<p>グローバル化が加速する現代社会を生きる上で、自分が拠って立つところの日本や琉球・沖縄の美術についての知識を持つことは大切です。これから国際社会や地域社会における様々な場で、多様な国籍を持つ人々や文化に出会うことでしょう。多文化理解の一步は自らの足元にある文化・芸術を知ることから始まります。博物館や美術館学芸員を目指す人にも勧めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の美術の歴史と各時代の特徴を理解する。 琉球・沖縄の美術の歴史と各時代の特徴を理解する。 現代の美術にも古典の要素が取り込まれていることを理解する。 好きな作家や作品について論じられるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本の美術概説	講義内容の復習
	2	江戸時代の美術1：寛永美術	講義内容の復習
	3	江戸時代の美術2：元禄美術	講義内容の復習
	4	江戸時代の美術3：享保～化政美術	講義内容の復習
	5	近現代の美術1：近代美術の幕開け	講義内容の復習
	6	近現代の美術2：洋画	講義内容の復習
	7	近現代の美術3：日本画	講義内容の復習
	8	近現代の美術4：大正期の美術	講義内容の復習
9	近現代の美術5：昭和初期の傾向～戦争美術	講義内容の復習	
10	近現代の美術6：戦後の美術	講義内容の復習	
11	近現代の美術7：日本美術の現在	講義内容の復習	
12	沖縄の美術1：琉球絵画	講義内容の復習	
13	沖縄の美術2：近代の沖縄美術	講義内容の復習	
14	沖縄の美術3：戦後の沖縄美術	講義内容の復習	
15	沖縄の美術4：沖縄美術の現在	講義内容の復習	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜プリントを配布します。教科書は使用しませんが日本美術史の参考文献としては、辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会・2005年・3,024円）があります。その他の関係図書は授業中に随時教示します。</p>		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 出席の確認は毎回行います。私語や途中退席などは慎んで下さい。 レポート（課題）を1～2回程度予定しています。 授業で配布した資料は保管し、毎回持参すること。 積極的に博物館や美術館に足を運び美術鑑賞を行きましょう。 授業中に気になった作家や作品があったら図書館に足を運び、美術全集や作品集をこまめに見るようにすると良いと思います（たとえ1点であっても自分の問題意識とつながって記憶に残るものです）。 		
評価	<p>出席時数が3分の2に満たない者は不可とします。 レポート・授業参加度で総合的に評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本と琉球・沖縄の美術について学んだことは、国内外問わずさまざまな芸術鑑賞の機会や多文化理解に役立つと考えます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 日本文化特別講義 I	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 -山口 眞琴	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	

学びの準備	ねらい 日本の説話文学の流れを概観した上で、古代最初の説話集『日本霊異記』、平安時代後期に編まれた最大の説話集『今昔物語集』、鎌倉時代前期に成立した説話集『発心集』『宇治拾遺物語』を取り上げ、それぞれの思想・構造・表現などの具体的な特徴を観察することにより、現代にも引き継がれる「説話」の営みに関する問題意識を涵養する。	メッセージ 説話文学はよく平明・素朴であると評されるが、実際はかなり奥行きがあって知的刺激に充ちてもいる。その親しみやすく、しかも味わい深い表現世界についての読解を通して、古代中世の人々の生活感覚やものの考え方、政治・宗教・文化などの社会史の実態等への理解を深めつつ、我々が「説話」を読んだり学んだりすることの面白さや意義について考えてほしい。
	到達目標 説話文学の始発としての『日本霊異記』については、説話とは何かという本質を把握し、説話の形成要因等を窺い知ることができる。次の『今昔物語集』では、当時の世界観・価値観の具体を学ぶことができる一方、説話に内在する読むこと・編むこと・書くことなどの言語行為の関係を理解することができる。中世の『発心集』に関しては、遁世思想の方法論的探究のありよう、仏道修行の方便としての数奇の位置づけを確認することができる。その悲恋往生説話では、説話学的なメタ認識による語りの実際を了知することができる。最後の『宇治拾遺物語』においては、集の連纂や説話の多義性に基づく自在な連想と表現の実態、それと読者参入による読むこととの関係などについて、理解を深めることができる。以上のような実践的学修を通して、読解力・構成力等のレベルアップを目指したい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに：講義の概要、古典文学を学ぶ意義	自らの古文学習観を整理する
	2	説話文学史のあらまし：古代から中世までの説話集の展開と諸相	説話文学史への理解を深める
	3	『日本霊異記』成立前史：縁起、唱導、話型	説話とはどういう行為であるか問う
	4	『日本霊異記』の表現と思想：説話の真実味と興味、仏教的位置づけ	説話の形成過程について考える
	5	『今昔物語集』の形成と構造：世界文学の構想、三国の仏法史・国家史	平安時代の世界観・価値観を探る
	6	『今昔物語集』の編纂と表現：説話と話末評語、読むことから書くことへ	説話内部の言語行為について考える
	7	『今昔物語集』「藁しべ長者」説話：民間伝承・類同説話との比較分析	類同話を比較することの意義を知る
	8	『発心集』の遁世＝隠徳論：世捨て聖のラディカリズム	隠徳を語ることの意味を思考する
	9	『発心集』の数奇＝仏道論：方便としての芸能・和歌、西行修行説話	文学と宗教の問題について考える
	10	『発心集』悲恋往生説話の謎：女はどうして往生できたのか？	説話学的なメタ認識の実際を窺う
	11	『宇治拾遺物語』の成立：祖としての『宇治大納言物語』を物語る序	説話を語る原風景について考える
	12	『宇治拾遺物語』の連想と表現(1)：巻頭「道命・和泉式部」説話の可能性	集冒頭の重要性について類例を探る
	13	『宇治拾遺物語』の連想と表現(2)：「和泉式部母娘」説話の展開	説話の連串的な読解を試みる
	14	『宇治拾遺物語』の連想と表現(3)：「瘤取り爺」の正体	全体・細部双方に亘る読みを目指す
	15	『宇治拾遺物語』の連想と表現(4)：「龍門聖」説話と前後関係	説話の多面性・多義性を体感する
16	おわりに：まとめとおさらい	説話文学の豊かな可能性を了知する	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、資料プリントを配付する。参考文献については、必要に応じて授業中に紹介する。
----	---

学びの手立て	履修の心構え 何回か小課題を出して講義を進めるので、主体的・積極的に参加してほしい。そのほか、質問や意見があれば、遠慮なく発言してほしい。 学びを深めるために できるだけ受講前後の予習・復習を心掛けてほしい。
--------	---

評価	平常点40%＝受講態度・取組姿勢（講義者の問いかけに対する応答や積極的な発言などを考慮） 小課題30%＝講義中の小課題 筆記試験30%＝筆記試験として実施する追加課題
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学を読むⅠ」「日本文学を読むⅡ」
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化特別講義Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松本 修	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈文学〉の根拠とは何か、読者論を中心に考えていく。さらに文学教育における読者論の適用と課題について学び、文学教育の「読みの交流」活動の元になる理論と言語活動を支える原理を修得する。深い学びが可能となるよう、学習デザインを作成できる力をつけることを目的とする。</p>	<p>日本文化学科の2年次以上を対象とした科目である。文学教育において、読者論やナラトロジーがどのように適用されているのか、教材研究のあり方や、読みの交流活動の組み方などを学び、深い読みや深い学びを実現する。</p>
到達目標	<p>本授業を通して、①読者論が国語科教育にどのように適用されているのか知る。 ②言語活動のあり方やデザインについて、自分の考えを持つことができる。 ③読者論の考えを、教材研究や、指導案作成に活かす事ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	読者論とは	参考資料を読んでおく
	2	読者論とナラトロジー	
	3	ナラトロジーの導入	
	4	ナラトロジーの導入における問題点	レポート課題（第1～第4次）
	5	語りの分析	
	6	語りの分析（演習）	
	7	言語活動とは	
8	言語活動と読みの交流	語りの分析課題（第5次～8次）	
9	言語活動の学習デザイン		
10	深い学びと言語活動		
11	読者論的視点と深い学び		
12	深い学びを可能にする学習デザインの可能性	レポート課題（第9～12次）	
13	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）1		
14	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）2		
15	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）3		
16	総括：レポート作成		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・オリジナル資料 参考文献・・・1. 全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望』、明治図書、2002. 6、pp. 479-486、本体5,460円＋税 2. 全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』、学芸図書、2013. 3、pp. 483-490、本体5,000円＋税 3. 松本修、『読みの交流と言語活動』、玉川大学出版部、2015. 12、本体2,500円＋税</p>		
学びの手立て	<p>①「求められる態度」・・・事前に、参考文献1.2.を読んで臨むこと。3分の1以上の欠席で、単位は不可となる。遅刻厳禁。「再確認しておく知識」・・・読者論・ナラトロジー・語り手・読みの交流・言語活動・深い学び ②重要語句の確認・整理をする 知識の整理を行う。 感想（自分の考え）と疑問点をまとめる。</p>		
評価	<p>①レポート70%・平常点（出席・発言など）30% ②課題レポートの内容を評価する ③欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1) 【関連科目】日本文学特講Ⅰ（3年次前期）【上位科目】日本文学特講Ⅱ（3年次後期） (2) 日本文学特講Ⅱで、文学教材の語りの分析と学習デザインを考える事ができるようになる。国語科教育法演習Ⅰにおいて、文学の教材研究・指導案作成に役立てる。</p>

※ポリシーとの関連性

本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。映像資料を活用する予定である。	メッセージ 日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。
	到達目標 日本文化の多様性を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化の概観	テキストの予習
	2	絵巻と日本文化1・鳥獣戯画	プリントによる学習
	3	絵巻と日本文化2・源氏物語絵巻	テキストによる学習・p54
	4	絵巻と日本文化3・信貴山縁起絵巻	プリントによる学習
	5	絵巻と日本文化4・伴大納言絵巻、北野天神縁起	テキストによる学習・p78
	6	レポートの書き方・その1	レポートの作成
	7	演劇と日本文化1・能	テキストによる学習・p176
	8	演劇と日本文化2・狂言	テキストによる学習・p178
	9	演劇と日本文化3・浄瑠璃	テキストによる学習・p242
	10	演劇と日本文化4・歌舞伎	テキストによる学習・p247
	11	演劇と日本文化5・現代演劇	プリントによる学習
	12	レポートの書き方・その2	レポートの作成
	13	映画と日本文化1・映画のスタイル	プリントによる学習
	14	映画と日本文化2・映画の歴史	プリントによる学習
15	映画と日本文化3・現代映画の展開	プリントによる学習	
16	まとめ	テキストの復習	
	テキスト・参考文献・資料など 秋山虔『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 『日本の絵巻』（中央公論社）、『新日本古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『現代日本戯曲大系』（三一書房）、『日本映画史』（岩波書店）などのシリーズを活用するとよい。		
	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート2回X30、提出物4回X10の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文化論Ⅱ」では外国人による日本文化論を紹介する。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は日本文化に関する様々な名著を読み解きながら、日本文化について考えるものである。	メッセージ 日本文化論を書いた著者の人生と、その時代についても考えてほしい。
	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化論の概観	テキストの予習
	2	小泉八雲の日本文化論1・雪女	テキストの復習と予習
	3	小泉八雲の日本文化論2・怪談	テキストの復習と予習
	4	小泉八雲の日本文化論3・日本人の微笑	テキストの復習と予習
	5	小泉八雲の日本文化論4・伝統と近代	テキストの復習と予習
	6	ルース・ベネディクト「菊と刀」を読む1・義理と人情	プリントによる学習
	7	「菊と刀」を読む2・忠臣蔵について	プリントによる学習
	8	外国人の見た日本文化	プリントによる学習
9	新渡戸稲造「武士道」を読む	プリントによる学習	
10	岡倉天心「茶の本」を読む	プリントによる学習	
11	内村鑑三「代表的日本人」を読む	プリントによる学習	
12	九鬼周造「いきの構造」を読む	プリントによる学習	
13	和辻哲郎「風土」を読む	プリントによる学習	
14	柳田國男「遠野物語」を読む	プリントによる学習	
15	レポートの書き方について	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの作成	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 小泉八雲『小泉八雲集』新潮文庫		
学びの実践	学びの手立て 日本文化論の名著は、数多く岩波文庫に収められている。		
学びの実践	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60、提出物4回X10を配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジー、アジア太平洋文化論、比較文化論などで視野を広げてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の方法を学び、日本文学の特質について理解する。	メッセージ 好きな作品の一つ見つけてください。そうすると、そこから広げて様々な作品につなげることができるはずである。
	到達目標 文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文学と映画	テキスト学習
	2	文学と演劇	テキスト学習
	3	文学研究の方法論	テキスト学習
	4	書誌学、文献学的研究	テキスト学習
	5	作家論	テキスト学習
	6	作品論	テキスト学習
	7	テキスト論、読者論	テキスト学習
	8	思想史的研究	プリントによる学習
	9	イメージ論、都市論、記号論	プリントによる学習
	10	社会学的研究、歴史学的研究	プリントによる学習
	11	民俗学的研究	プリントによる学習
	12	心理学的研究	プリントによる学習
	13	比較文学的研究	プリントによる学習
	14	児童文学研究	プリントによる学習
15	大衆文学、推理小説研究	レポート作成	
16	まとめ・日本文学の特質	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』新潮文庫		
	学びの手立て 注釈付きの近代文学大系（角川書店）を利用するとよい。		
	評価 レポートと提出物で評価する。レポート60、提出物2回X20の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学を読む」Ⅰ・Ⅱで個別の作品を精読することができる。「現代文学理論」Ⅰ・Ⅱで理論に関して詳しく学ぶことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学特講Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 文学的文章における「読みの交流」の理論的モデルを学ぶと共に、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている文学的文章教材を取り上げ、読みの交流を促す学習課題について具体的に考察する。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」としての「読みの交流」と、授業実践例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。「読みの交流」学習の基本理論を身に付け、実践に活かせるようにしてほしい。
	到達目標 ナラトロジーの考えを知り、実際に文学作品の語りの分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・文学教育をめぐる状況	文学教育の目的を考える
	2	文学教育の目標	予習・用語を調べる
	3	読みの段階と深まり	予習・用語を調べる
	4	視点論	予習・用語を調べる
	5	視点論・作品の視点分析	視点分析
	6	語りの分析（描出表現）	描出表現についてまとめる
	7	語りの分析（再帰的用法・非再帰的用法）・「虹の見える橋」	再帰的用法についてまとめる
	8	読みの交流の成立・学習課題	これまでの復習
9	「少年の日の思い出」語りの構造・学習課題と読みの実際	予習・用語を調べる	
10	「握手」一人称語りを考える	語りの分析	
11	中高教材の、語りの分析（描出表現）	語りの分析	
12	中高教材の、語りの分析（描出表現）	語りの分析レポート	
13	中高教材の、学習課題作り	学習課題作り	
14	中高教材の、学習課題の検討	学習課題の解答	
15	読みの交流の実践	読みの交流の感想を書く	
16	総括	問いと読みの交流の考察をまとめる	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 松本修、『文学の読みと交流のナラトロジー』，東洋館出版社，2006 【参考文献】 野村眞木夫、『日本語のテクストー関係・効果・様相ー』，ひつじ書房，2000		
	学びの手立て ①教職課程受講者を対象とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ⑤授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。		
	評価 課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】日本文学特講Ⅱ（3年次・後期） (2) 次のステージ 日本文学特講Ⅱでは、学習者の発話分析を行う。カリキュラムポリシー3の、学習者の学びを見取る視点や、深い学びを可能にする問いを作る力を養ってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学特講Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語のテキストについて学び、文章や談話の仕組みを知る。さらに、発話プロトコルの分析方法を学び、学習者の実態を検証する能力を身につける。実際に文学的文章教材における読みの交流を行い、交流の実態と学習課題について具体的に考察する。	中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」を見取るための談話分析の方法と、授業分析例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。学習者分析の基礎を身に付け、学習実態を把握する力を付けてほしい。
到達目標	談話分析の歴史と方法を知り、実際に発話分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・学習者分析の歴史①	予習・用語を調べる
	2	学習者分析の歴史②	予習・用語を調べる
	3	言語表現とテキスト研究（コミュニケーション・話題・関係性）	予習・用語を調べる
	4	読みの交流の成立と発話	予習・用語を調べる
	5	発話プロトコルの分析法	予習・用語を調べる
	6	質的三層分析	予習・用語を調べる
	7	発話プロトコルによる、授業分析	予習・用語を調べる
	8	発話プロトコルにみる、授業改善	問いの作成
	9	問い作り または、ビデオによる授業観察	問いの作成
	10	読みの交流 または、ビデオによる授業観察	交流の感想を書く
	11	発話分析①（パソコン室）	発話分析
	12	発話分析②（パソコン室）	発話分析
	13	発話分析③（パソコン室）	レポート作成
14	グループ発表・研究討議（課題分析）①	レポート作成	
15	グループ発表・研究討議（課題分析）②	レポート作成	
16	総括（発話分析をもとに授業改善策を考察する）	最終レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 レジュメを用意する。 野村真木夫、『日本語のテキスト－関係・効果・様相－』、ひつじ書房、2000 松本修編著、『読みの交流と言語活動－国語科学習デザインと実践－』玉川大学出版部、2015 【参考文献】 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一、『文章・談話のしくみ』、おうふう、2003		
	学びの手立て		
	①教職課程受講者を対象・必修とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ⑤授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。		
	評価		
	課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【関連・上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 学習者の発話から、学習実態をつかむ意識をもって模擬授業に臨んでほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「本文化学科カリキュラムポリシー「3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置します。」

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅠ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざします。日本中世社会への関心を深めながら、いくつかの文学理論に基づく読解を試みます。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる知識理解の習得、読解力の育成を目指します。	「生きるためには、古典なんかいらない？しかし、如何に生きるかと考え始めたときに、古典が必要になってくる」(奈良大学教授上野誠先生)という言葉は、実感をもって迫ってきます。講読をおして、いろいろの思考を楽しみましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	1 中世社会への関心を深め、身分、宗教、芸能文化への知識を身に付ける。 2 古文読解のための語彙、文法、表現等への理解力を身に付ける。 3 いくつかの文学理論に基づいた読解方法を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	1 道命、和泉式部の許に於いて読経し、五条の道祖神聴聞の事	なぜ道祖神が現れるかを考える
	3	2 丹波国篠山、平茸生ふる事	丹波篠山の地域性を考える
	4	3 鬼に瘤取らるる事(グループワーク1)	発表資料の作成
	5	4 鬼に瘤取らるる事(グループワーク2)	発表資料の作成
	6	5 鬼に瘤取らるる事(グループワーク3)	発表資料の作成
	7	中間考査	指定した話を事前に読む
	8	6 笑いと性愛1(源大納言雅俊、一生不犯の鐘打たせたる事)	指定した話を事前に読む
	9	7 笑いと性愛2(児の搔餅するに空寝したる事)	指定した話を事前に読む
	10	8 笑いと性愛3(平貞文、本院侍従の事)	指定した話を事前に読む
	11	9 狐と説話(狐、人に憑きてしとぎ食ふ事)	指定した話を事前に読む
	12	10 狸と説話(獵師、仏を射る事)	指定した話を事前に読む
	13	11 ことば遊びと説話(陪従家綱、行綱、互いに謀りたる事)	指定した話を事前に読む
14	12 観音信仰と説話(長谷寺参籠の男、利生にあづかる事)	指定した話を事前に読む	
15	13 夢と説話(夢買ふ人/ある唐人、女の羊に生れたると知らずして殺す事)	指定した話を事前に読む	
16	期末考査	考査の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：中島悦次校注『宇治拾遺物語』(角川ソフィア文庫)940円		
	学びの手立て		
	古典文法や古典の基礎を学ぶための学習支援を講義外で行っています。希望者は遠慮なく申し出てください。講義では辞典類をよく使います。必携してください。		
	評価		
	単純に(授業態度：30%+テスト：35%+レポート35%)を成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本文学を読むⅡ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅡ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は鴨長明『発心集』の講読を行い、語彙、文法、表現、歌枕等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。また、仏教説話の背景や寺社、地名、人名などへの理解を深め、中世社会と仏教について考えていく。	メッセージ 仏教説話に内包される中世の「心」の問題を考えていきましょう。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
	到達目標 1 仏教説話に関心を持ち、各話における発心の意味、その顛末を理解する。 2 他の説話集などの記述との比較によって、発心集の特徴を理解する。 3 中世社会と佛教との関係に関心を持ち、諸資料をもって適切に調査する方法を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（座席決め、講義の概要、評価方法、その他）	シラバスの確認
	2	『発心集』の概説①	配布資料の熟読
	3	『発心集』の概説②	配布資料の熟読
	4	玄敏僧都、遁世逐電の事	次時の資料の検討
	5	同人、伊賀の国郡司に仕はれ給ふ事	次時の資料の検討
	6	平等供奉、山を離れて異州に趣く事	次時の資料の検討
	7	千観内供、遁世籠居の事	次時の資料の検討
	8	多武峰僧賀上人、遁世往生の事	次時の資料の検討
	9	高野の南筑紫上人、出家登山の事	次時の資料の検討
	10	小原田教懐上人、水瓶を打ち破る事 付けたり 陽範阿闍梨、梅の木を切る事	次時の資料の検討
	11	佐国、花を愛し蝶となる事 付けたり 六波羅蜜寺幸仙、橘の木を愛する事	次時の資料の検討
	12	神楽岡清水台、仏種房の事	次時の資料の検討
	13	天王寺聖、隠徳の事 付けたり 乞食聖の事	次時の資料の検討
	14	高野の辺の上人、偽って妻女を儲くる事	次時の資料の検討
	15	美作守頭能の家に入り来たる僧の事	次時の資料の検討
	16	テスト	テストの振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 新版『発心集』上下（角川ソフィア文庫）		
	学びの手立て 学術雑誌に掲載された、『発心集』に関わる研究論文を読んでください。研究論文を読む力を養成することも、この授業の目標でもあります。その研究論文の中に出てきたわからないことを、しっかり調べる習慣を付けましょう。		
	評価 単純に（授業態度：30%＋テスト点35%＋レポート点35%）を成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『発心集』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本の古典文学を研究するゼミナールⅠ・Ⅱを選択する場合、どのような研究をしたいのか、しっかり考える必要があります。関心のある対象（古典テキスト等）に関する先行研究を調べてみてください。担当教員に相談すると、課題がはっきりすると思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅢ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、近現代作家の作品を読むことを通じて、テキストにおけるジェンダー、セクシュアリティ、人種、民族、階級、宗教などの表象を批判的に分析し、日本の近代社会や文化のありかたを考える。	メッセージ 文学を読む力を鍛え、人生や日常を生き抜く視点や力につなげましょう。
	到達目標 ①日本近代現代文学の特質と背景についての知識・理解を深める。 ②テキストに即した語彙、文法、表現、修辞法などの実践的な読解力を養成する。 ③文学研究の理論・方法を知り、テキスト批評を行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義の概要、テキスト、評価方法、その他）	
	2	ジェンダー理論入門	指定された課題を予習する
	3	向田邦子「花の名前」「かわうそ」を読むー「勢力/power」概念の視点からー	指定された課題を予習する
	4	清水紫琴「こわれ指環」を読むー作品成立の背景・評価などー	指定された課題を予習する
	5	「こわれ指環」のテキスト読解	指定された課題を予習する
	6	「こわれ指環」の表象分析ーロマンチックラブ・イデオロギーと女性自叙体ー	指定された課題を予習する
	7	樋口一葉「にぎりえ」を読むー作品成立の背景・評価などー	指定された課題を予習する
	8	「にぎりえ」のテキスト読解（語彙、表現、修辞、文体など）	指定された課題を予習する
	9	「にぎりえ」のテキスト読解（主要な登場人物の性格、物語の構造など）	指定された課題を予習する
	10	「にぎりえ」の表象分析・考察ー女性作家とジェンダー・階層・周縁性ー	指定された課題を予習する
	11	与謝野晶子「みだれ髪」を読むー作品成立の背景・評価などー	指定された課題を予習する
	12	「みだれ髪」のテキストの読解	指定された課題を予習する
	13	「みだれ髪」の鑑賞（授業内での発表と意見交換）	指定された課題を予習する
14	「みだれ髪」のまとめと考察ー〈官能〉という身体言説ー	指定された課題を予習する	
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）。その他、プリント使用。 参考文献：テーマや課題に応じて適宜指示する。		
	学びの手立て 授業の内容に関連した小課題を3回程度課す。		
	評価 ①期末レポート（80%） ②授業への取り組み、課題・提出物（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読むⅣ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅣ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年	kurosawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、近現代作家の作品を読むことを通じて、テキストにおけるジェンダー、セクシュアリティ、人種、民族、階級、宗教などの表象を批判的に分析し、日本の近代社会や文化のありかたを考える。	メッセージ 文学を読む力を鍛え、人生や日常を生き抜く視点や力につなげましょう。
	到達目標 ①日本近代現代文学の特質と背景についての知識・理解を深める。 ②テキストに即した語彙、文法、表現、修辞法などの実践的な読解力を養成する。 ③文学研究の理論・方法を知り、テキスト批評を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス（講義の概要、テキスト、評価方法、その他）	
	2	ジェンダー&クィア理論入門	
		時間外学習の内容	
	3	田山花袋「蒲団」を読む—作品成立の背景・評価など—	指定された課題を予習する
	4	「蒲団」のテキスト読解	指定された課題を予習する
	5	「蒲団」の表象分析—「女学生」という記号への欲望—	指定された課題を予習する
	6	田村俊子「生血」を読む—作品成立の背景・評価など—	指定された課題を予習する
	7	「生血」のテキスト読解	指定された課題を予習する
	8	「生血」の表象分析—「処女」の発見と両性の相克—	指定された課題を予習する
	9	平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」を読む—作品成立の背景・評価など—	指定された課題を予習する
	10	「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」の表象分析・考察—「新しい女」と〈女性同性愛〉—	指定された課題を予習する
	11	夏目漱石「こころ」を読む —作品成立の背景・評価など—	指定された課題を予習する
	12	「こころ」のテキスト読解—〈ホモソーシャル〉の視点から	指定された課題を予習する
	13	「こころ」の表象分析—隠蔽し続ける〈愛〉の修辞学=政治学—	指定された課題を予習する
	14	菊池寛「父帰る」を読む—一家父長制とジェンダー—	指定された課題を予習する
	15	吉屋信子「女の友情」を読む—〈少女〉たちとメディア—	指定された課題を予習する
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）。その他、プリント使用。 参考文献：テーマや課題に応じて適宜指示する。		
	学びの手立て 期末レポート以外に、課題を3回程度課す。		
	評価 ①期末レポート（80%） ②授業への取り組み、課題・提出物（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：日本文学を読むⅢ 次のステージ：ゼミナールⅠ
-------	---

※ポリシーとの関連性 言葉の意味をどのように人は規定するのか語彙について考える。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知言語学	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	3年	非常勤のため、講義の前後とする。欠席届は紙で提出のこと。メールではみとめない。	

学びの準備	ねらい 現実世界を脳に取り込み（認知）し、それを言語化する過程、カテゴリー化する過程を理解する。特に意味の分類、単語と意味の関係について考える。	メッセージ 単語の意味がどのようにして獲得され、一つの言語の中で慣習として使用されるようになるのかの過程を具体例を多く用いて考えていきます。
	到達目標 ・認知言語学に関連する専門用語をつかって、説明できるようになる。 ・語の意味と人の意識、考え方をとらえられるようになる。	

学びの準備	到達目標 ・認知言語学に関連する専門用語をつかって、説明できるようになる。 ・語の意味と人の意識、考え方をとらえられるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス 私たちの意識と取り巻く物理世界
	2	言語と経験のむすびつき
	3	見たものをことばにする
	4	語のカテゴリー化
	5	物事のとらえ方と言語化
	6	意味とは 辞書記述と言語活動のつながり
	7	比喩表現（1）隠喩
	8	比喩表現（2）換喩
	9	レポート提示 比喩
	10	比喩とことわざ
	11	上位語・下位語
	12	多義語（1）
	13	多義語（2）同音語
	14	類義語・対義語
	15	まとめ
16		
		時間外学習の内容

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 町田健編／榎山洋介著2002『認知意味論のしくみ』研究社、野村益寛2014『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、今井むつみ2010『ことばと思考』岩波書店、久島茂2002『《物》と《場所》の意味論』くろしお出版、S. I. ハヤカワ1985『思考と行動における言語』岩波書店、など。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 人間の認知については心理学、生理学、脳科学の分野も参考になる。言語については、辞書の意味記述がどのように行われているのか、連語論のしくみなどが理解を助ける。
-------	--

学びの実践	評価 レポート60%、講義中の練習問題など30%、出席10%とする。
-------	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 語彙論、連語論などがある。
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化演習	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ヤマトの言語文化と比較することで、琉球の言語文化の独自性とヤマトの言語文化の影響について考えると同時に、発表を通して「考える力」と「文章力」のスキルアップを図る。	メッセージ 本土と琉球の言語文化を比較するためには、発表テーマの先行研究と資料を提示すること。
	到達目標 発表を通して、考える力と文章力のスキルアップを図る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	比較研究の方法について説明する	比較研究について調べる
	2	発表内容について説明し、発表順番を決定する	口承文芸について調べる
	3	「大歳の客」について本土と沖縄の比較研究の発表	昔話の本を読む
	4	「蛇婿入り」について本土と沖縄の比較研究の発表	昔話の本を読む
	5	「天女伝説」について本土と沖縄の比較研究の発表	昔話の本を読む
	6	「ほら話」について本土と沖縄の比較研究の発表	昔話の本を読む
	7	「とんち話」について本土と沖縄の発表	昔話の本を読む
	8	「万葉集」と琉歌の比較研究の発表	万葉集を調べる
	9	「古今和歌集」と琉歌の比較研究の発表	古今和歌集を調べる
	10	「近世小唄」と琉歌の比較研究の発表	近世小唄について調査する
	11	能と組踊の比較研究の発表	能楽を調べる
	12	歌舞伎と組踊の比較研究の発表	歌舞伎を調べる
	13	狂言について本土と沖縄の比較研究の発表	狂言について調べる
14	比較研究の意義を考える	これまでの発表資料の整理	
15	総括	発表資料とノートの整理	
16	試験	試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。		
	学びの手立て 発表資料はしっかりと読んで理解しておくこと。		
	評価 試験70%・発表20%・平常点（授業への取組）10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	2年	研究室5501 メール：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、各自が持つ異文化に対する好奇心や憧れを自文化と比較することで自他の文化への理解を深めるってもらう。比較する際に陥りやすい批判や先入観、ステレオタイプについて考えてもらいたい。	メッセージ 「ことば」をキーワードに自文化と他文化の相似点・相違点を認識してもらい、その背景に有る諸要素に気付いてもらいたい。
	到達目標 次の3点について理解してもらいたい。 1. 日本文化の形成と要因について 2. 文字文化の変遷と普及 3. 多文化との比較・対照の留意点 理解度を確保するために小テスト(自己採点)とレポートを提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (講義の目的と諸注意)	諸注意とレポートについて
	2	比較・対照の事例紹介 (先輩方の発表事例を中心に)	言語学と文化人類学
	3	レポートの書き方指導	同上 レポート課題の提示①
	4	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する	地理および年表の復習
	5	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する	同上
	6	文化の諸相 (1) 地理・気候と交通	同上
	7	文化の諸相 (2) 地理・気候と交通	同上
	8	小テスト① (まとめ：自己採点)	レポート課題の提示②
9	文化の諸相 (1) 世界の宗教と自然	気候と社会・宗教の概観	
10	文化の諸相 (2) 世界の宗教と自然	同上	
11	日本と西洋の接触 (1)	琉球と日本と中国	
12	日本と西洋の接触 (2)	同上	
13	小テスト② (まよめ：自己採点)	自己の弱点を確認	
14	学期末試験	これまでの講義内容の確認	
15	質疑と評価法の確認	講義内容の確認と質問の準備	
16	総括	講義内容の復讐	
	テキスト・参考文献・資料など 高校までに習得した地理 (地形・気候) や歴史 (文化・宗教) を確認しておくこと。講義の理解度を確保するため毎回の講義内でクイズを出します。		
	学びの手立て 本講義は「比較文化論」であるが文化人類学的な比較文化ではなく「言葉」をキーワードに文化の対照・比較を中心に行う。ことばが持つ機能や特性について日頃から考える心がけを持って欲しい。事例を講義初日に挙げて説明する。		
	評価 毎回の講義内容に関するクイズ (各5%×8) レポート (各15%×2) 学期末 (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多文化間コミュニケーションに興味を持つ学生、あるいは、コースを専攻したい学生や卒論やゼミ論で扱いたい学生は、講義の中で紹介する書籍や資料を積極的に読んでほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門科目を学ぶ上で求められる、基礎的な思考力、言語運用能力、ICT、情報検索能力などのアカデミックスキルを情習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也(8回)、芳山 紀子(8回)	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、情報専門職の経験をもつ講師の指導の下で、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを旨とする。文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。</p>	<p>将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。皆さんの先輩のSA(3年生)も授業に参加しますので、分からないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<p>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス/PCの基本構造・基本操作・日本語入力・ファイルとフォルダ管理/座席決め小テスト	シラバスを読み授業に備える
	2	Wordの基本操作① ページ設定(ヘッダー・フッターを含む)	検定2級レベルの文書作成①
	3	Wordの基本操作② ワードアートの挿入(オブジェクト編集)・スタイルの定義(段落設定)	検定2級レベルの文書作成②
	4	Wordの基本操作③ 表・罫線の処理、オブジェクト(図形・画像)の作成・その他の機能	検定2級レベルの文書作成③
	5	Wordの基本操作④ 総合練習問題・解説	練習問題を解く・テスト勉強
	6	Wordの基本操作⑤ 到達度確認テスト①(50点満点)	テスト問題の見直し
	7	テストの振り返り・情報検索・文献検索ガイダンス	研究発表の準備
	8	プレゼンテーションソフトの基本操作・再試験	研究発表の準備
	9	Excelの基本操作① 画面構成/データの種類と入力の規則他	データの種類と入力時の規則再確認
	10	Excelの基本操作② 初歩的な表計算機能の活用(基礎的な関数/相対参照/演習問題)	演習問題1
	11	Excelの基本操作③ グラフ機能(単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成)	演習問題2
	12	Excelの基本操作④ データベース機能①(並べ替え/フィルター/フォーム/複雑な条件抽出等)	演習問題3/演習問題4
	13	Excelの基本操作⑤ 表計算機能の活用②(条件判断/端数処理/順位付け)	演習問題5
14	Excelの基本操作⑥ データベース機能②(ピボットテーブル基礎・自動集計基礎)	演習問題6	
15	Excelの基本操作⑦ 到達度確認テスト②(50点満点)	日商PC検定3級範疇の技術習得	
16	Excelの基本操作⑧ テストの振り返り・パソコン理論講義	ハード・ソフト等の基礎概論習得	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> 市販テキストは使用しません。オリジナルテキストを使用します。 データを保存できるUSBを各自準備して下さい。 	
学びの手立て	<p>1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。</p> <p>2) 1回目の授業でPCスキルを確認するための小テストを行う。1回目は学籍番号順に座り、2回目よりスキルの習得の度合いによって座席を変更する。座席の通知はメールで行う。</p> <p>3) 16回目の翌週に追試験を行うことがある。</p> <p>4) 授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座(Word文書処理技能認定試験2級・日商PCデータ活用分野3級)を実施する。参加を希望する学生は予定をあけておくこと。</p>		
評価	<p>1) 山口担当回(50点満点) テストの到達度で評価する。</p> <p>2) 芳山担当回(50点満点) テストの到達度で評価する。</p> <p>3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。また、各パートで欠席が4回を超えた場合も不可とする。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> この授業前半で取り上げるWordの操作は、授業後に実施するWord2級検定のレベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。 2年生必修科目「アカデミックライティング」ではこの授業の後半部分のExcelの操作法を基礎とした、アンケート集計、データベース管理法などを学習していきます。

※ポリシーとの関連性

専門科目を学ぶ上で求められる、基礎的な思考力、言語運用能力、ICT、情報検索能力などのアカデミックスキルを情習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也(8回)、芳山 紀子(8回)	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、情報専門職の経験をもつ講師の指導の下で、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを旨とする。文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。</p>	<p>将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。皆さんの先輩のSA(3年生)も授業に参加しますので、分からないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<p>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/PCの基本構造・基本操作・日本語入力・ファイルとフォルダ管理/座席決め小テスト	シラバスを読み授業に備える
	2	Wordの基本操作① ページ設定(ヘッダー・フッターを含む)	検定2級レベルの文書作成①
	3	Wordの基本操作② ワードアートの挿入(オブジェクト編集)・スタイルの定義(段落設定)	検定2級レベルの文書作成②
	4	Wordの基本操作③ 表・罫線の処理、オブジェクト(図形・画像)の作成・その他の機能	検定2級レベルの文書作成③
	5	Wordの基本操作④ 総合練習問題・解説	練習問題を解く・テスト勉強
	6	Wordの基本操作⑤ 到達度確認テスト①(50点満点)	テスト問題の見直し
	7	テストの振り返り・情報検索・文献検索ガイダンス	研究発表の準備
	8	プレゼンテーションソフトの基本操作・再試験	研究発表の準備
	9	Excelの基本操作① 画面構成/データの種類と入力の規則他	データの種類と入力時の規則再確認
	10	Excelの基本操作② 初歩的な表計算機能の活用(基礎的な関数/相対参照/演習問題)	演習問題1
	11	Excelの基本操作③ グラフ機能(単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成)	演習問題2
	12	Excelの基本操作④ データベース機能①(並べ替え/フィルター/フォーム/複雑な条件抽出等)	演習問題3/演習問題4
	13	Excelの基本操作⑤ 表計算機能の活用②(条件判断/端数処理/順位付け)	演習問題5
14	Excelの基本操作⑥ データベース機能②(ピボットテーブル基礎・自動集計基礎)	演習問題6	
15	Excelの基本操作⑦ 到達度確認テスト②(50点満点)	日商PC検定3級範疇の技術習得	
16	Excelの基本操作⑧ テストの振り返り・パソコン理論講義	ハード・ソフト等の基礎概論習得	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> 市販テキストは使用しません。オリジナルテキストを使用します。 データを保存できるUSBを各自準備して下さい。 		
学びの手立て	<p>1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。</p> <p>2) 1回目の授業でPCスキルを確認するための小テストを行う。1回目は学籍番号順に座り、2回目よりスキルの習得の度合いによって座席を変更する。座席の通知はメールで行う。</p> <p>3) 16回目の翌週に追試験を行うことがある。</p> <p>4) 授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座(Word文書処理技能認定試験2級・日商PCデータ活用分野3級)を実施する。参加を希望する学生は予定をあけておくこと。</p>		
評価	<p>1) 山口担当回(50点満点) テストの到達度で評価する。</p> <p>2) 芳山担当回(50点満点) テストの到達度で評価する。</p> <p>3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。また、各パートで欠席が4回を超えた場合も不可とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> この授業前半で取り上げるWordの操作は、授業後に実施するWord2級検定のレベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。 2年生必修科目「アカデミックライティング」ではこの授業の後半部分のExcelの操作法を基礎とした、アンケート集計、データベース管理法などを学習していきます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化テキスト論Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 短編小説を複数読破することを通して言葉に関する感性を高め、文学テキストを論理的に読解していく力を養う。	メッセージ この講義では「ことば」をテーマとし、そのテーマに関連する短編小説を読み解いていく。「ことば」とは何か、語り手や書き手とはどのような存在か、読者は書かれた「ことば」にどう関わることができるのかなどを考えてみよう。
	到達目標 文学テキストを読み解く読解力および独自の視点で問題を発見できる能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	芥川龍之介「桃太郎」一定型をくつがえす	指定された作品を読んでくる。
	3	太宰治「千代女」一女性の書き手について	指定された作品を読んでくる。
	4	中島敦「狐憑」一物語とは何か	指定された作品を読んでくる。
	5	中島敦「山月記」一動物と人の境目	指定された作品を読んでくる。
	6	中島敦「木乃伊」一言葉が形づくる「自分」	指定された作品を読んでくる。
	7	中島敦「文字禍」一文字と声はどう違う？	指定された作品を読んでくる。
	8	井伏鱒二「かきつばた」①一語るべき出来事と「私」の距離	指定された作品を読んでくる。
9	井伏鱒二「かきつばた」②一知らないものを語る方法	指定された作品を読んでくる。	
10	大庭みな子「山姥の微笑」①一心を読まれることの不気味さ	指定された作品を読んでくる。	
11	大庭みな子「山姥の微笑」②一不十分なコミュニケーション手段としての言葉	指定された作品を読んでくる。	
12	映画「ワンダフルライフ」①一記憶を語ることの意味	指定された作品を読んでくる。	
13	映画「ワンダフルライフ」②一「語りきれないこと」への視点	指定された作品を読んでくる。	
14	星野智幸「紙女」①一書く／書かれるという関係	指定された作品を読んでくる。	
15	星野智幸「紙女」②一書く存在となることの痛み	レポートに向けての学習。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 文化テキスト論Ⅰを受講していることが望ましい。 事前事後学習として多数の読書を求める。		
	評価 レポート（80%）、講義内で課す小課題および受講態度（20%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学実作演習	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎浜 慎	3年	sakihamas.shin@gmail.com	

学びの準備	ねらい 文学実作を通して、読むこと、書くことについて学ぶ。読むこと、書くことは学問ではもちろんのこと、実生活を送る上でも欠かすことのできない技術である。	メッセージ 自分の中から言葉を紡ぎ出して、表現することにはいつも新鮮な驚きがある。なぜなら、知らない「私」を自分の中に発見できるから。表現には技術が伴うので簡単に創作はできないかもしれないが、あえて困難に挑んでみよう。
	到達目標 この講義では、最終的に原稿用紙20～40枚（8,000～16,000字）程度の小説を書くことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー「小説」とは何か	田中小実昌「ポロポロ」
	2	「場所」の設定①	ガルシア＝マルケス『百年の孤独』
	3	「場所」の設定②	中上健次『枯木灘』
	4	「時間」①	クライスト「チリの地震」
	5	「時間」②	トーマス・マン『魔の山』
	6	「人物」について①	色川武大『生家へ』
	7	「人物」について②	幸田文『おとうと』
	8	「プロット」を考える①	夏目漱石『明暗』
9	「プロット」を考える②	太宰治「走れメロス」	
10	あらためて「小説」について考える	川上弘美「神様」	
11	創作の時間	小説の構想を練る	
12	創作発表と批評①	小説を書く	
13	創作発表と批評②	小説を書く	
14	創作発表と批評③	小説を書く	
15	朗読マッチ	短い文章を前もって2編創作する	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。参考文献として「時間外学習の内容」に小説を挙げている。講義では必要に応じて、プリントを配布する。講義は毎回30分のレクチャーと60分のワークショップ（創作）を行う。常に筆記用具とノートを持参のこと。		
	学びの手立て ・読書が好きなこと ・小説を書きたいと思っていること 以上の心構えが必要。 講義では、漱石、谷崎潤一郎、多和田葉子、ガルシア＝マルケス、カフカなどに言及する。		
	評価 講義中の課題20%、受講態度および発言20%、最終講義時に小説作品の提出60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 県内の文学賞に応募しよう。たとえば、「びぶろお文学賞」「琉球新報短編小説賞」「新沖縄文学賞」などがある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プロジェクト演習	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年	freenet.school@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「鬼慶良間」の脚本の中に織り込まれている沖縄の歴史・文化・人のくらしを知るから始めます。そして、平和な未来へのメッセージを、学生が想いを繋いでおくります。意思疎通の難しさ、多様な価値観や個性の中で創り上げる舞台。コミュニケーション・相互理解・そして、表現の中から生きるチカラを育みます。</p>	<p>日本文化学科の伝統として受け継がれている創作民話劇「鬼慶良間」は、一冊の台本を読み解くことから始めます。同じ本であっても、その表現方法は毎年特徴のある個性的な舞台となります。大学祭に2日間の上演。集中講義として全員が心をひとつに届けるテーマは、「肝どう宝」。泣いて、笑って、崩れそうになりながら想いを繋ぎ創り上げる感動のプロジェクトです。</p>
到達目標	<p>○脚本をしっかりと理解すること。知らないことは、個人・またはチームで調べて理解を深めること。 ○報告・連絡・相談ができること。 ○やるべき仕事を責任をもって実行すること。 ○ルールを守れること。 ○相手の身になって考えることができること。 ○表現する力、スキルを高めること。 ○キャストも裏方も、支えられていることを知り、感謝を忘れないこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス<集中講義計画の説明・日程・チームの連携など>	レポート・スケジュール提出
	2	各班リーダーからの報告・連絡・相談	全体スケジュールの作成と共有
	3	演出を中心に現状報告<進捗状況と課題など>	各班リーダーミーティング
	4	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班リーダーミーティング
	5	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班の活動と情報の共有
	6	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班の活動と情報の共有
	7	大学祭二週間前 通し稽古	各班の活動と情報の共有
	8	大学祭一週間前 リハーサル<音響入り>	全員でリハーサルから調整・改善
9	大学祭3日前 リハーサル<音響入り>	成功のポイントと改善・対策	
10	大学祭2日前 ゲネプロ<衣装・メイク・音響・照明ほか本番同様に>	ゲネプロから改善・練習・対策	
11	大学祭前日 リハーサル	全員で最終の調整と協力	
12	大学祭にて上演1日目 創作民話劇「鬼慶良間」	朝から上演後ミーティングまで	
13	大学祭にて上演2日目 創作民話劇「鬼慶良間」	朝から終演・打ち上げまで	
14	創作民話劇「鬼慶良間」上映	個人報告書の作成	
15	各班活動報告プレゼンテーション1	班の報告書・個人報告書の提出	
16	各班活動報告プレゼンテーション2	DVD編集制作と返金の日程まで	
テキスト・参考文献・資料など	○創作民話劇「鬼慶良間」脚本		
学びの手立て	<p>●この講義では、大所帯でひとつの舞台を創り上げることにしますので、情報を共有することが簡単ではありません。報告・連絡・相談が重要なポイントです。●脚本をしっかりと読み込み理解を深めることが基本です。脚本からその大切な意味を読み取り、どのように表現していくのかを考え、演出やリーダーと相談をしながら進めていきます。●多様な価値観をまとめていくのも、脚本に答えや手がかりがあります。本気になればなるほど、個々の主張は強くなります。コミュニケーションの力が求められます。●演劇未経験の人がほとんどです。日々成長していく演技とキャストを支えるほかの裏方の力が大きな力となります。●大学祭まで講義外の活動が多くあります。それぞれの状況をメンバーで把握し、理解と協力で進めていくことが必要です。できることを精一杯取り組むことが大切です。●感動の瞬間を信じて頑張りましょう。</p>		
評価	●出席率 ●活動実績 ●活動報告書		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>●日本文化学科の学生として、この経験は大学生活の中でも貴重な経験となり、先輩・後輩と縦の糸で繋がる共有の財産になります。●日本語表現法Ⅰの後半から、この講義に繋いでいきますので、登録の確認を行ってください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化学科では、日本文化および琉球文化に対する造詣を深め、広い領域に興味・関心を持つ人材育成を目指している。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ポップカルチャー論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	久万田晋（6回）大胡太郎（5回）土屋誠一（5回）	1年	s-kumada@ken.okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近代以降の日本および沖縄社会の中で、どのようにしてポピュラー文化が誕生し、伝統文化諸分野といかなる相互関係を持ちながら発展してきたか、社会的状況とどのような関わりを持ちながら成立したかについて、音楽、文学・コミック、写真・美術・映画などの分野別に概観してゆく。	自分の関心ある分野について、各講師が講義において示す作品や参考文献等をよく読んで授業に臨むこと。
到達目標	日本のポピュラー文化の各分野の表現において、日本的あるいは沖縄的アイデンティティが、日本や世界の時代的・文化的状況とどのような因果関係を持って構築されているのかを、理論的、系統的に理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	大衆メディアと音楽（久万田）	参考図書を確認すること
	2	日本のポピュラー音楽 戦前（久万田）	与えられた課題を事前学習すること
	3	日本のポピュラー音楽 戦後（久万田）	与えられた課題を事前学習すること
	4	日本のポピュラー音楽 アイドル歌謡（久万田）	与えられた課題を事前学習すること
	5	日本のポピュラー音楽 テクノロジー（久万田）	与えられた課題を事前学習すること
	6	戦後漫画誌史1（大胡）	与えられた課題を事前学習すること
	7	戦後漫画誌史2（大胡）	与えられた課題を事前学習すること
8	戦後漫画誌史3（大胡）	与えられた課題を事前学習すること	
9	戦後漫画誌史4（大胡）	与えられた課題を事前学習すること	
10	戦後漫画誌史5（大胡）	与えられた課題を事前学習すること	
11	オタク文化の考古学1（土屋）	与えられた課題を事前学習すること	
12	オタク文化と「95年問題」（土屋）	与えられた課題を事前学習すること	
13	オタク文化と「セカイ系」（土屋）	与えられた課題を事前学習すること	
14	オタク文化と「空気系」（土屋）	与えられた課題を事前学習すること	
15	オタク文化の現在（土屋）	与えられた課題を事前学習すること	
16	全体のまとめ	これまでの講義内容の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献：中村とうよう著『ポピュラー音楽の世紀』（岩波書店、1999年、岩波新書）、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？』（朝日文庫、2008年）、四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫、1999年）、速水健朗『1995年』（ちくま新書、2013年）、前島賢『セカイ系とは何か』（星海社文庫、2014年）</p>		
学びの手立て	<p>ただ講義を受動的に聴くのではなく、自分なりの問題意識を持って主体的に授業に臨むこと。そのために各講師が講義において示す作品例や参考文献等をよく読み、鑑賞して講義での論点を復習しておくこと。</p>		
評価	<p>【方法】平常点（平常点は授業への参加状況、30%）、コメントペーパー（各講義の理解度と提出状況、20%）、期末レポート（学習目標達成度、50%）により総合的に判断して評価する。遅刻2回で1回の欠席とみなすので、遅刻しないように留意すること。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本、琉球、世界の多様な文化に関心を持ってほしい。グローバルコミュニケーション論、比較文化論、ジャパノロジーⅠ・Ⅱ、日本芸能史、琉球芸能史、多文化共生論などで幅広い知識を培ってほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>			
学びの手立て			
<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>			
評価			
レポート80%、平常点（授業への取組）20%			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>			
学びの手立て			
<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>			
評価			
レポート80%、平常点（授業への取組）20%			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>			
学びの手立て			
<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>			
評価			
レポート80%、平常点（授業への取組）20%			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日	課題（夏休み）	
テキスト・参考文献・資料など	<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>		
学びの手立て	<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>		
評価	レポート80%、平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>			
学びの手立て			
<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>			
評価			
レポート80%、平常点（授業への取組）20%			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。</p>
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える	
2	自己紹介	復習（自己紹介）		
3	大学入門①	復習（大学入門）		
4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）		
5	大学入門②	復習（大学入門）		
6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）		
7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）		
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）		
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）		
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）		
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）		
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）		
13	各ゼミごとの学習	課題		
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）		
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）		
16				
	テキスト・参考文献・資料など	<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）</p>		
	学びの手立て	<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題は添削のうえ返却します。</p>		
	評価	レポート80%、平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。</p>
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	課題（春休み）	
16	予備日	課題（春休み）	
テキスト・参考文献・資料など	<p>※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）</p>		
学びの手立て	<p>①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。</p>		
評価	提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。			
評価			
提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。			
評価			
提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。			
評価			
提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。			
評価			
提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ・PowerPoint作成
	8	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	9	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑥	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③課題について、講評・解説の時間を設ける。			
評価			
提出物、発表内容70%、平常点（授業への取組）30%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球芸能史	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	2年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 御冠船踊・江戸上り芸能の定式化、琉球王朝における三線音楽の成立・組踊の成立、明治以降の沖縄芝居の成立、琉球古典音楽・琉球古典舞踊を通して、琉球芸能史について考える。	メッセージ 琉球古典芸能の所作・音楽・セリフから、その精神性について学ぶ。テーマによっては、グループで調べて発表してもらうこともある。
	到達目標 日本芸能と琉球の芸能を社会文化論的に比較することを習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球音楽家と御前演奏	琉球古典音楽について調べる
	2	オモロの歌唱法と琉歌の歌唱法	オモロについて調べる
3	御冠船踊りと童子たちの踊り	琉球王の冊封式を調べる	
4	老人踊りと長者の大主	沖縄の「村踊り」を調べる	
5	王府時代の琉球舞踊の分類と年齢	琉球士族について調べる	
6	江戸上りの芸能と二才踊り	江戸上りについて調べる	
7	女踊り 1	女踊りの琉歌について調べる	
8	女踊り 2	女踊りのビデオを鑑賞する	
9	玉城朝薫と組踊	玉城朝薫について調べる	
10	玉城朝薫の組踊	朝薫の組踊について調べる	
11	田里朝直の組踊	田里朝直について調べる	
12	平敷屋朝敏と組踊	平敷屋朝敏について調べる	
13	組踊「花売りの縁」	花売りの縁について調べる	
14	組踊「大川敵討」	大川敵討について調べる	
15	雑踊り	雑踊りについて調べる	
16	試験	試験の準備をする	
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。講義の中で参考書を指示する。		
	学びの手立て 講義で配布されたプリントは整理して保管する。NHKの「沖縄の歌と踊り」を鑑賞する。		
	評価 試験80%・平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語会話 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れ親しむ。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。	メッセージ 現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。グローバル化する世界における多文化共生の考え方もふまえつつ、沖縄語の継承について考えていってほしい。
	到達目標 沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の実質にふれ、沖縄語で表現することへの回路を開いていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス・琉球語諸方言の区画	言語区画を覚える
	2	自己紹介さびら	自己紹介の仕方を覚える
	3	沖縄語の発音（1）—三母音化—	三母音化について復習・練習問題
	4	沖縄語の発音（2）—口蓋化—	口蓋化について復習・練習問題
	5	沖縄語の文法（1）—「ガ」と「ヌ」—	助詞について復習・練習問題
	6	沖縄語の文法（2）—動詞①—	動詞活用について復習・練習問題
	7	沖縄語の文法（3）—動詞②—	動詞活用について復習・練習問題
	8	沖縄語の文法（4）—形容詞—	形容詞活用について復習・練習問題
9	中間試験	中間試験の復習	
10	沖縄語の文法（5）—係り結び—	係り結びについて復習・練習問題	
11	沖縄語の発音（3）—声門閉鎖音—	声門閉鎖音について復習・練習問題	
12	沖縄語の文法（6）—丁寧語—	丁寧語について復習・練習問題	
13	沖縄語の文法（7）—テ形—	テ形について復習・練習問題	
14	沖縄語の文法（8）—過去形・継続形—	動詞活用について復習・練習問題	
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日	期末試験の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 西岡敏・仲原穰〔著〕、伊狩典子・中島由美〔協力〕 2006[2000] 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。 国立国語研究所〔編〕1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。		
	学びの手立て 登録人数を制限することがある。 出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 練習問題はWEB上で解答できるので、各自積極的に取り組むこと。		
	評価 中間試験（40%）、期末試験（40%）、平常点（20%）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球語会話Ⅱ、琉球語学概論、琉球芸能史、琉球文学概論。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語会話Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れ親しむ。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。	メッセージ 現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。グローバル化する世界における多文化共生の考え方もふまえて、沖縄語の継承について考えていってほしい。
	到達目標 沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の実質にふれ、沖縄語で表現することへの回路を開いていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	普通体と丁寧体	復習・練習問題
	2	複文（順接文・逆接文・条件文）	復習・練習問題
	3	規則動詞と不規則動詞	復習・練習問題
	4	第1過去形と第2過去形	復習・練習問題
	5	親族名称	復習・練習問題
	6	疑問の係り結び	復習・練習問題
	7	受身文・使役文	復習・練習問題
	8	敬語	復習・練習問題
	9	中間試験	中間試験の復習
	10	応用①：琉球料理	復習・練習問題
	11	応用②：マチグラー	復習・練習問題
	12	応用③：昔ばなし	復習・練習問題
	13	琉歌・民謡	復習・練習問題
	14	歌劇・組踊	復習・練習問題
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日	期末試験の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 西岡敏・仲原穰〔著〕、伊狩典子・中島由美〔協力〕 2006[2000] 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。 国立国語研究所〔編〕1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。		
	学びの手立て 登録人数を制限することがある。 出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 練習問題はWEB上で解答できるので、各自積極的に取り組むこと。		
	評価 中間試験（40%）、期末試験（40%）、平常点（20%）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球語学特講Ⅰ・Ⅱ、琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ、多文化共生論。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、琉球各地の方言—奄美、沖縄北部、沖縄南部、宮古、八重山—をその地域ごとに概説していきます。講義の後半では、近年メディアでも話題とされている「危機言語」の問題について取りあげ、グループディスカッションとプレゼンテーションを行います。琉球語をとりまく現状を知り、その継承の必要性や問題点、可能性について考えていきましょう。	今私たちの暮らしている「沖縄・琉球」のことばのことをどのくらい知っていますか。琉球語（琉球方言）はとても多様な言語です。で講義内容も広範囲になります。興味と意欲と問題意識をもって、積極的な姿勢で受講してほしいと思います。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「琉球語」「沖縄方言」「ウチナーグチ」といった各“術語”の定義について適切に説明できる。 ・琉球各地の方言（琉球語の下位方言）について、それぞれの言語的特徴、違いを理解している。 ・琉球語のおかれている「危機」について現状を把握し、自らの意見を述べることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語とは—方言と言語—	授業の復習（資料）
	3	奄美のことば	同上
	4	沖縄のことば(1)—北部	同上
	5	沖縄のことば(2)—中南部(1)	同上
	6	沖縄のことば(3)—中南部(2)	同上
	7	宮古のことば(1)	同上
8	宮古のことば(2)—多良間方言(1)	同上	
9	宮古のことば(3)—多良間方言(2)	授業の復習と中間レポート資料収集	
10	八重山のことば	同上	
11	与那国のことば	授業の復習と中間レポートの作成	
12	危機言語とは：「危機に瀕した」琉球語、中間レポートの提出	ディスカッションの事前リサーチ	
13	琉球語をとりまく諸問題(1)：グループディスカッション	振り返りと補足リサーチ	
14	琉球語をとりまく諸問題(2)：グループディスカッション、ワーク	まとめとプレゼン資料の作成	
15	琉球語をとりまく諸問題(3)：プレゼンテーション	試験範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献（ほんの一部です） 中本正智1981『図説琉球語辞典』力富書房、岡村隆博2007『奄美方言』南方新社、名護市史編さん委員会編2006『名護市史本編10 言語』、西岡敏・仲原穰（2006 [2000]）『沖縄語の入門（CD付き改訂版）』白水社、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社、平山輝男他1967『琉球先島方言の総合的研究』明治書院、呉人恵[編]（2011）『日本の危機言語—言語・方言の多様性と独自性』北海道大学出版会、など 		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・出席をとる代わりに毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。記入内容も評価の対象です。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考文献に目を通しておくと講義への理解が深まります。 		
評価	<p>期末試験30%、中間レポート20%、リアクションペーパー20%、ディスカッション・プレゼンテーション15%、平常点15%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	琉球語についてさらに深く学んでいきたい人へ。 関連科目：「琉球語会話ⅠⅡ」「琉球語学特講ⅠⅡ」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業ではJ-POPの歌詞や詩、絵本など日本語共通語で書かれた「作品」を琉球語に翻訳して発表することを目標とします。ウチナーグチの翻訳作品をいくつか紹介し、その中によく出てくる表現や文法について説明します。授業の後半では、各自「作品」を選び、辞書などを利用してウチナーグチに翻訳します。そしてその成果を発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。	メッセージ 翻訳作業を通して琉球語と日本語との違いを学び、さらには琉球語の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。
	到達目標 ・「琉球語」の定義を正確に説明することができる。 ・「ウチナーグチ」の音声や文法の基礎を身に付ける。 ・日本語共通語の「作品」をウチナーグチに翻訳し、発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、発表について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球方言概説(1)：日本語と琉球方言(琉球語)、琉球弧の広がり	授業の復習
	3	琉球方言概説(2)：「ウチナーグチ」とは、琉球方言の多様性	同上
	4	翻訳作品の紹介と文法概説(1)	授業の復習と翻訳する作品の選択
	5	翻訳作品の紹介と文法概説(2)	同上
	6	翻訳作品の紹介と文法概説(3)、翻訳する作品の提出(報告)	授業の復習と中間報告の準備
	7	翻訳作品の紹介と文法概説(4)	同上
	8	翻訳の中間報告と質疑応答(1)	質疑応答の振り返りと発表の準備
	9	翻訳の中間報告と質疑応答(2)	同上
	10	翻訳の中間報告と質疑応答(3)	同上
	11	翻訳の中間報告と質疑応答(4)	同上
	12	翻訳作品の発表(1)	レポートの作成
	13	翻訳作品の発表(2)	同上
	14	翻訳作品の発表(3)	同上
15	翻訳作品の発表(4)	同上	
16	レポート提出	授業の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 西岡敏・仲原穰(2006 [2000])『沖繩語の入門(CD付き改訂版)』白水社、国立国語研究所編1963『沖繩語辞典』、野原三義・内間直仁2006『沖繩語辞典』研究社		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる場合があります。 ・「琉球語学概論」「琉球語会話」のいずれかを受講済みである、あるいは並行して受講していることが望ましい。		
	評価 中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点(出欠状況および質疑応答の態度を評価)10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年琉球語への関心は高まっています。翻訳という実践的な学びを通して得た知識・技能のさらなる向上のために、より長い作品の翻訳にも挑戦してみてください。 関連科目：「琉球語学特講Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、日本語共通語で文章（意見文など）を書き、その文章を琉球語に翻訳して発表することを目標とします。可能であれば琉球語による作文を行います。翻訳作業は辞書を利用したり琉球方言を話せる人に習うなどして進めます。授業の最後には発表の際の質疑応答の結果を踏まえつつ、レポートとして提出します。また、「琉球語スピーチコンテスト」の出場を目指します。	メッセージ 翻訳作業を通して琉球方言と日本語との違いを学び、さらには琉球語の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。
	到達目標 ・日本語共通語の文章を琉球語に翻訳する。あるいは琉球語で文章を書く。 ・「琉球語スピーチコンテスト」に出場する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、発表について	シラバスを読み授業に備える
	2	首里方言の文法概説(1)、発表順番決め	授業の復習と日本語原稿の作成
3	首里方言の文法概説(2)	同上	
4	首里方言の文法概説(3)、作業の説明、日本語原稿の提出	授業の復習と中間報告の準備	
5	中間報告(1)	質疑応答の振り返りと作品発表の準備	
6	中間報告(2)	同上	
7	中間報告(3)	同上	
8	中間報告(4)	同上	
9	中間報告(5)	同上	
10	作品発表(1)	レポート作成とスピーコン発表練習	
11	作品発表(2)	同上	
12	作品発表(3)	同上	
13	作品発表(4)	同上	
14	作品発表(5)	同上	
15	「琉球語スピーチコンテスト」	発表内容の振り返り	
16	レポート提出	授業の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献は適宜紹介します。		
	学びの手立て 履修の心構え ・事前に「琉球語学特講Ⅰ」を受講していること。 ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる場合があります。		
	評価 中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点(出欠状況および質疑応答の態度を評価)10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年、琉球語に対する社会的な関心、ニーズが高まっています。翻訳作業を通して得た言語的な知識をさらに深めるとともに、会話にも挑戦してみてください。 関連科目：「琉球語会話ⅠⅡ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学入門	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語について大学一年生を対象に入門的な知識を学び、これからの琉球語学の基礎とする。	メッセージ 琉球語諸方言を学ぶためにはこれまで琉球語がどのように研究されてきたのか、その結果、どのようなことが明らかになったかを知る必要があります。その基礎的な部分を学んでいきましょう。
	到達目標 ・琉球列島の地域について地名等が正しく言える。 ・琉球語諸方言の研究者について知っている。 ・琉球語諸方言の区画について知っている。 ・琉球語諸方言で起こった音変化について説明できる。 ・琉球語諸方言の簡単な単語について知っている。	

学びの準備	到達目標 ・琉球列島の地域について地名等が正しく言える。 ・琉球語諸方言の研究者について知っている。 ・琉球語諸方言の区画について知っている。 ・琉球語諸方言で起こった音変化について説明できる。 ・琉球語諸方言の簡単な単語について知っている。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義準備
	2	琉球列島の地域区分と地名	講義復習
	3	琉球語の区画—総説—	講義復習
	4	琉球語の区画—沖縄語—	講義復習
	5	沖縄語の音声的特徴と語彙	講義復習
	6	琉球語の区画—国頭語—	講義復習
	7	琉球語の区画—奄美語—	中間試験準備
	8	中間試験	中間試験復習
	9	琉球語の区画—宮古語—	講義復習
	10	宮古語の音声的特徴と語彙	講義復習
	11	琉球語の区画—八重山語—	講義復習
	12	琉球語の区画—与那国語—	講義復習
	13	琉球語の研究者①	講義復習
	14	琉球語の研究者②	期末試験準備
	15	期末試験	期末試験復習
16	予備日	関連文献読書	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 波照間永吉〔監修〕『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版） 井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）
-------	--

学びの実践	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 琉球語のみならず、琉球の歴史・文学・芸能などについても関心を持ってほしい。
-------	--

学びの実践	評価 中間試験（40%）、期末試験（40%）、平常点（20%）によって評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球文化論（1年次）、琉球語学概論（2年次）、琉球語会話Ⅰ・Ⅱ（2年次）、琉球語学特講（3年次）。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー-1. 専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化論	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に受け付ける。 メールアドレス：karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球沖縄の言語文化を専門的に学ぶにあたって、琉球の言葉・歌謡・昔話・伝説・芸能と歴史・民俗についての基礎的な知識を習得する。	メッセージ 琉球の言語文化には、記録されたものと口頭で伝承されたものがあるが、それらを学ぶためには、文献だけでなく、博物館や祭り・芸能等を実際に見学し、総合的に考えること。
	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球の歴史と文化1	琉球国の成立について調べる
	2	琉球の歴史と文化2	古琉球について調べる
	3	近世琉球王国の社会	近世琉球について調べる
	4	祭りの歌謡—ノロとユター	ノロとユターの違いを調べる
	5	おもろさうし	『おもろさうし』を調べる
	6	神話・伝説	『遺老説伝』を調べる
	7	昔話・世間話	モーイ親方を調べる
	8	御冠船踊りと江戸上りの芸能	琉球国の外交について調べる
9	琉球古典音楽と沖縄民謡	三線の伝来について調べる	
10	琉球古典舞踊と「琉歌」	琉歌について調べる	
11	組踊の「唱え」	組踊について調べる	
12	沖縄芝居	沖縄芝居について調べる	
13	村踊り（民俗芸能）	村踊りに関して調べる	
14	琉球土族語と琉球文	琉球文について調べる	
15	ウチナーグチとシマ言葉	シマ言葉について調べる	
16	試験	試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考書：『大学的沖縄ガイド』		
	学びの手立て 「琉球文」を学ぶには「日本古文」の知識が必要である。		
	評価 試験80%・平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー-1. 専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化論	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に受け付ける。 メールアドレス：karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球沖縄の言語文化を専門的に学ぶにあたって、琉球の言葉・歌謡・昔話・伝説・芸能と歴史・民俗についての基礎的な知識を習得する。	メッセージ 琉球の言語文化には、記録されたものと口頭で伝承されたものがあるが、それらを学ぶためには、文献だけでなく、博物館や祭り・芸能等を実際に見学し、総合的に考えること。
	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球王国の歴史と文化 1	琉球国の成立を調べる
	2	琉球王国の歴史と文化 2	古琉球について調べる
	3	近世琉球王国の社会	近世琉球について調べる
	4	祭りの歌謡—ノロとユター	ノロとユターの違いを調べる
	5	おもろさうし	『おもろさうし』を調べる
	6	神話・伝説	『遺老説伝』を調べる
	7	昔話・世間話	モーイ親方を調べる
	8	御冠船踊りと江戸上りの芸能	琉球国の外交について調べる
9	琉球古典音楽と沖縄民謡	三線の伝来について調べる	
10	琉球古典舞踊と「琉歌」	琉歌について調べる	
11	組踊の「唱え」	組踊について調べる	
12	沖縄芝居	沖縄芝居について調べる	
13	村踊り（民俗芸能）	村踊りについて調べる	
14	琉球士族語と琉球文	琉球文について調べる	
15	ウチナーグチとシマ言葉	シマ言葉について調べる	
16	試験	試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：テキスト：コピーを配布する。 参考書：『大学的沖縄ガイド』		
	学びの手立て 「琉球文」を学ぶには「日本古文」の知識が必要である。		
	評価 試験80%・平常点（授業への取組）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

専門知識として必要な科目の一つとして、地域の文学である「琉球文学」を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学概論	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 文学作品は叙事文学、叙情文学、劇文学の三つのジャンルに分類される。奄美・沖縄・宮古・八重山の四つの諸島で展開されてきた文学を「琉球文学」と呼ぶが、「琉球文学」にはさまざまな歌謡・作品があり、三大ジャンルすべてがある。 本講義では「琉球文学」の定義、琉球文学のジャンル分類などを整理し、それぞれの歌謡・作品を紹介する。	メッセージ 「琉球文学」とは何か、どのような作品があるのか、初級者向けのやさしいテキストを使用して読み進めます。
	到達目標 「琉球文学」とは何か、どのようなジャンルがあるのかを理解し、それぞれの作品を読み味わう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「琉球文学」の定義	配付資料の読み返し
	2	琉球文学研究史	配付資料の読み返し
	3	歌謡①(テキストp. 18~64)	テキストの予習・復習
	4	歌謡②(〃)	〃
	5	歌謡③(〃)	〃
	6	歌謡④(〃)	〃
	7	歌謡⑤(〃)	〃
	8	琉歌①(テキストp. 66~78)	〃
9	琉歌②(〃)	〃	
10	琉球説話文学①(テキストp. 80~88)	〃	
11	琉球説話文学②(〃)	〃	
12	劇文学①(テキストp. 90~118)	〃	
13	劇文学②(〃)	〃	
14	琉球和文学(テキストp. 130~142)	〃	
15	琉球漢文学(テキストp. 144~152)	〃	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新編 沖縄の文学(増補・改訂版)』(高教組教育資料センター『新編 沖縄の文学』編集委員会編、沖縄時事出版、2008年) 参考文献：『沖縄文学全集 第二〇巻 文学史』(沖縄文学全集編集委員会編、国書刊行会、1991年)、『岩波講座日本文学史 第十五巻 琉球文学、沖縄の文学』(岩波書店、1996年)、その他、参考文献一覧を授業で配布する。		
	学びの手立て ・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。		
	評価 平常点(30%) 欠席5回以上は「不可」とする。期末試験(70%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学概論」で琉球文学の全体像を理解した後は、「琉球文学を読むⅠ・Ⅱ」で更に専門的な知識を深めてほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。本講義では、組踊の表現法をさまざまな視点から理解することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の持つ魅力や、セリフや歌に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思ひます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む
	2	組踊の誕生と歴史	組踊誕生の歴史背景について
	3	文学的表現（セリフの表現方法を中心に）	セリフの表現方法を考察する
	4	音楽的・舞踊的表現	歌や所作の表現方法を理解する
	5	作品研究「執心鐘入①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	6	「執心鐘入②」台本講読	執心鐘入の内容理解
	7	「執心鐘入③」台本講読	同上
	8	「執心鐘入④」台本講読	同上
	9	「二童敵討①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	10	「二童敵討②」台本講読	二童敵討の内容理解
	11	「二童敵討③」台本講読	同上
	12	「花売の縁①」映像鑑賞・音読割り振り	音読担当部分の自主練習
	13	「花売の縁②」台本講読	花売の縁の内容理解
	14	「花売の縁③」台本講読	同上
15	まとめ	上記3作品のまとめ	
16	試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。プリントや台本を随時配布します。			
学びの手立て 受講にあたって、以下を注意してください。①出席・遅刻の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を予定しています。④この講義は、組踊を地道にじっくりと読んでいきます。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤組踊についてのレポート（課題）を予定しています。			
評価 試験60%、レポート20%、せりふ音読等の授業参加度20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学及び琉球芸能の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。本講義では、「琉球文学特講Ⅰ」に続いて、組踊の表現をさまざまな視点から理解することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の持つ魅力や、セリフや歌に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思ひます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスを読む
	2	組踊の誕生と歴史	組踊誕生の歴史背景について考える
	3	文学的表現（セリフの表現方法を中心に）	セリフの表現方法を考察する
	4	音楽的・舞踊的表現	歌や所作の表現方法を理解する
	5	作品研究「銘苺子①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	6	「銘苺子②」台本講読	銘苺子の内容理解
	7	「銘苺子③」台本講読	同上
	8	「万歳敵討①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	9	「万歳敵討②」台本講読	万歳敵討の内容理解
	10	「万歳敵討③」台本講読	同上
	11	「雪払い①」映像鑑賞・音読割り振り	音読担当部分の自主練習
	12	「雪払い②」台本講読	雪払いの内容理解
	13	「雪払い③」台本講読	同上
	14	「雪払い④」台本講読	同上
15	まとめ	上記3作品のまとめ	
16	試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。プリントや台本を随時配布します。			
学びの手立て 受講にあたって、以下を注意してください。①出席・遅刻の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を予定しています。④この講義は、組踊を地道にじっくりと読んでいきます。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤組踊についてのレポート（課題）を予定しています。			
評価 試験60%・レポート20%・せりふ音読等の授業参加度20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学及び琉球芸能の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅠ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。各巻の代表するオモロを取り上げ、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
到達目標	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	配付資料の読み返し
	2	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」①	〃
	3	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」②	〃
	4	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」③	〃
	5	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」④	〃
	6	オモロ鑑賞①	〃
	7	オモロ鑑賞②	〃
8	オモロ鑑賞③	〃	
9	オモロ鑑賞④	〃	
10	オモロ鑑賞⑤	〃	
11	オモロ鑑賞⑥	〃	
12	オモロ鑑賞⑦	〃	
13	オモロ鑑賞⑧	〃	
14	オモロ鑑賞⑨	〃	
15	王府おもろ「五曲六節」	〃	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：なし。プリントを配布する。 参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善校注・ワイド版岩波文庫・2015年）、『琉球の歴史と文化－『おもろさうし』の世界－』（波照間永吉編・角川選書・2007年）、『おもろと琉歌の世界－交響する琉球文学－』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年）</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。 		
評価	平常点（30%）欠席5回以上は「不可」とする。 期末試験（70%）レポート提出により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。 「琉球文学概論」では琉球文学の全体像を紹介しているので、併せて受講してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅡ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。各巻の代表するオモロを取り上げ、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
到達目標	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	配付資料の読み返し
	2	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力①	嘉手苺2003 : p. 86~88
	3	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力②	嘉手苺2003 : p. 89~95
	4	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力③	嘉手苺2003 : p. 95~103
	5	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力④	嘉手苺2003 : p. 104~111
	6	オモロ鑑賞①	配付資料の読み返し
	7	オモロ鑑賞②	〃
8	オモロ鑑賞③	〃	
9	オモロ鑑賞④	〃	
10	オモロ鑑賞⑤	〃	
11	オモロ鑑賞⑥	〃	
12	オモロ鑑賞⑦	〃	
13	オモロ鑑賞⑧	〃	
14	オモロ鑑賞⑨	〃	
15	王府おもろ「五曲六節」	〃	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：なし。プリントを配布する。 参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善・ワイド版岩波文庫・2015年）、『琉球の歴史と文化ー『おもろさうし』の世界』（波照間永吉編・角川書店・2007年）、『おもろと琉歌の世界ー交響する琉球文学』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年）、その他講義内で紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。</p>		
評価	<p>平常点（30%）欠席5回以上は「不可」とする。 期末試験（70%）レポート提出により評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。 「琉球文学概論」では琉球文学の全体像を紹介しているので、併せて受講してほしい。</p>
-------	--